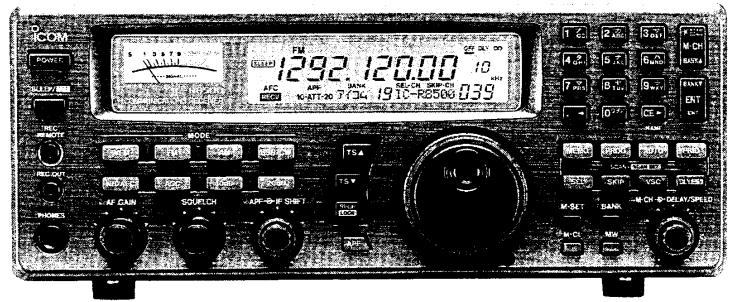


ICOM

取扱説明書

COMMUNICATIONS RECEIVER
IC-R8500



Icom Inc.

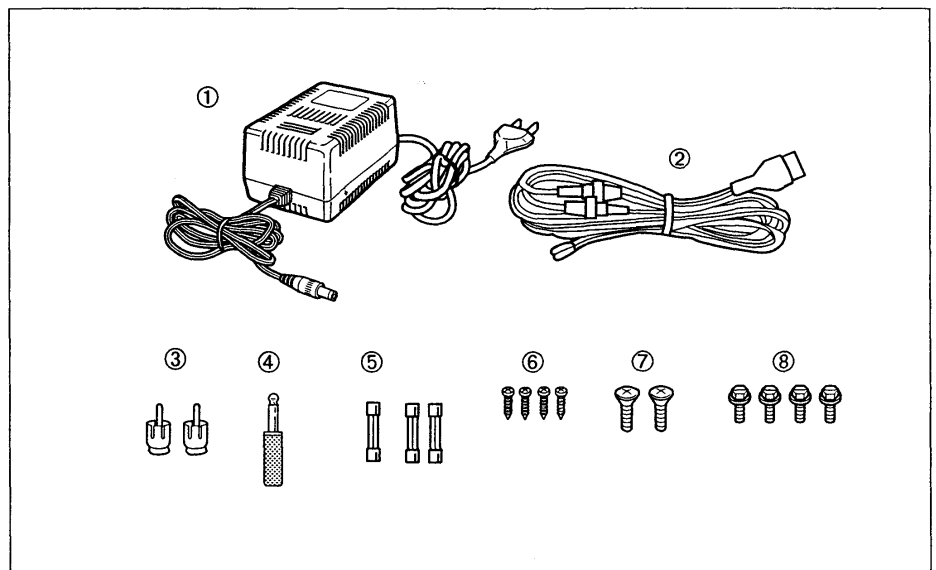
はじめに

このたびはIC-R8500をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本機は、アイコム通信技術の粋を結集して完成した通信型コミュニケーション・レシーバーです。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくと共に、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

付属品



- ① ACアダプター (AD-55J) 1
 - ② DC電源コード (OPC-023C) 1
 - ③ ピンプラグ (TP-M60) 2
 - ④ CSプラグ (AP-313 3.5φ) 1
 - ⑤ ヒューズ (FGMB 125V 3A) 1
 - (FGB 3A) 2
 - ⑥ タッピンネジ (C0 3×6) [MB-23 ゴム足用] 4
 - ⑦ 丸皿コネジ (M4×12 BS CR) [MB-23 キャリングハンドル用] 2
 - ⑧ 6角ボルト (M5×8 NI) [IC-MB12 モービルブラケット用] 4
- 取扱説明書
 - 愛用者カード
 - 保証書

目次

1. 安全上のご注意	1	7-6 セレクトモードスキャンについて	46
2. 各部の名称と機能	3	7-7 プログラムスキャンについて	47
2-1 前面パネル	3	7-8 プライオリティスキャンについて	50
2-2 ディスプレイ	9	7-9 オートメモリーライトスキャン について	51
2-3 後面パネル	11	7-10 複合スキャンについて	52
3. 設置と接続	12	8. スリープタイマー機能	53
3-1 後面パネルの接続	12	9. セットモードについて	54
3-2 設置について	13	9-1 セットモードについて	54
3-3 アンテナの接続	13	9-2 セットモードの設定方法	54
3-4 電源の接続	14	9-3 イニシャルセットモードの設定方法	55
3-5 アースの接続	15	10. 保守について	56
3-6 テープレコーダーの接続	15	10-1 清掃について	56
3-7 外部制御(リモート)について	16	10-2 リセットについて	56
4. 基本操作と受信のしかた	19	10-3 ヒューズの交換	56
4-1 初期設定と確認	19	10-4 トラブルシューティング	57
4-2 周波数の設定	21	11. 内部について	58
4-3 受信のしかた	23	12. オプションユニットの取り付け	59
5. 受信時に便利な諸機能	26	13. 定格	63
5-1 ノイズブランカーの運用	26	14. オプションについて	64
5-2 AFC(自動周波数制御)の運用	26		
5-3 センターメーターの運用	26		
5-4 アッテネーターの運用	27		
5-5 AGC(自動利得制御)の運用	27		
5-6 IF SHIFT(シフト)の運用	28		
5-7 APF(オーディオピークフィルター) の運用	28		
5-8 BFO周波数の補正	29		
6. メモリーの操作	30		
6-1 メモリーの運用	30		
6-2 メモリーの呼び出しかた	32		
6-3 メモリーチャンネルの変更	33		
6-4 メモリーへの書き込みかた	35		
6-5 メモリーの消去	36		
6-6 バンクネーム/メモリーネーム の入れかた	37		
7. スキャンの操作	39		
7-1 スキャンの運用	39		
7-2 スキャンを運用する前に	40		
7-3 スキャンセットモードの設定	43		
7-4 メモリースキャンについて	44		
7-5 セレクトメモリースキャンについて	45		

安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

- 『安全上のご注意』では、製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぐためのものです。
- お読みになったあとは、大切に保管してください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

■装置本体

- 万一煙が出ている、変なにおいがするなど異常のまま使用すると、火災の原因となることがあります。
すぐに電源スイッチを切り、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。
または、DC電源コネクターからDC電源コードを抜いてください。
煙が出なくなるのを確認し、販売店または弊社営業所サービス係に点検をご依頼ください。
- 雷が鳴り出したら、安全のため電源スイッチを切り、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。または、DC電源コネクターからDC電源コードを抜いてください。
またアンテナには、絶対にさわらないでください。
感電事故の恐れがあります。
- ガス管や配電盤に接地しないでください。
感電や漏電、火災の恐れがあります。
接地は、必ず市販のアース棒や、銅板を地中に埋めて本機のアース端子に接続してください。
- 内部の部品に金属や線材をあてないでください。
ショートして故障や火災の原因となる恐れがあります。
- 指定の電源電圧（DC 13.8V）以外の電圧で使用しないでください。
発火、火災などの原因となることがあります。
- DC電源コードを接続するときは、⊕（プラス）と⊖（マイナス）の極性を正しく接続してください。
火災、感電、故障の原因となることがあります。
- DC電源コードを接続するときは、付属または指定以外のDC電源コードを使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になることがあります。
- 指定以外のヒューズは使用しないでください。
またヒューズのないDC電源コードを使用しないでください。
発火、火災などの原因となることがあります。

■ACアダプターについて

- 電源コードを傷つけたり、破損させたり、加工したり、無理にまげたり、引張ったり、ねじったり、加熱しないでください。
傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になることがあります。
- 電源コードや接続コードの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。
傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になることがあります。
- 電源コードや接続ケーブルを抜き差しするときは、必ずプラグの部分を持って行ってください。
感電やショートして発火事故の原因になることがあります。
- 電源コードやプラグが傷ついたり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。
ショートして発火の恐れがあります。
- 本機を長時間使用されない場合は、ACコンセントから、プラグを抜いておいてください。
発熱、発火、火災の原因となることがあります。
- 長時間使用すると本体の温度が高くなります。
子供や周囲の人が本体に触れないようご注意ください。
火傷する恐れがあります。
設置するときは、風通しの良い場所へ設置してください。
- 本機を屋外で使用しないでください。
雨や降雪、海岸、水辺などの場所で本機を使用すると、本機に水が入り発火、感電、故障などの原因となります。

⚠ 注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- ぐらついた台の上や傾いたところ、振動の多い場所には設置しないでください。
落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因になることがあります。
- 直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- テレビやラジオの近くには設置しないでください。
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
- ぬれた手で電源プラグや機器に絶対触れないでください。
感電の原因になることがあります。
- オプションを組み込む以外は、製品のケースを開けないでください。
けが、感電、故障の原因になることがあります。
- 清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。
ケースが変質したり、塗装がはげる原因になることがあります。
普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。
- 製品の上に乗ったり、物を置いたりしないでください。
落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。
- 製品を落としたり、強い衝撃を与えないでください。
けが、故障の原因になることがあります。

■おことわり

ACアダプターを初めてご使用になるとき“変なにおい”がすることがありますが、これはトランスに塗られている“ニス”が蒸発するためで、故障ではありません。

■電波法上のご注意

電波法第59条で『特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。』と通信の秘密に関して定められています。

■故障のときは

本機は、すべて厳重な品質管理と厳しい検査により出荷されておりますが、万一故障が生じたときは、弊社各営業所サービス係まで、その状況をできるだけ具体的にご連絡ください。

●保証書について

保証書は販売店で所定事項（お買い上げ日、販売店名）を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

●修理を依頼されるとき

後記の『トラブルシューティング』（P57）にしたがって、もう一度調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

【保証期間中は】

お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

【保証期間後は】

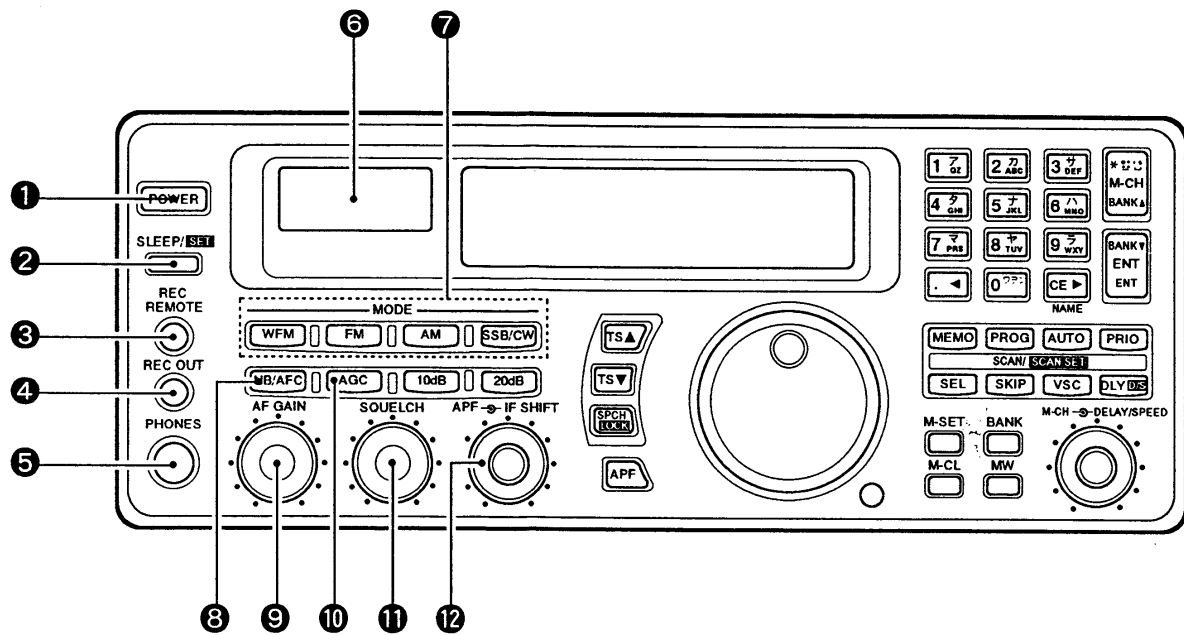
お買い上げの販売店にご連絡ください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

●アフターサービスについてわからないときは

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。

2-1 前面パネル

**① POWER (電源) スイッチ**

本機の電源をON/OFFするスイッチです。
スイッチを押し込むと電源がONとなり、再度押すとOFFになります。

② SLEEP (スリープタイマー) スイッチ (P53) SET (セットモード) スイッチ (P54)

■スイッチを短く押すと、スリープタイマー時間を設定するスイッチとして動作します。

スリープタイマー時間(120分→90分→60分→30分→OFF)を設定することができます。

スリープタイマー動作中は、ディスプレイに“SLEEP”が点灯します。

■スイッチを長く(約1秒)押すと、セットモードを呼び出します。

このセットモードでは下記の項目が設定できます。

項目	設定内容
DIMMER	HIGH↔LOW
BEEP	ON↔OFF
LOCK	DIAL↔PANEL
AUTO TS	ON↔OFF
HF ANT	50Ω↔500Ω

③ REC REMOTE (レコーダーリモート)

ジャック (P15)

本機のスケルチ回路の出力で内部のリレーを駆動し、テープレコーダーのREMOTE端子を制御するジャックです。

受信音を録音したいときに、テープレコーダーのリモートジャックに接続すると、スケルチが開いた(信号を受信した)ときだけ録音できます。

④ REC OUT (録音出力) ジャック (P15)

本機の低周波出力ジャックです。
テープレコーダーの外部入力端子(AUX端子など)に接続します。

AF GAIN(音量)ツマミに関係なく、一定レベルで出力されます。

⑤ PHONES (ヘッドホン) ジャック

ヘッドホンを接続するジャックです。
ヘッドホンのインピーダンスは4~16Ωです。
ステレオ用のヘッドホンも使用できますが、音声はモノラルで出力されます。
ヘッドホン使用時は、スピーカーからの音は出ません。

⑥ Sメーター

受信信号の信号強度を表示します。

⑦ MODE (電波型式) スイッチ (☞ P20)

受信する電波型式を選択するスイッチです。
選択された電波型式は、ディスプレイに表示されます。

スイッチ	電波型式
WFM	WFMモードの指定
FM	FM/FM NARモードの指定
AM	AM/AM WIDE/AM NARモードの指定
SSB/CW	USB/LSB/CW/CW NARモードの指定

※SSB/CWモードが設定されているときに、
〔SSB/CW〕スイッチを長く(約1秒)押し、
BFO周波数を可変することができます。

なお、可変範囲は10Hzステップで±1.2kHzまで設定できます。(☞ P29)

可変内容はバンクネーム、メモリーネーム表示部に表示されます。(詳しくは☞ P29参照)

※WFMモードは30MHz以上にならないと、選択できません。

⑧ NB (ノイズブランカー) スイッチ (☞ P26)

AFC (自動周波数制御) スイッチ (☞ P26)

NB(ノイズブランカー)とAFC(自動周波数制御)をON/OFFするスイッチです。

■NB(ノイズブランカー)は、SSB/CW/AMモード選択時に動作し、パルス性ノイズを減少して快適な受信ができます。

■AFC(自動周波数制御)は、WFM/FMモード選択時に動作し、受信周波数が変動しても自動追従します。

※FM/FM NARモード時:100Hzステップで同調する

WFMモード時 :1kHzステップで同調する

⑨ AF GAIN (音量) ツマミ (☞ P20)

受信音量を調整するつまみです。

つまみを時計方向に回すほど、スピーカーやヘッドホンからの受信音が大きくなります。

聞きやすい音量に調整してください。

⑩ AGC (自動利得制御) スイッチ (☞ P27)

AGC回路の時定数を切り替えるスイッチです。

WFM/FM以外のモードで動作し、“FAST”と“SLOW”を切り替えることができます。

FAST選択時、ディスプレイに“AGC-F”が点灯します。

⑪ SQUELCH (スケルチ) ツマミ (☞ P20)

無信号時の雑音(ザー)を消すスケルチ調整つまみです。

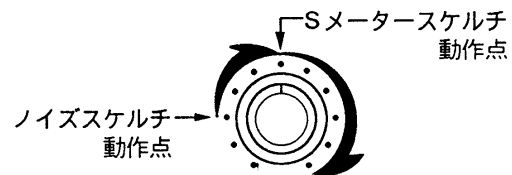
つまみを時計方向に回して雑音が消え、“**RECV**”表示が消える位置にセットします。

さらに回すと、Sメーターが振れだします。

Sメーターでセットした以上の受信信号だけを受信できる、Sメータースケルチ機能が動作します。

※ノイズスケルチは、FM/FM NAR/AM/AM WIDEモードで動作します。

※Sメータースケルチは、すべての電波型式で動作します。



⑫ IF SHIFT (IF シフト) ツマミ (☞ P28)

混信を除去するつまみです。

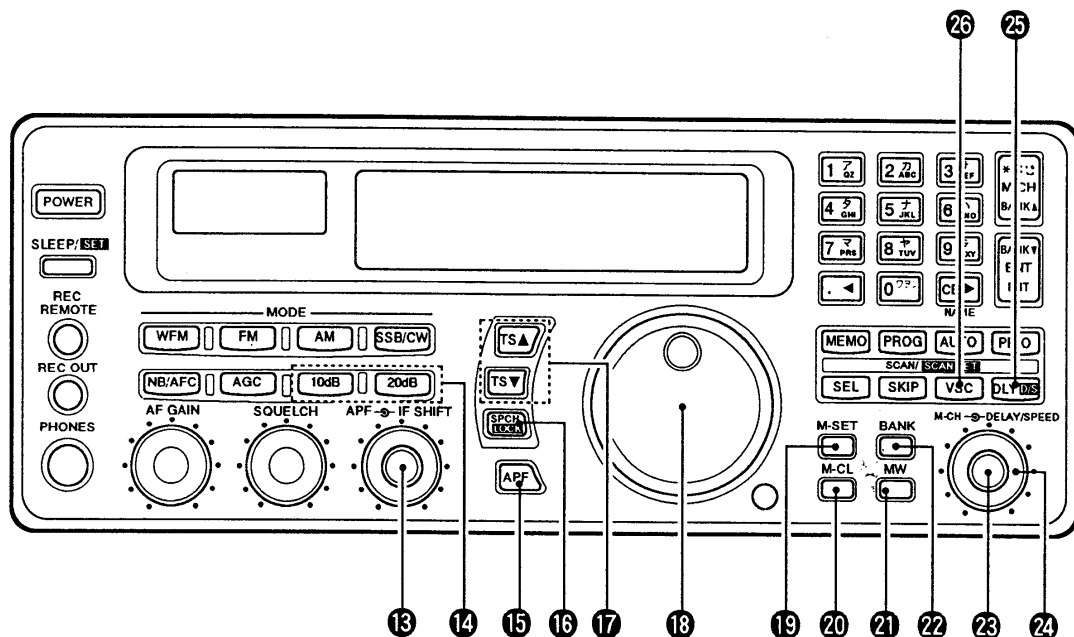
SSB/CWモード運用時に動作します。

つまみを回すと、IFフィルターの帯域中心周波数が上側または下側に移動(帯域幅は変化しません)

して、近接からの混信除去を行います。



2 各部の名称と機能



13 APF (オーディオピークフィルター) ツマミ (☞ P28)

APF (オーディオピークフィルター) 帯域のピーク周波数を可変するツマミです。

[APF] スイッチが“ON”のとき有効で、ツマミを時計方向に回すとピーク周波数が高域側に移動、逆に回すと低域側に移動します。

14 ATT (アッテネーター) スイッチ (☞ P27)

RF アンプへの入力信号を減衰するスイッチです。10 dB/20 dB スイッチにより、減衰量を3段階 (10 dB/20 dB/30 dB) に切り替え、強入力信号によるひずみを抑えることができます。

なお、30 dB のアッテネーターを選択するときは、10 dB と 20 dB のスイッチを押してください。

15 APF (オーディオピークフィルター) スイッチ (☞ P28)

オーディオピークフィルター回路を ON/OFF するスイッチです。

スイッチを短く押すごとに、オーディオピークフィルター回路を ON/OFF します。

オーディオピークフィルター回路が ON 時 (APF 表示点灯) に、スイッチを長く (約 1 秒) 押すごとに、オーディオピークフィルター回路の帯域 (ノーマル/ナロー) を切り替えることができます。

帯域のピーク周波数の可変は、[APF] ツマミで行います。

16 SPCH (音声合成) スイッチ (☞ P55) LOCK (ロック) スイッチ (☞ P54)

■ スイッチを短く押すと、音声合成で運用周波数を発声させるスイッチとして動作します。オプションの音声合成ユニット (UT-102) 装着時、スイッチを押すごとに運用周波数を日本語または英語で発声します。

■ スイッチを長く (約 1 秒) 押すと、メインダイヤルの機能を電氣的にロック (固定) するスイッチとして動作します。

スイッチを長く押すと、メインダイヤルの操作を行っても周波数は変化しません。再度押すと解除します。

なお、セットモード (☞ P54) でメインダイヤルまたは前面パネルの操作スイッチを固定するかを選択することができます。

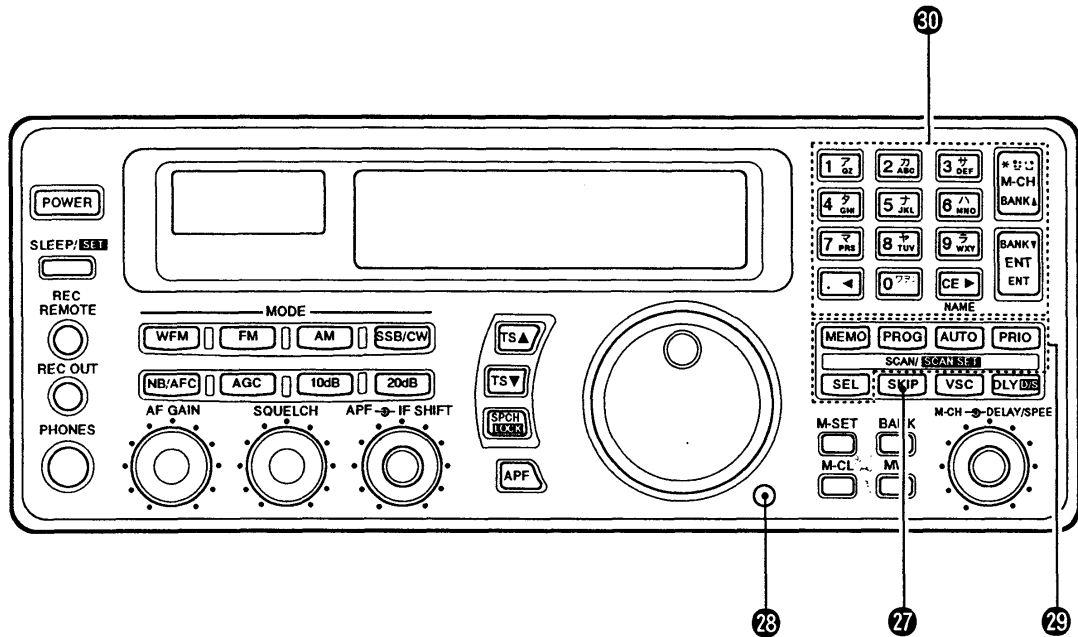
17 TS (チューニングステップ) スイッチ (☞ P22)

メインダイヤルのチューニングステップを切り替えるスイッチです。
[TS▲] (アップ) または [TS▼] (ダウン) スイッチを押して、10 Hz/50 Hz/100 Hz/1 kHz/2.5 kHz/5 kHz/9 kHz/10 kHz/12.5 kHz/20 kHz/25 kHz/100 kHz/1 MHz の中からチューニングステップを選択します。

また、0.5~199.5 kHz (0.5 kHz ステップ) の間でプログラブルチューニングステップを任意に設定することができます。

- ⑮ **メインダイヤル** (☞P22)
受信周波数およびセットモードなど、各機能の設定を行うダイヤルです。
ダイヤルを時計方向に回すと、設定しているチューニングステップで周波数がアップし、逆に回すとダウンします。
- ⑯ **M-SET (メモリーセット) スイッチ** (☞P35)
メモリーチャンネルの内容を記憶し、他のメモリーチャンネルに複写するスイッチです。
メモリーチャンネルを選択し、スイッチを押すと“M”表示が点灯し、その内容(周波数、モード、チューニングステップ、メモリーネームなど)を記憶します。
複写先のメモリーチャンネルを選択し、スイッチを押すと、記憶した内容を複写します。
- ⑰ **M-CL (メモリークリア) スイッチ** (☞P36)
不要になったメモリーチャンネルの内容を消去するスイッチです。
ピープ音が“ピッピピ”と鳴るまでスイッチを押すと、呼び出しているメモリーチャンネルの内容を消去し、ブランク状態にします。
※バンクネームは消去されません。
- ⑱ **MW (メモリーライト) スイッチ** (☞P35)
メモリーチャンネルへの書き込みを行うスイッチです。
ピープ音が“ピッピピ”と鳴るまでスイッチを押すと、セットした内容が指定のメモリーチャンネルに書き込まれ、記憶されます。
- ⑳ **BANK (バンク) スイッチ** (☞P31)
メモリーチャンネルの切り替えを、指定バンク内で切り替えるか、指定バンクを越えてすべてのメモリーチャンネルを切り替えるかを選択するスイッチです。
■スイッチを短く押して、“BANK”表示を点灯させたとき、メモリーチャンネルの切り替えは、指定バンク内となります。
再度押すと、“BANK”表示が消灯し、すべてのメモリーチャンネルを切り替えることができます。
■スイッチを長く(約1秒)押すと、バンク内のメモリーチャンネル数を増減させるスイッチとして動作します。
設定内容はバンクネーム、メモリーネーム表示部に表示されます。(詳しくは☞P33参照)
- ㉑ **M-CH (メモリーチャンネル) ツマミ** (☞P32)
メモリーチャンネルおよびセットモードなどの各機能を設定するつまみです。
時計方向に回すと、メモリーチャンネルがアップし、逆に回すとダウンします。
- ㉒ **DELAY (遅延時間) / SPEED (スキャンスピード) ツマミ** (☞P41)
DLY $\frac{D}{S}$ スイッチでDELAY選択時は、スキャン停止から再スタートまでの遅延時間の設定、SPEED選択時は、スキャン時のスキャンスピード調整つまみとなります。
つまみを時計方向に回すほど、DELAY選択時は遅延時間が長く、SPEED選択時はスキャンスピードが速くなります。
- ㉓ **DLY (スキャン再開条件) スイッチ** (☞P40)
 $\frac{D}{S}$ (D:遅延時間/S:スキャンスピード) スイッチ (☞P41)
■スイッチを短く押すと、スキャンの再開条件を選択するスイッチとして動作します。
●OFF: 受信信号がなくなるまで停止を続ける途中で受信信号がなくなると、約3秒後に再スタートする。
●DLY: DELAY/SPEEDつまみで設定した遅延時間だけ停止し、その後再スタートする。途中で受信信号がなくなると、約3秒後に再スタートする。
●∞: 受信信号にてスキャンを解除する。
※遅延時間は約3秒~18秒間を任意に設定できません。(詳しくは☞P41参照)
■スイッチを長く(約1秒)押すと、遅延時間またはスキャンスピードを設定するスイッチとして動作します。
設定内容はバンクネーム、メモリーネーム表示部に表示されます。(詳しくは☞P40参照)
- ㉔ **VSC (ボイススキャンコントロール) スイッチ** (☞P40)
ボイススキャンコントロール機能をON/OFFするスイッチです。
スイッチを押すと、ディスプレイに“VSC”が点灯し、ボイススキャンコントロール機能が動作します。
スキャン中、音声のない信号やビート音などの低周波信号で停止したときは、スキャンを再開します。
※ボイススキャンコントロール機能は、信号に音声信号が含まれているかどうかを識別します。

2 各部の名称と機能



- 27** SKIP (スキップ) スイッチ (☞P43)
 スキャン時のスキップ機能をON/OFFするスイッチです。
 スイッチを短く押すと、ディスプレイに“SKIP”が点灯し、メモリスキャン時は、“SKIP-CH”に指定したメモリーチャンネルをスキップします。プログラムスキャン時は、“SKIP-CH”に指定した周波数だけがスキップされます。
 スイッチを長く(約1秒)押すと、ディスプレイに“SKIP-CH”が点灯し、スキップチャンネルまたはスキップ周波数が指定されます。(☞P42)

- 28** ブレーキ調整ネジ
 メインダイヤルのトルク(重さ)を調整するネジです。
 ブレーキ調整ネジを時計方向に回すと重くなり、逆に回すと軽くなります。
 チューニングしやすい重さに合わせてご使用ください

- 29** スキャンスイッチ (☞P43)
 各種スキャン機能をスタート/ストップさせるスイッチです。
 スイッチはそれぞれ、下記のような動作をします。

■スキャンスイッチの動作

スイッチ	短く押したときの動作	長く(約1秒間)押したときの動作
MEMO	メモリスキャンをスタート/ストップさせる(☞P44)	1.スキャンバンクのAUTO/MANUALの設定(☞P43) 2.スキップスキャンのAUTO/MANUALの設定(☞P43)
PROG	プログラムスキャンをスタート/ストップさせる(☞P47)	プログラムスキャン用エッジチャンネルの設定(☞P43,47)
AUTO	オートライトスキャンをスタート/ストップさせる(☞P51)	オートライトメモリーへの書き込みをCL & START/STARTの設定(☞P43)
PRIO	プライオリティスキャンをスタート/ストップさせる(☞P50)	プライオリティチャンネル(周波数)の設定(☞P43,50)
SEL	セレクトメモリスキャンをスタート/ストップさせる(☞P45)	セレクトチャンネルの指定(☞P42)

※スキャンセットモード(☞P43)の内容はバンクネーム、メモリーネーム表示部に表示されます。
 セット項目の選択はM-CHツマミ、内容の設定はメインダイヤルで行います。

- ③ キーボード (P21、32、37)
 受信周波数、メモリーチャンネル、バンク切り替え、キャラクターコードなどを設定するキーボードです。

■テンキーの動作

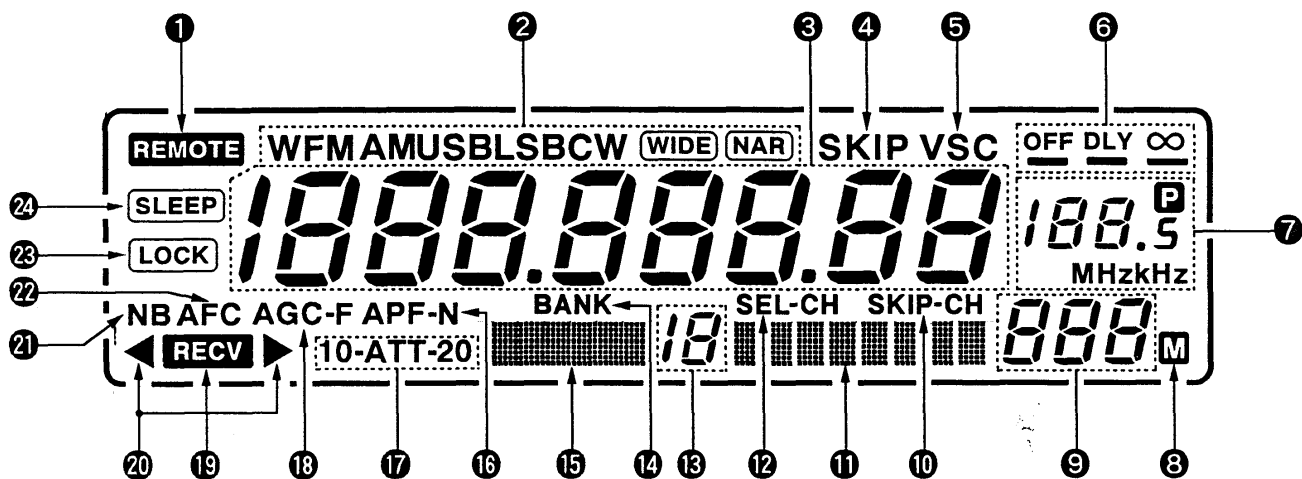
0-9 (テンキー)	受信周波数またはメモリーチャンネルの数値を入れる
(ポイントキー)	MHz桁を指定する
CE (クリアキー)	確定するまでに押しまちがえた数値を訂正する バンクネーム、メモリーネームの入力状態にする (BLANK CHは不可)
M-CH (メモリーチャンネルキー)	テンキーで入れたメモリーチャンネルの数値を確定する
BANK▲ (バンクアップキー)	バンクをアップ方向に切り替える 押し続けると連続動作となる
ENT (エンターキー)	テンキーで入れた受信周波数の数値を確定する
BANK▼ (バンクダウンキー)	バンクをダウン方向に切り替える 押し続けると連続動作となる

■バンクネーム、メモリーネーム用キャラクターリスト一覧表

1	ア→イ→ウ→エ→オ→ァ→ィ→ゥ→ェ→ォ→Q→Z→1→ア (エンドレスで切り替わる)
2	カ→キ→ク→ケ→コ→A→B→C→2→カ (エンドレスで切り替わる)
3	サ→シ→ス→セ→ソ→D→E→F→3→サ (エンドレスで切り替わる)
4	タ→チ→ツ→テ→ト→ッ→G→H→I→4→タ (エンドレスで切り替わる)
5	ナ→ニ→ヌ→ネ→ノ→J→K→L→5→ナ (エンドレスで切り替わる)
6	ハ→ヒ→フ→ヘ→ホ→M→N→O→6→ハ (エンドレスで切り替わる)
7	マ→ミ→ム→メ→モ→P→R→S→7→マ (エンドレスで切り替わる)
8	ヤ→ユ→ヨ→ャ→ュ→ョ→T→U→V→8→ヤ (エンドレスで切り替わる)
9	ラ→リ→ル→レ→ロ→W→X→Y→9→ラ (エンドレスで切り替わる)
.	カーソルを左側に移動する
0	ワ→ヲ→ン→0→ワ (エンドレスで切り替わる)
CE	カーソルを右側に移動する
M-CH	☐ → ` → ° → . → ' → - → * → : → ☐ (エンドレスで切り替わる)
ENT	入力したキャラクターを確定する

2 各部の名称と機能

2-2 ディスプレイ



- ① **REMOTE** (リモート) 表示部
本機が“CI-V”または“RS-232C”で外部リモートされていることを表示します。
- ② **MODE** (電波型式) 表示部
MODEスイッチで選択されている電波型式を表示します。
- ③ **周波数表示部**
運用周波数を表示します。
- ④ **SKIP** (スキップ) 表示部
スキップ機能が選択されていることを表示します。
- ⑤ **VSC** (ボイススキャンコントロール) 表示部
ボイススキャンコントロール機能が選択されていることを表示します。
- ⑥ **スキャン再開条件表示部**
スキャンストップの条件(再スタートまたは解除)を表示します。
- ⑦ **チューニングステップ表示部**
TSスイッチで選択された、チューニングステップを表示します。
プログラマブルチューニングステップが選択されているときは、“P”表示が点灯します。
- ⑧ **M** (一時保存) 表示部
M-SETスイッチにより、周波数を一時保存しているときに点灯します。
- ⑨ **メモリーチャンネル表示部**
M-CHスイッチで選択された、メモリーチャンネルを表示します。
- ⑩ **SKIP-CH** (スキップチャンネル) 表示部
スキップチャンネルが指定されていることを表示します。
- ⑪ **メモリーネーム表示部**
各メモリーチャンネルに8文字までのコメントを書き込むことができます。
なお、セットモード、イニシャルセットモード時は、設定項目を表示します。
- ⑫ **SEL-CH** (セレクトチャンネル) 表示部
セレクトチャンネルが指定されていることを表示します。
- ⑬ **バンクナンバー表示部**
BANKスイッチで選択された、バンクナンバーを表示します。
- ⑭ **BANK** (バンク) 表示部
バンクが指定されていることを表示します。
BANK表示が点灯しているとき、メモリーチャンネルの切り替えは、指定バンク内だけとなります。

15 バンクネーム表示部

各バンクに5文字までのコメントを書き込むことができます。

なお、セットモード、イニシャルセットモード時は、設定内容を表示します。

16 APF-N (オーディオピークフィルター) 表示部

オーディオピークフィルター機能が選択されていることを表示します。

17 アッテネーター表示部

アッテネータースイッチで選択された、減衰量を表示します。

18 AGC-F (自動利得制御) 表示部

自動利得制御機能の状態を表示します。

(AM/SSB/CWモードで動作)

- AGC-F 点灯：AGC機能のFASTが選択されていることを表示します。
- AGC-F 消灯：AGC機能のSLOWが選択されていることを表示します。

19 **RECV** (受信) 表示部

受信状態を表示します。

受信状態でスケルチが開いているときに点灯します。

20 センターメーター表示部

メインダイヤルでチューニング(同調)をとるときに、“◀” “▶” の両マークが消灯するように同調をとります。(WFM/FMモードで動作)

21 NB (ノイズブランカー) 表示部

ノイズブランカー機能が選択されていることを表示します。(SSB/CW/AMモードで動作)

22 AFC (自動周波数制御) 表示部

自動周波数制御機能が選択されていることを表示します。(WFM/FMモードで動作)

23 **LOCK** (ロック) 表示部

メインダイヤルまたは前面パネルの操作スイッチがロック(固定)されていることを表示します。

※メインダイヤルまたは前面パネルの操作スイッチの選択はセットモード(☞P54)で行います。

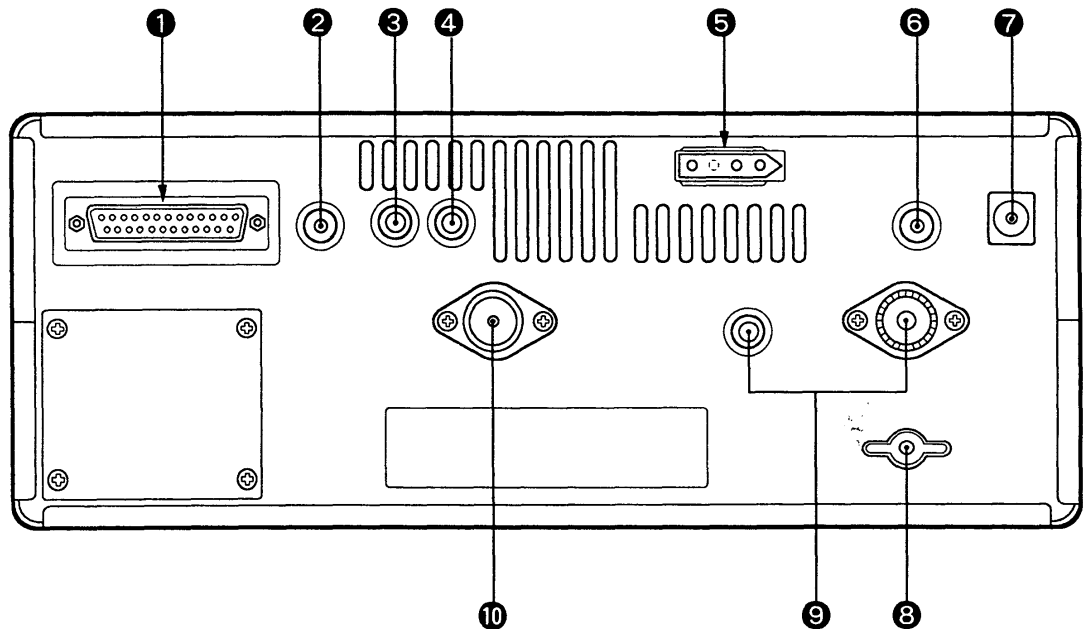
24 **SLEEP** (スリープタイマー) 表示部

スリープタイマー機能が動作していることを表示します。

スリープタイマー時間は、120分、90分、60分、30分の中から選択することができます。

2 各部の名称と機能

2-3 後面パネル



① RS-232C コネクター

RS-232Cケーブルを接続するコネクターです。RS-232Cケーブルを接続することにより、本機をパーソナルコンピュータで外部制御することができます。

② REMOTE (CI-V リモートコントロール) ジャック

CI-V方式で本機を外部制御するジャックです。オプションのCT-17 (CI-Vレベルコンバーター) を接続することにより、本機をパーソナルコンピュータで外部制御することができます。

③ IF OUT (IF 出力) ジャック

10.7 MHzのIF信号を出力するジャックです。オプションのTV-R7100J、または各種デモジュレーターおよびFMステレオ復調器などを自作したときに接続するジャックです。

④ AGC (自動利得調整) ジャック

HIインピーダンスのAGC出力が接続されています。オプションのTV-R7100Jと接続します。

⑤ DC (直流) 電源コンセント

本機をDC13.8Vで使用するときのコンセントです。付属のDC電源コードで外部電源装置 (DC13.8V) やバッテリー (DC12V) と接続します。

なお、付属のAD-55J (ACアダプター) を使用するときにはジャンパーコネクターを差し込んだ状態でご使用ください。

⑥ EXT SP (外部スピーカー) ジャック

外部スピーカーを接続するジャックです。

⑦ DC IN ジャック

付属のAD-55J (ACアダプター) からのDC出力を接続するジャックです。

⑧ GND (アース) 端子

アース線を接続する端子です。感電事故や他の機器からの妨害を防ぐため、必ずこの端子をアース線で接続してください。

⑨ 50Ω/500Ω ANT (アンテナ) 端子

周波数範囲 (0.1 MHz~30 MHz) のアンテナを接続する端子です。

50Ω端子 : インピーダンス50ΩのアンテナをM型同軸コネクターで接続します。

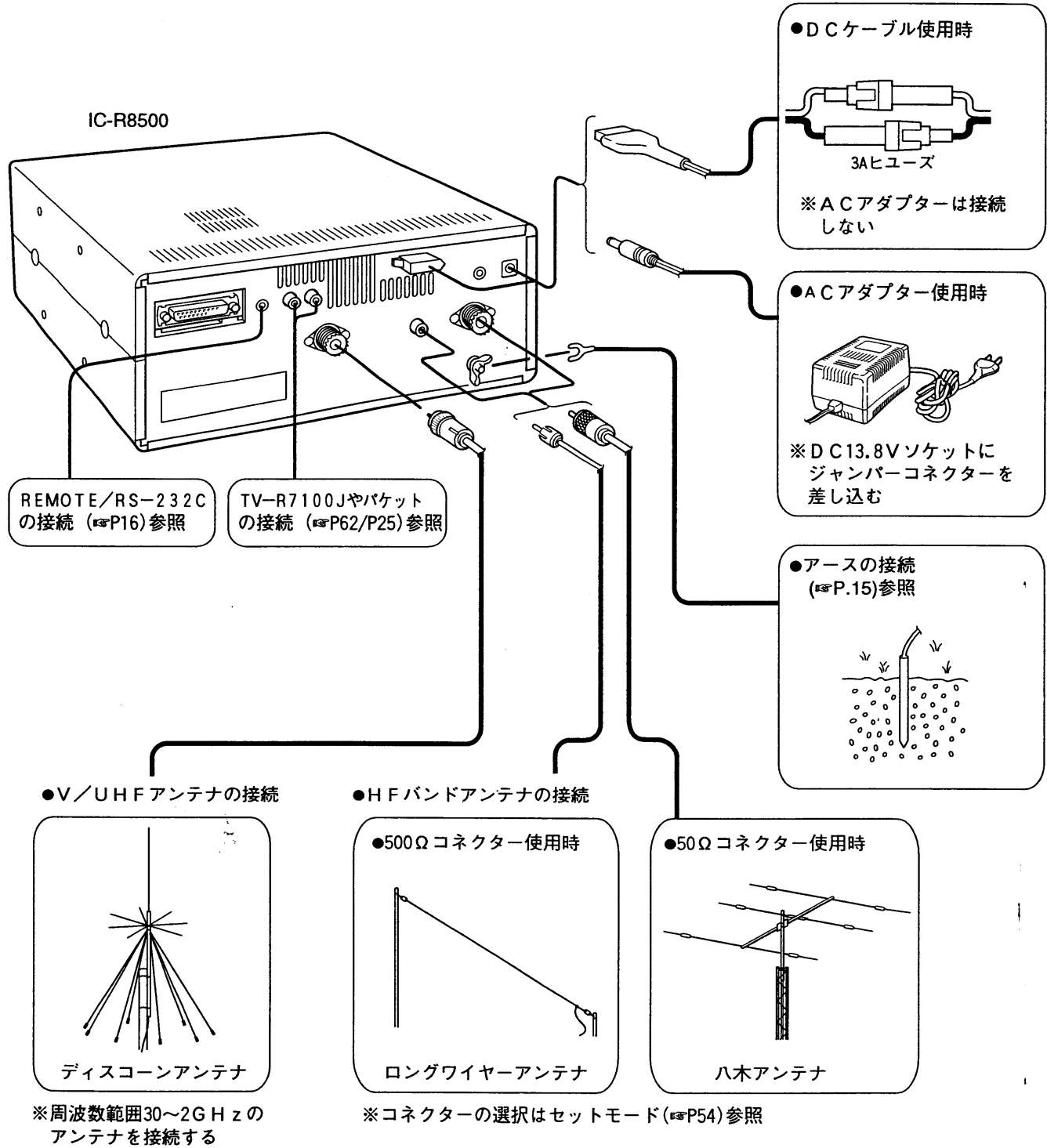
500Ω端子 : インピーダンス500Ωのワイヤーアンテナをピンプラグで接続します。

⑩ 50Ω ANT (アンテナ) 端子

周波数範囲 (30 MHz~2000 MHz) のアンテナを接続する端子です。

インピーダンス50ΩのアンテナをN型同軸コネクターで接続します。

3-1 後面パネルの接続



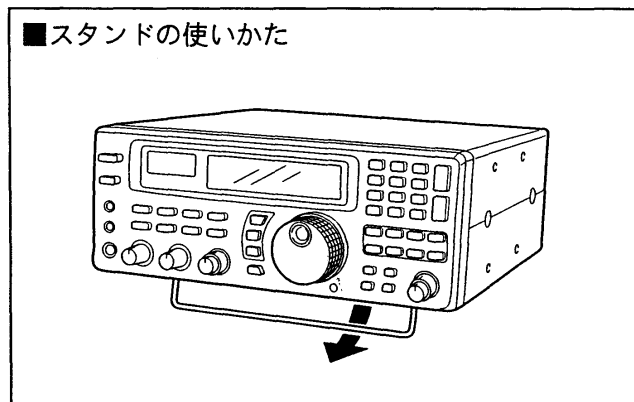
3 設置と接続

3-2 設置について

本機を設置する際は、直射日光のあたる場所、高温になる所、ほこりの多い所、極端に振動の多い所への設置はさけてください。

机の上などで運用されるときは、本機下カバー側に付いているスタンドをご利用ください。

■スタンドの使いかた



3-3 アンテナの接続

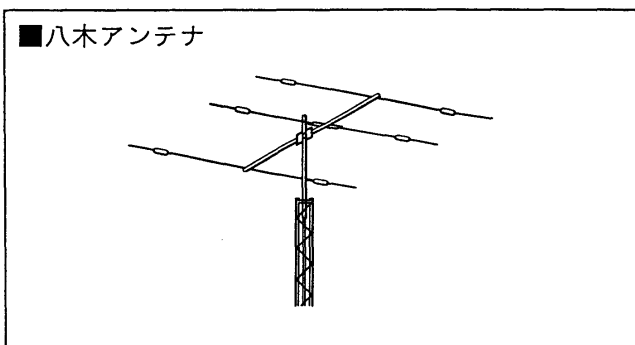
アンテナは本機の性能を十分に発揮させるためにも重要な部分です。

使用するアンテナは、受信をする周波数帯域や受信目的に合わせてお選びください。

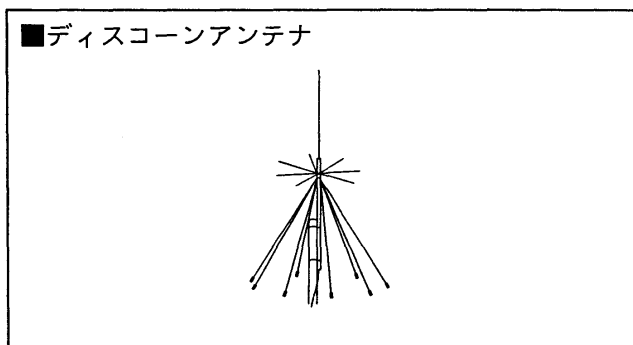
当社では、オプションとして超広帯域ディスコーンアンテナ (AH-7000) を用意しています。

ロングワイヤーアンテナを短波帯で使用するときには、受信感度を十分に得るためにもワイヤーの長さを最低10m以上とるようにしてください。

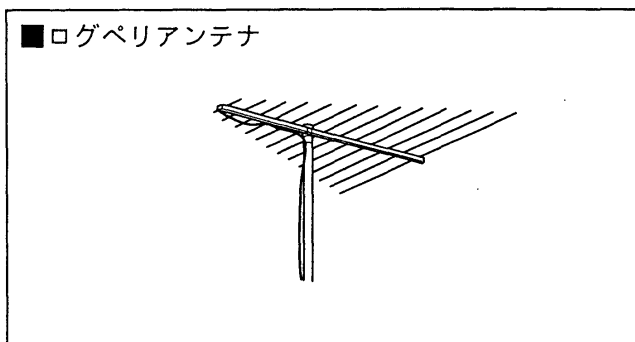
■八木アンテナ



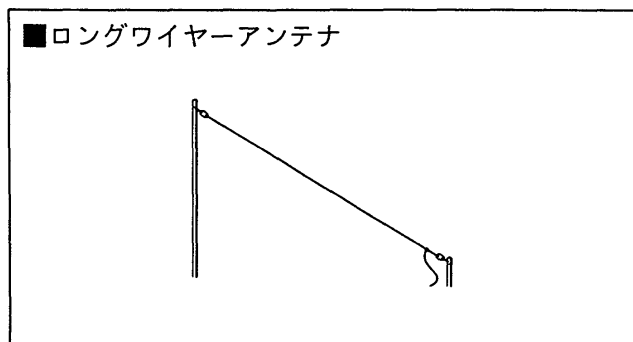
■ディスコーンアンテナ



■ログペリアンテナ



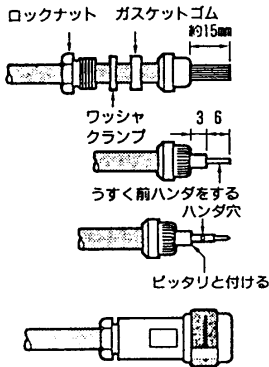
■ロングワイヤーアンテナ



■同軸コネクターの接続

アンテナに使用する同軸ケーブルと同軸コネクターは次のように取り付けてください。
同軸ケーブルと同軸コネクターはインピーダンス50Ωのものを使用してください。

■N型コネクターの取り付けかた



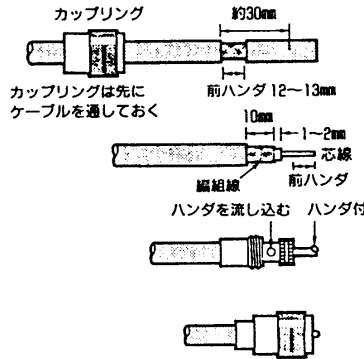
外被を除き、ロックナット、ワッシャ、ガスケットゴムを通し、外部編組をていねいに解く。

クランプを通して解いた編組を一本並べに広げ、余った編組を切落し、内部絶縁物、中心導線を寸法どおりに切断し、中心導線にうすく前ハンダをしてから中心コンタクトをハンダ付けする。

コネクタボディに入れ、ロックナットをしっかりと締め付ける。

●ガスケットとクランプの形は各種のものがあリワッシャを使わないものもあります。

■M型コネクターの取り付けかた



カップリングは先にケーブルを通しておく

ハンダを流し込む ハンダ付

●前ハンダ
コネクタ部でハンダ付けがしやすくなるようにうすくハンダ付けしておく部分です。

ナイフ・カッター等で外被を切り前ハンダがしやすいように外被を抜き取ってしまわずに、12~13mmの間をあけておく

外被を抜きとり、前ハンダした編組線を10mm程残して切りとり、内部絶縁体を1~2mm残して切りとる芯線にも前ハンダをしておく

芯線をコネクタに通し図のようにハンダ付けを行う

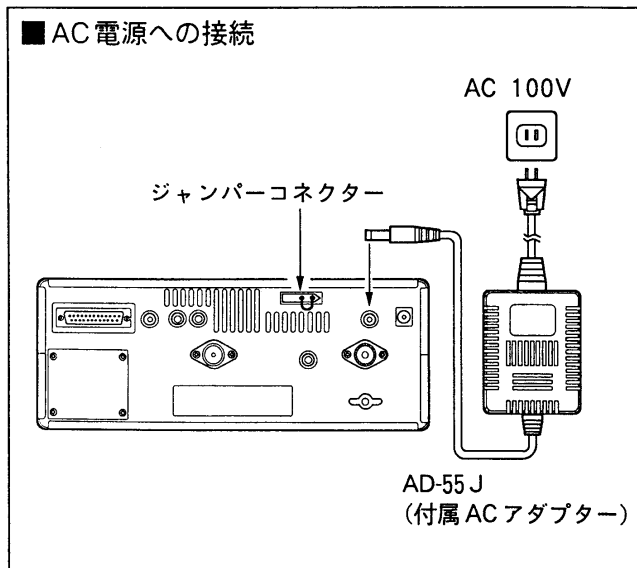
カップリングを図のようにコネクタのネジを越えるまではめ込んでおく

●ナイフ、カッター等を使用するときは、編組線、内部絶縁物等にキズをつけないように注意してください。

3-4 電源の接続

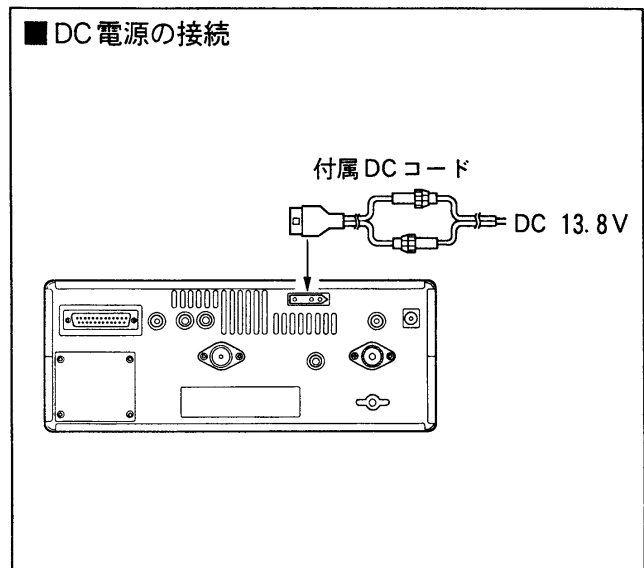
1. AC電源への接続

付属のAD-55J (ACアダプター) を家庭用電源コンセント (AC100V) に接続します。
AD-55JからのDC出力ケーブルを、本機後面パネルのDC INジャックに接続します。
※本機をAD-55Jで運用するときは、本機後面パネルのDC (直流) 電源コンセントにジャンパーコネクタを差し込んでおきます。



2. DC電源への接続

付属のDC電源コードで外部電源装置 (DC13.8V) またはバッテリー (DC12V) に接続します。



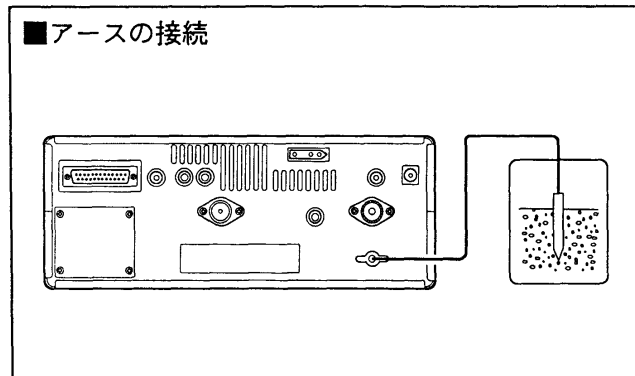
3 設置と接続

3-5 アースの接続

感電事故や他の機器からの妨害を未然に防ぐため、市販のアース棒や銅板などを地中に埋め、後面パネルのGND端子からできるだけ太い線で、最短距離になるように接続してください。

ご注意

ガス管や配電管などは危険ですから、絶対にアースとして使用しないでください。



3-6 テープレコーダーの接続

本機前面パネルのREC REMOTE ジャックとREC OUT ジャックをテープレコーダーに接続することにより、受信内容を簡単に録音することができます。

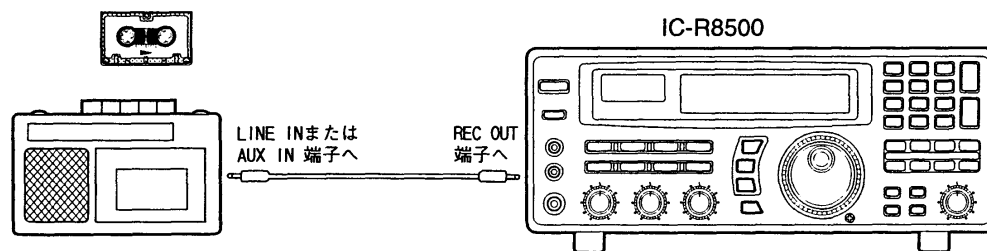
1. 常時録音する場合

常時録音する場合は、下図Aのように接続します。録音レベルは、AF GAIN ツマミに関係なく、一定レベルで録音されます。

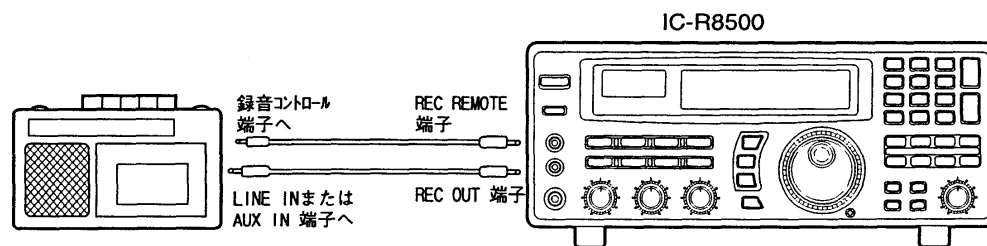
2. 録音制御する場合

録音制御する場合は、下図Bのように接続します。前面パネルのREC REMOTE ジャックの制御信号で、テープレコーダーを制御(信号を受信してスケルチが開いたときだけ録音)し、AF GAIN ツマミに関係なく、一定レベルで録音されます。また、VSC機能(☞P40)を利用して音声信号だけを録音することができます。さらに、REC SPCH機能(☞P55)を利用して、スキップ時の周波数を音声にて録音することができます。(オプションのUT-102装着時)

A 常時録音の接続



B 録音制御の接続



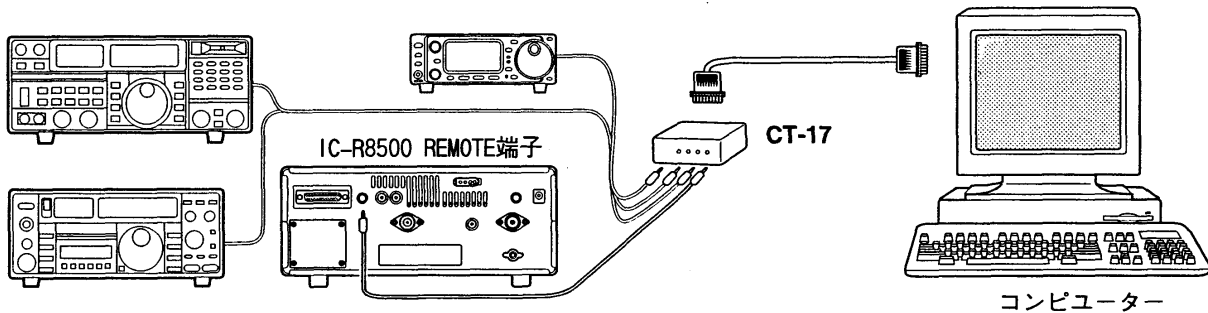
3-7 外部制御(リモート)について

本機はパーソナルコンピュータを接続することにより、周波数、電波型式などを外部からコントロールすることができます。

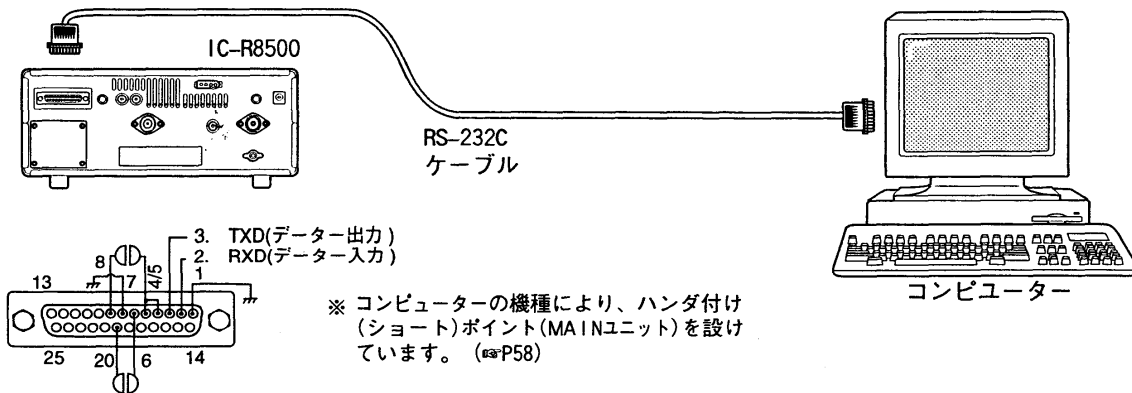
1.REMOTE (CI-V リモート) ジャックによる制御
 本機にオプションのCI-V レベルコンバーター (CT-17) を接続することにより、RS-232Cタイプのシリアルポートを持つパーソナルコンピュータで外部コントロールを楽しむことができます。
 制御は、ICOM Communication Interface V (CI-V) によるシリアル方式で行われます。

2.RS-232C コネクターによる制御
 本機とパーソナルコンピュータをRS-232Cケーブルで直接接続します。

■ REMOTE (CI-V) の接続



■ RS-232C の接続



■ CI-V のデータ設定について

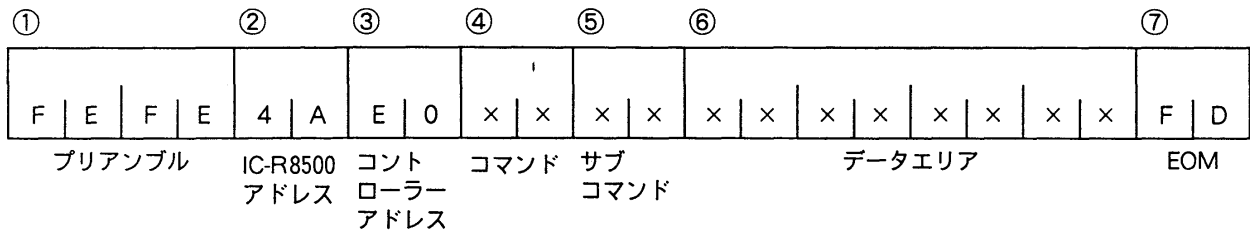
CI-V システムを利用して、本機を外部制御するとき、本機のアドレス、ボーレート、トランシーブ“ON/OFF”のデータが必要になります。
 これらのデータは、イニシャルセットモード (P55) で、すべてを設定することができます。

パーソナルコンピュータで、アイコム製のレシーバーおよびトランシーバーを制御する方法は、CT-17の取扱説明書およびCI-V解説書(有料)がありますので、弊社営業所サービス係にお問い合わせください。

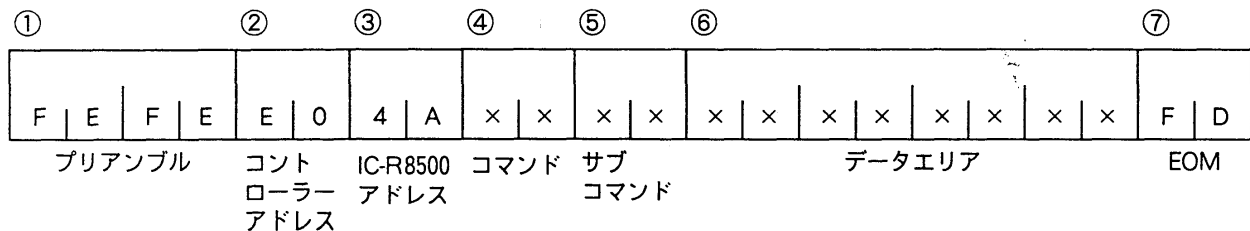
3 設置と接続

■ CI-Vの基本フォーマットについて

(1) コントローラー(パソコン) → レシーバー(IC-R8500)



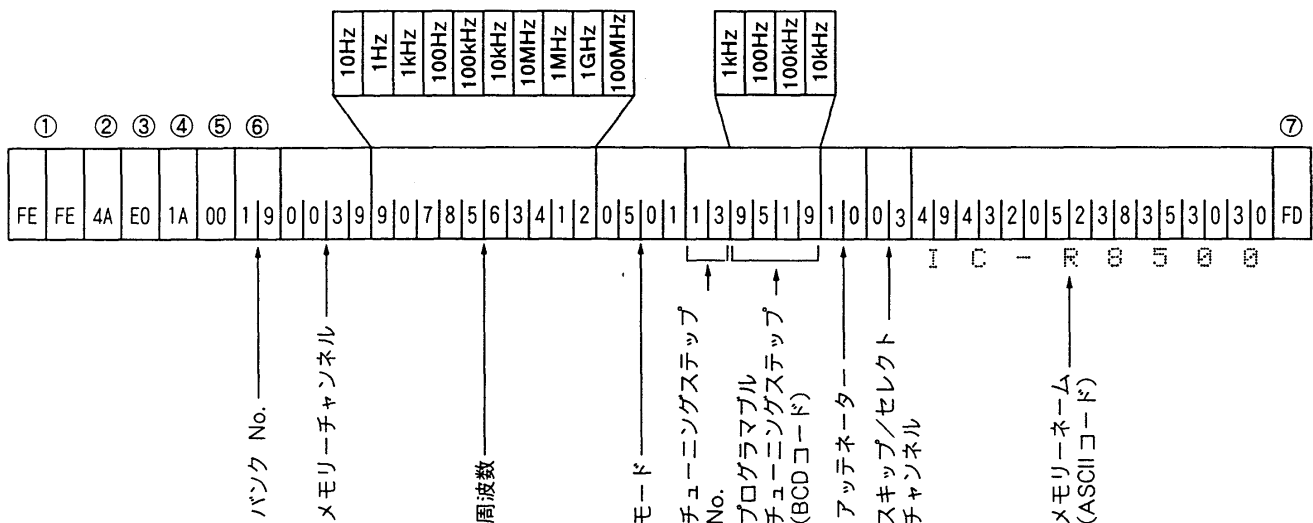
(2) レシーバー → コントローラー



- ①プリアンブル : データの初めに挿入する同期用コードで、16進の“FE”を2回送出します。
- ②本機のアドレス } IC-R8500のアドレスは“4AH”(16進)とし、コントローラーは“E0”としたとき
- ③コントローラーアドレス } の例を示しています。
- ④コマンド : コントロールできる機能を16進2桁コマンドとしています。(☞P18参照)
- ⑤サブコマンド : コマンド補足命令として、16進2桁を用います。(☞P18参照)
- ⑥データエリア : 周波数データなどをセットするエリアで、データにより可変長とします。
- ⑦ポストアンブル : メッセージの終わりを示すコードで、16進の“FD”とします。

■ 運用例(コマンド1A/00 メモリーデータ一括設定)

- バンク No.:19
- メモリーチャンネル:39CH
- 周波数:1,234,567,890Hz
- モード:FM
- チューニングステップ:199.5kHz
(プログラマブルチューニングステップ)
- アッテネーター:10dB
- スキップ:スキップチャンネルが指定される
- セレクト:セレクトチャンネルが指定される
- メモリーネーム:IC-R8500



■コマンド一覧表

コマンド	サブ	動 作
00		周波数データの設定 (トランシーブ)
01		モードデータの設定 (トランシーブ)
02		バンドエッジ周波数の読み込み
03		表示周波数の読み込み
04		表示モードの読み込み
05		周波数データの設定
06	0001	LSBモードの設定
	0101	USBモードの設定
	0202	AMモードの設定
	0201	AM NARモードの設定
	0203	AM WIDEモードの設定
	0301	CWモードの設定
	0302	CW NARモードの設定
	0501	FMモードの設定
	0502	FM NARモードの設定
	0601	WFMモードの設定
08		メモリーモードの設定
		メモリーチャンネルの設定
	A0	バンクナンバーの設定*
09		メモリーへの書き込み
0B		メモリークリア
0E	00	スキャンストップ
	02	プログラムスキャンスタート
	04	オートメモリーライトスキャンスタート
	22	メモリースキャンスタート
	23	セレクトメモリースキャンスタート
	24	セレクトモードスキャンスタート
	42	プライオリティスキャン
	B0	セレクトチャンネルの解除
	B1	セレクトチャンネルの設定
	C0	VSCをOFFにする
	C1	VSCをONにする
	D0	スキャン再開条件の“∞”を設定
	D1	スキャン再開条件の“OFF”を設定
	D3	スキャン再開条件の“DLY”を設定

■スキップ/セレクトチャンネルのデータ

データ	スキップチャンネルの設定	セレクトチャンネルの設定
00	OFF	OFF
01	ON	OFF
02	OFF	ON
03	ON	ON

※バンクナンバーのデータ

バンク名	データ	備 考
0~19	0~19	・プログラムスキャン用メモリーチャンネルのデータ 0P1=00, 0P2=01 ↓ 9P1=18, 9P2=19
FREE	20	
AUTO	21	
SKIP	22	
PROG	23	
PRI0	24	

コマンド	サブ	動 作
10	00	TSを10Hzにする
	01	TSを50Hzにする
	02	TSを100Hzにする
	03	TSを1kHzにする
	04	TSを2.5kHzにする
	05	TSを5kHzにする
	06	TSを9kHzにする
	07	TSを10kHzにする
	08	TSを12.5kHzにする
	09	TSを20kHzにする
	10	TSを25kHzにする
	11	TSを100kHzにする
	12	TSを1MHzにする
	13	プログラマブルTSの設定
11	00	ATTをOFFにする
	10	ATT10dBの設定
	20	ATT20dBの設定
	30	ATT30dBの設定
13	00	表示周波数の発声
14	01	AF GAINの設定
	03	SQUELCHレベルの設定
	04	IF SHIFTレベルの設定
	05	APFレベルの設定
	15	01
02		Sメータスケルチレベルの読み込み
16	10	AGCをOFFにする
	11	AGCをONにする
	20	NBをOFFにする
	21	NBをONにする
	30	APFをOFFにする
	31	APFをONにする
18	00	電源をOFFにする
	01	電源をONにする
19	00	本機のIDコードを読み込む
1A	00	メモリーチャンネル内容の設定と書き込み
	01	メモリーチャンネル内容の読み込み
	02	バンクネームの設定
	03	バンクネームの読み込み

4-1 初期設定と確認

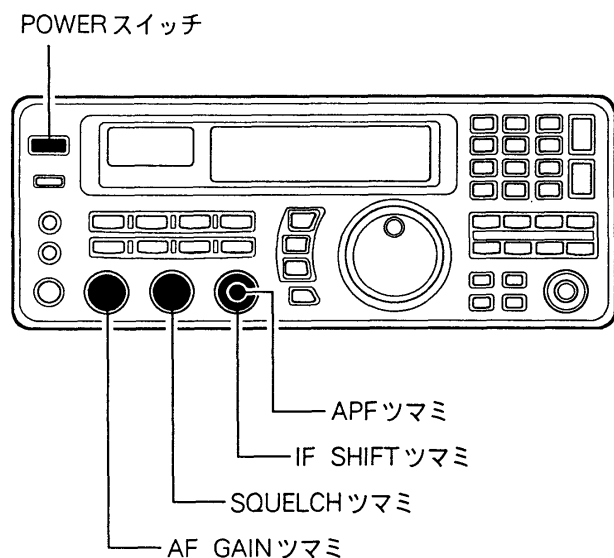
1. 準備と確認

本機を購入後、はじめて電源を投入する際には、必ず次の点をチェックしてください。

- ① ACまたはDC電源コードの接続は、間違いありませんか？
- ② アンテナの接続は、間違いありませんか？
- ③ アースは正しく接続されていますか？
- ④ 外部機器をご使用の場合は、接続に間違いありませんか？
- ⑤ 上記に異常がなければ、前面パネルのスイッチ・ツマミを次のようにセットします。

スイッチ	セット位置
POWER	OFF (■)

ツマミ	セット位置
AF GAIN	反時計方向に回し切る
SQUELCH	反時計方向に回し切る
APF	12時方向
IF SHIFT	12時方向



2. 電源の投入

初期設定ができましたら、POWERスイッチを押して、電源を入れます。

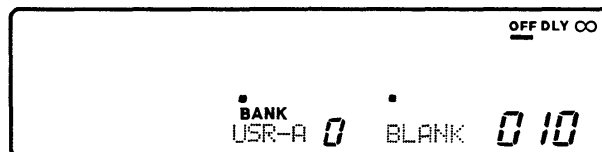
電源投入時は、電源を切る前の状態を記憶していますので、運用周波数、電波型式、メモリーチャンネルなどの状態を表示します。

■初期設定状態の表示



運用後は、電源を切る前の状態を表示する。

■ブランク状態の表示



■ご参考

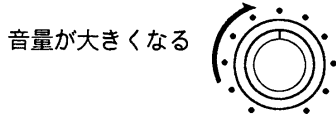
表示したメモリーチャンネルがブランク状態のときは、テンキーで任意の周波数を入力してください。

または、MODEスイッチを押すと、自動的に下記の周波数とチューニングステップが設定されます。

MODE スイッチ	周波数	チューニング ステップ
WFM	145.000.00 MHz	100 kHz
FM	145.000.00 MHz	10 kHz
AM	145.000.00 MHz	1 kHz
SSB/CW	145.000.00 MHz	100 Hz

3.AF GAIN (音量) の調整

[AF GAIN] ツマミを時計方向に回すと、“ザー”という雑音が聞こえてきますから、聞きやすい音量に調整してください。



4.SQUELCH (スケルチ) の調整

[SQUELCH] ツマミを時計方向にゆっくり回し、“ザー”という雑音が消え、“**RECV**”が消える位置にセットしてください。(ノイズスケルチ調整)

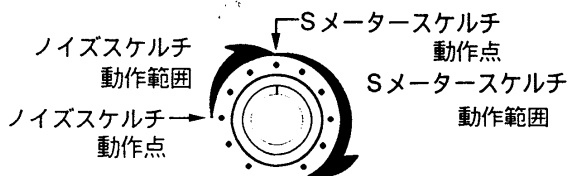
さらに回して行くと、Sメーターが振れだしますから、希望の位置にセットします。

(Sメータースケルチ調整)

Sメータースケルチの場合、セットしたSメーターの指示以下の受信信号は制限され、指示以上の信号だけを受信することができます。

※ノイズスケルチは、FM/FM NAR/AM/AM WIDEモードで動作します。

※Sメータースケルチは、すべての電波型式で動作します。



5.受信モードの選択

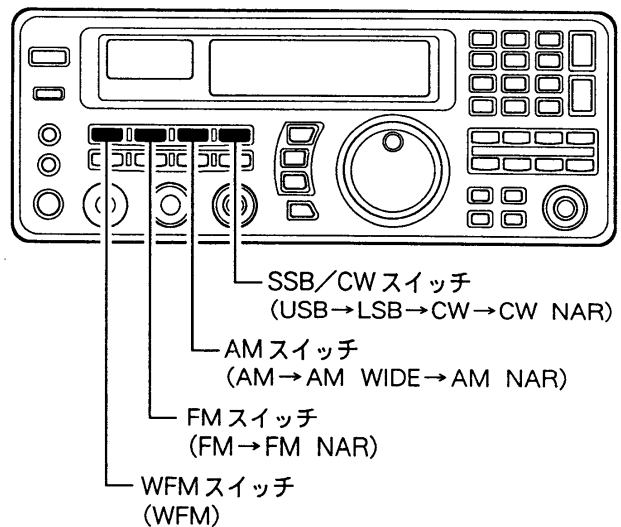
受信する放送や通信の電波型式に合わせて、受信モードを選択します。

受信モードの選択は、MODEスイッチで行います。

※ブランク状態のメモリーチャンネルで、MODEスイッチを押すと、自動的に“145.000.00MHz”の周波数とモード別のチューニングステップが設定されます。(☞P19参照)

モード	用途
WFM(※)	テレビ放送やFMラジオ放送などで使用している電波型式
FM	VHF/UHF帯の業務用無線、アマチュア無線などで使用している電波型式
AM	一般のラジオ(BC、短波)放送、CB無線、VHF/UHF帯の航空無線などで使用している電波型式
USB LSB	USBは業務無線(おもにHF帯)や10MHz以上のアマチュア無線などで使用している電波型式 LSBは、7MHz以下のアマチュア無線などで使用している電波型式
CW	電信(モールス信号)波を受信するときに使用する電波型式

※WFMモードは30MHz以上にならないと、選択できません。



ご注意
SSB/CWモードを設定しているときに、[SSB/CW]スイッチを長く(約1秒)押すと、BFO周波数補正モード(☞P29)になりますので、ご注意ください。
まちがえて押したときは、もう一度[SSB/CW]スイッチを押してください。

4 基本操作と受信のしかた

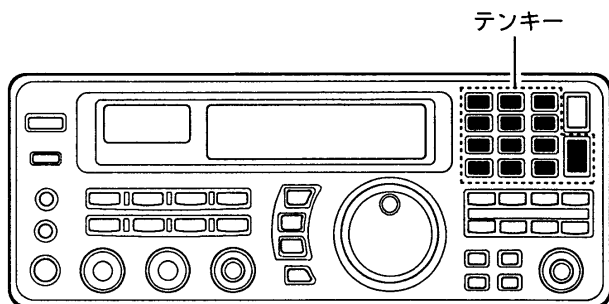
4-2 周波数の設定

周波数を設定するには、テンキーによるダイレクトエンターとメインダイヤルによるマニュアルチューニングがあります。

1. テンキーによる設定

受信したい放送や通信の周波数がわかっている場合、または呼び出したメモリーチャンネルがブランク状態の場合などに、テンキーでダイレクトに周波数を設定できます。

- ①テンキーで希望する周波数を上位桁からキー入力すると、それまで表示していた周波数が消え、キー入力した数値が右端(10 Hz 桁)から表示されます。
- ②さらにキー入力すると、表示は順次左側にシフトして行きます。
- ③MHz 桁までの数値をキー入力したあとで、“[.]” (ポイント) キーを押すと、それまでに入力された数値がMHz 桁表示部へシフトします。
- ④100 kHz 以下の数値が“0”のときは、“[ENT]” (エンター) キーを押すことによりキー入力の操作を省略することができます。
※省略しないで最終桁まで入力したときも、必ず “[ENT]” キーを押してください。
- ⑤数値を押し間違えたときは、“[CE]” (クリア) キーを押して再入力してください。
- ⑥周波数を設定すると、自動的にFMモードが指定されます。



■操作例

《例1》0.810.00 MHz の設定

[0] [.] [8] [1] [ENT] と押します。

《例2》7.100.00 MHz の設定

[7] [.] [1] [ENT] と押します。

《例3》145.500.00 MHz の設定

[1] [4] [5] [.] [5] [ENT] と押します。

《例4》1296.450.00 MHz の設定

[1] [2] [9] [6] [.] [4] [5] [ENT] と押します。

《例5》1296.450.00 MHz から

1296.780.00 MHz を設定する

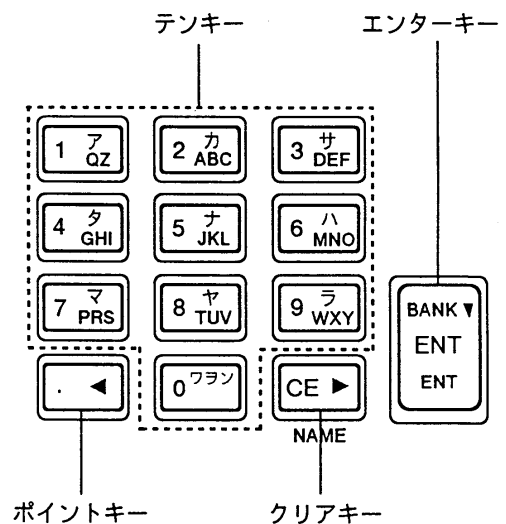
[.] [7] [8] [ENT] と押します。

ご注意

ブランク状態で設定した周波数は、メモリーチャンネルに必ず書き込んでください。

(書き込みについてはP35参照)

書き込まないでメモリーチャンネルを切り替えると、周波数は消去され元のブランク状態になります。



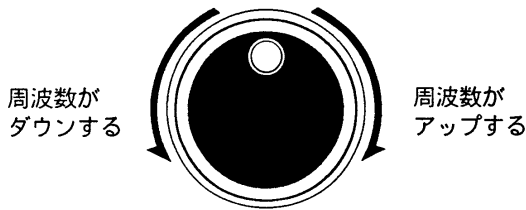
2. メインダイヤルによる設定

受信したい放送や通信の周波数がわからない場合、または正確な同調をとる場合に使用します。

- ① テンキーで希望の周波数を設定します。
- ② メインダイヤルを時計方向に回すと周波数がアップし、逆に回すとダウンします。
- ③ Sメーターが最もよく振れ、目的信号が明瞭に聞こえるように、メインダイヤルを回して同調をとります。

なお、WFM、FM、FM NARモードで同調をとるときは、センターメーターの“◀”“▶”表示が消灯し、“**RECV**”表示が点灯するようにします。

メインダイヤル



センターメーター表示部

3. チューニングステップについて

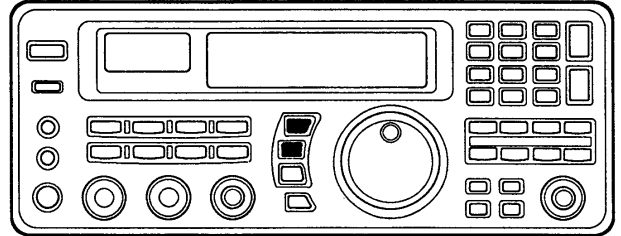
メインダイヤルで周波数を可変するときのチューニングステップを、〔TS▲〕(アップ)スイッチまたは〔TS▼〕(ダウン)スイッチで設定します。チューニングステップの種類は、10 Hz/50 Hz/100 Hz/1 kHz/2.5 kHz/5 kHz/9 kHz/10 kHz/12.5 kHz/20 kHz/25 kHz/100 kHz/1 MHzおよび任意で設定できるプログラマブルチューニングステップの14種類があります。プログラマブルチューニングステップは0.5~199.5 kHz (0.5 kHzステップ)の間で任意に設定することができます。



チューニングステップ表示部

A チューニングステップの設定

- ① 〔TS▲〕スイッチを押すと、チューニングステップがアップ方向に切り替わります。
- ② 〔TS▼〕スイッチを押すと、チューニングステップがダウン方向に切り替わります。なお、押し続けると連続動作になります。

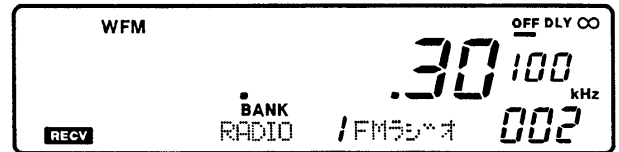


B プログラマブルチューニングステップの設定

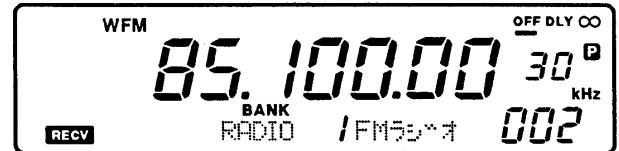
《例》30 kHzを設定する

- ① テンキーで〔3〕〔0〕を入力します。
- ② 表示している周波数が消え、入力した数値〔30〕が表示されます。
- ③ 〔TS▲〕スイッチまたは〔TS▼〕スイッチを押すと、30 kHzのプログラマブルチューニングステップが設定されます。このとき、チューニングステップ表示の右上に“**P**”表示が点灯します。

• テンキーで〔3〕〔0〕と入力する



• 〔TS▲〕または〔TS▼〕スイッチを押す



“**P**”表示が点灯し、30 kHzのチューニングステップが設定される

■ チューニングステップ操作時のご注意

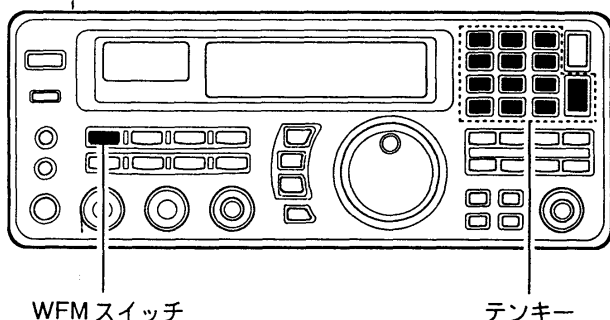
チューニングステップを変更し、メインダイヤルで周波数を変更した場合は、設定したチューニングステップ(100 kHzステップ以下)未満の桁は“0”にクリアします。チューニングステップが1 MHzまたはプログラマブルチューニングステップ設定値未満の桁はクリアしません。

4 基本操作と受信のしかた

4-3 受信のしかた

1. FM ラジオ放送の受信

《例.FM 大阪の受信》



- ① MODEスイッチの[WFM]を押して、WFMモードを設定します。
- ② テンキーで周波数を入力します。
[8] [5] [.] [1] [ENT] と入力します。
- ③ 以上の設定により、FM大阪のラジオ放送が聞こえてきます。

2. テレビ放送の受信

《例.1チャンネルの音声受信》



- ① MODEスイッチの[WFM]を押して、WFMモードを設定します。
- ② テンキーで周波数を入力します。
[9] [5] [.] [7] [5] [ENT] と入力します。
- ③ 以上の設定により、テレビ放送(1CHの音声)が聞こえてきます。

■ TV 放送 (音声) の周波数表

チャンネル	周波数	チャンネル	周波数	チャンネル	周波数
V H F	1 CH 95.75 MHz	U H F	22 CH 529.75 MHz	U H F	43 CH 655.75 MHz
	2 CH 101.75 MHz		23 CH 535.75 MHz		44 CH 661.75 MHz
	3 CH 107.75 MHz		24 CH 541.75 MHz		45 CH 667.75 MHz
	4 CH 175.75 MHz		25 CH 547.75 MHz		46 CH 673.75 MHz
	5 CH 181.75 MHz		26 CH 553.75 MHz		47 CH 679.75 MHz
	6 CH 187.75 MHz		27 CH 559.75 MHz		48 CH 685.75 MHz
	7 CH 193.75 MHz		28 CH 565.75 MHz		49 CH 691.75 MHz
	8 CH 197.75 MHz		29 CH 571.75 MHz		50 CH 697.75 MHz
	9 CH 203.75 MHz		30 CH 577.75 MHz		51 CH 703.75 MHz
	10 CH 209.75 MHz		31 CH 583.75 MHz		52 CH 709.75 MHz
U H F	11 CH 215.75 MHz	U H F	32 CH 589.75 MHz	U H F	53 CH 715.75 MHz
	12 CH 221.75 MHz		33 CH 595.75 MHz		54 CH 721.75 MHz
	13 CH 475.75 MHz		34 CH 601.75 MHz		55 CH 727.75 MHz
	14 CH 481.75 MHz		35 CH 607.75 MHz		56 CH 733.75 MHz
	15 CH 487.75 MHz		36 CH 613.75 MHz		57 CH 739.75 MHz
	16 CH 493.75 MHz		37 CH 619.75 MHz		58 CH 745.75 MHz
	17 CH 499.75 MHz		38 CH 625.75 MHz		59 CH 751.75 MHz
	18 CH 505.75 MHz		39 CH 631.75 MHz		60 CH 757.75 MHz
	19 CH 511.75 MHz		40 CH 637.75 MHz		61 CH 763.75 MHz
	20 CH 517.75 MHz		41 CH 643.75 MHz		62 CH 769.75 MHz
21 CH 523.75 MHz	42 CH 649.75 MHz				

ご注意

設定した内容が必要なときは、必ずメモリーチャンネルに書き込んでください。(P35)
ビープ音が“ピッピ”と鳴るまで[MW]スイッチを押すと書き込むことができます。

■ご参考

※FM ラジオ放送のチューニングステップは、100 kHzが便利です。

※テレビ放送(音声)のチューニングステップは、1 MHzが便利です。

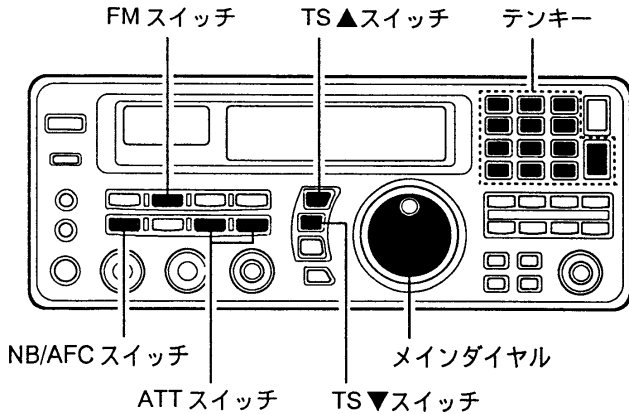
※メインダイヤルで同調をとる場合は、センターメーターをご利用ください。(P26)

- ◀点灯：同調周波数が高いことを表示しています。(周波数をダウンしてください)
- ▶点灯：同調周波数が低いことを表示しています。(周波数をアップしてください)

3. アマチュア無線の受信

(例.430MHz帯FMモードの受信)

※アマチュア無線では他にSSB/CW/AMモードが使用されています。



①MODEスイッチの〔FM〕を押して、FMモードを設定します。

〔FM〕スイッチを押すごとに、FM→FM NARとモードが切り替わります。

※〔SSB/CW〕スイッチを押すごとに、USB→LSB→CW→CW NAR→とモードが切り替わります。アマチュア無線では、一般に7MHz以下でLSB、10MHz以上はUSBモードを使用しています。

②テンキーで周波数を入力します。

〔4〕〔3〕〔5〕〔ENT〕と入力します。

③〔TS▲〕または〔TS▼〕スイッチを押して、20kHzのチューニングステップを設定します。

④メインダイヤルを回して、チューニング(同調)します。

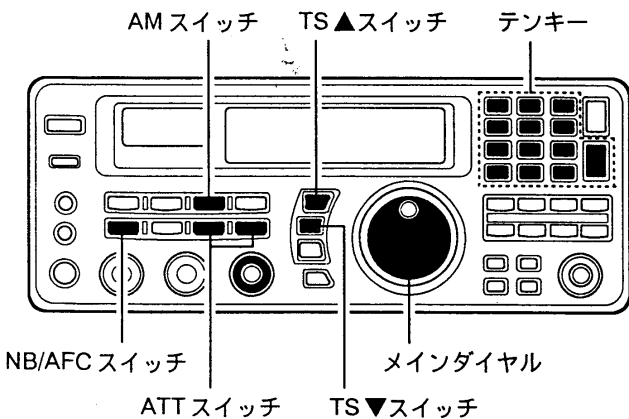
■ご参考

※受信信号が強力すぎて受信音がひずむときは、〔ATT〕スイッチをONにします。(☞P27)

※メインダイヤルで同調をとる場合は、センターメーターをご利用ください。(☞P26)

- ◀点灯：同調周波数が高いことを表示しています。(周波数をダウンしてください)
- ▶点灯：同調周波数が低いことを表示しています。(周波数をアップしてください)

4. エアバンドの受信



①MODEスイッチの〔AM〕を押して、AMモードを設定します。

〔AM〕スイッチを押すごとに、AM→AM WIDE→AM NARとモードが切り替わります。

②テンキーで周波数を入力します。

〔1〕〔1〕〔8〕〔・〕〔5〕〔ENT〕と入力します。

③〔TS▲〕または〔TS▼〕スイッチを押して、10kHzのチューニングステップを設定します。

④メインダイヤルを回して、チューニング(同調)します。

■ご参考

※受信時にパルス性ノイズが多いときは、〔NB〕スイッチをONにします。(☞P26)

※受信信号が強力すぎて受信音がひずむときは、〔ATT〕スイッチをONにします。(☞P27)

4 基本操作と受信のしかた

5. パケット通信の受信

パケット (PACKET) の受信を行うときは、パケット通信用 (Terminal Node Controller) と、ターミナルとなるパーソナルコンピューターを接続します。

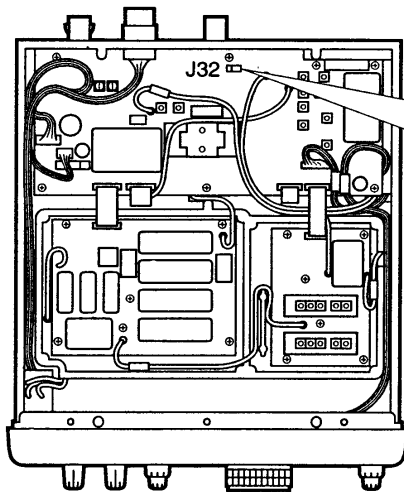
■9600 bps について

後面パネルの AGC 端子の出力を切り替えることにより、9600 bps のデータ通信に対応することができます。

本機の MAIN ユニットにある、J32 のショートピンを差し替えてください。(下図参照)

※FMモードのみの検波出力が出力されます。

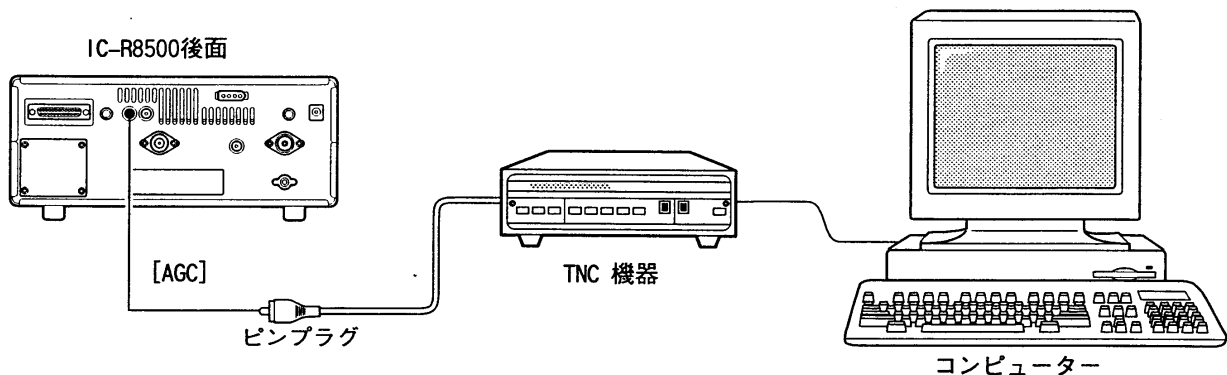
■ J32 (MAIN ユニット) の切り替え



AGC電圧出力
(出荷時の状態)

検波信号ダイレクト出力
●出力インピーダンス：4.7k Ω
●検波出力：約200mVrms
[3.5kHz/Dev, AF 1kHz時(無負荷)]

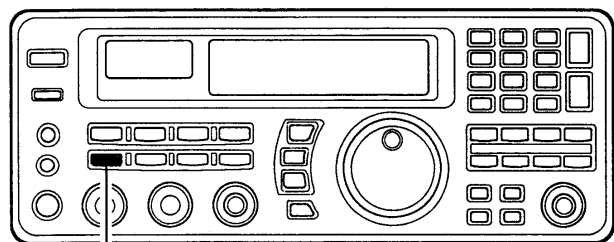
■接続のしかた



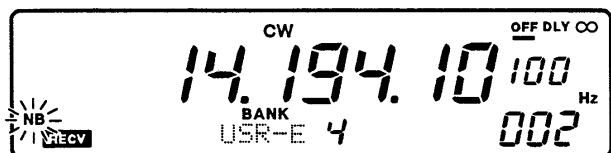
■受信のしかた

- ① MODEスイッチの [FM] を押して、FMモードを設定します。(9600 bps のみ)
- ② メインダイヤルを微調整して、目的の信号が正しく復調するように調整します。
- ③ ご使用になる TNC の取扱説明書にしたがって、運用してください。

5-1 ノイズブランカーの運用



NB/AFCスイッチ

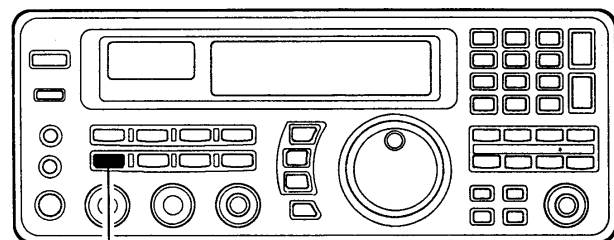


自動車のイグニッションノイズのようなパルス性ノイズが多いときに使用します。

SSB/CW/AMモードで動作します。

[NB/AFC]スイッチを押すと、ディスプレイに“NB”が点灯し、パルス性ノイズを低減して快適な受信ができます。

5-2 AFC (自動周波数制御) の運用



NB/AFCスイッチ



自動周波数制御機能が動作中は点灯し、同調がとれると消灯する

高い周波数では送信している局の周波数が徐々に動く場合があります、このようなときに使用します。

WFM/FMモードで動作します。

[NB/AFC]スイッチを押すと、ディスプレイに“AFC”が点灯し、受信信号の周波数変動を自動的に追従し、安定した受信を行うことができます。

- WFMモード時 :1 kHzステップで同調します。
- FMモード時 :100 Hzステップで同調します。

5-3 センターメーターの運用



センターメーター表示部

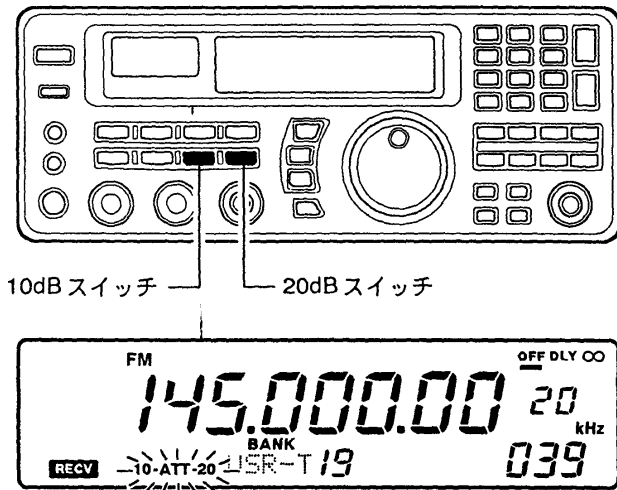
メインダイヤルでチューニング(同調)をとるときに、センターメーターを利用すると簡単に同調をとることができます。

WFM/FMモードで動作します。

- ◀点灯 : 同調周波数が高いことを表示します。(周波数をダウンしてください)
- ▶点灯 : 同調周波数が低いことを表示します。(周波数をアップしてください)

5 受信時に便利な諸機能

5-4 アッテネーターの運用



非常に強力な信号を受信して、受信音がひずんで聞こえるときに使用します。

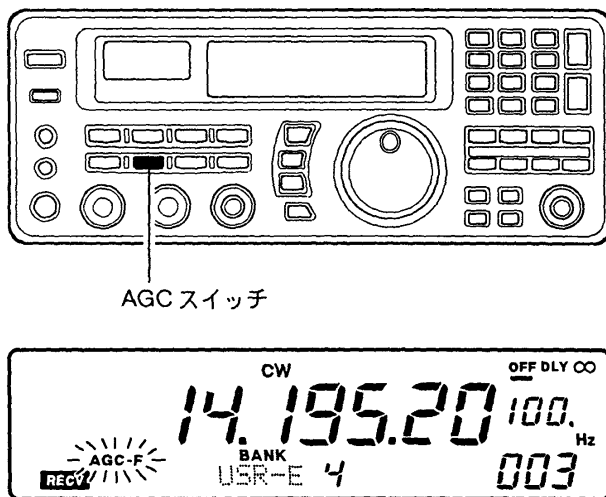
アッテネーター (ATT) の [10dB] または [20dB] スイッチを押すと、ディスプレイに "10-ATT" または "ATT-20" が点灯し、強力な受信信号によるひずみを抑えることができます。

アッテネーターは受信信号の強さにより、約10 dB、約20 dB、約30 dB の3段階で減衰量を切り替えることができます。

なお、30 dB のアッテネーターを設定するときは、[10dB] スイッチと [20dB] スイッチの両方を押してください。

※500kHz以下の周波数帯では、10dBのアッテネーターは動作しません。

5-5 AGC (自動利得制御) の運用



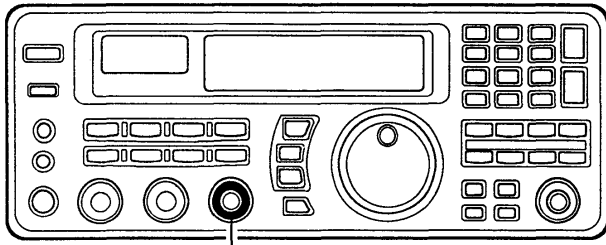
AGC回路の時定数を切り替えることができます。

AM/SSB/CWモード運用時に動作し、受信信号の信号強度がフェージングなどで変化しても、受信音を一定レベルに保ちます。

AGCは一般的に次のように使用します。

- FAST (ディスプレイに "AGC-F" 点灯)
CWモードやデータ通信などの受信、またはメインダイヤルで選局する場合に使用します。
- SLOW (ディスプレイの "AGC-F" 消灯)
SSB (USB/LSB) モードを受信する場合に使用します。

5-6 IF SHIFT (シフト) の運用



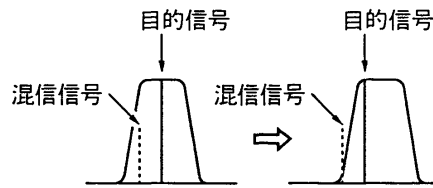
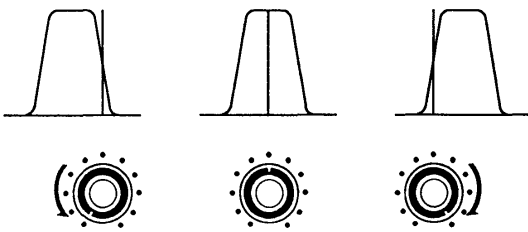
IF SHIFT ツマミ

受信信号に混信 (近接波からの混信) がある場合に使用します。

SSB/CW モードで動作します。

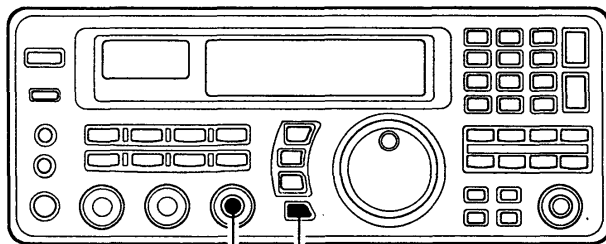
受信中に近接波からの混信があるときに、〔IF SHIFT〕 ツマミを回すと、IF フィルターの中心周波数を移動させて、近接波からの混信を除去することができます。

■ IF シフト回路の動作図



〔IF SHIFT〕 ツマミを時計方向に回すと、混信信号がフィルターの帯域外に出て、近接波からの混信を除去することができます。

5-7 APF (オーディオピークフィルター) の運用



APF ツマミ APF スイッチ

CW 信号を受信時、オーディオピークフィルターのピーク周波数を可変して、目的信号を聞きやすくすることができます。

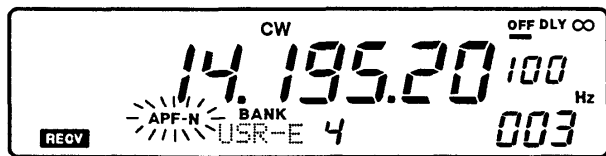
①〔APF〕スイッチを押します。

ディスプレイに“APF”が点灯します。

点灯中に長く (約1秒) 押すと、“APF-N” (ナロー帯域) が選択されます。

②〔APF〕ツマミを回すと、通過帯域のピーク周波数が可変します。

目的信号の聞きやすいところにセットします。



ピーク周波数が
低くなる



ピーク周波数が
高くなる

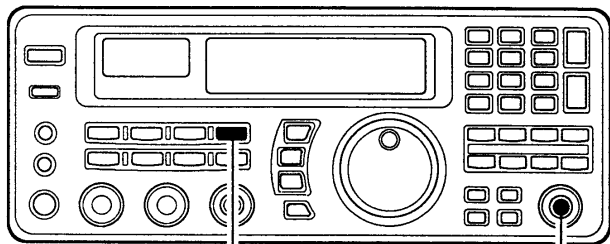
※“APF-N” (ナロー帯域) は、WFM/FM モードでは選択できません。

※“APF-N” (ナロー帯域) を選択することにより、目的外信号の減衰などに効果があります。

※FM/AM モードなどを受信しているときは、トーンコントロールとして、使用することもできます。〔APF〕ツマミを時計方向に回すと高音が強調され、逆に回すと低音が強調されます。

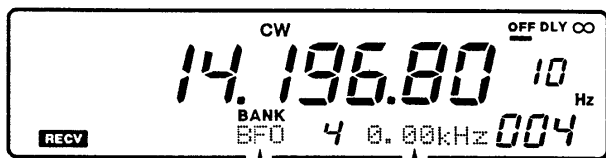
5 受信時に便利な諸機能

5-8 BFO周波数の補正



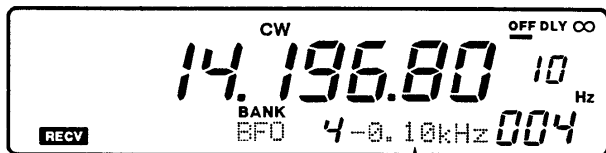
USB/LSB/CWモード表示中に、
[SSB/CW]スイッチを長く押す

M-CHツマミ



バンクネーム表示部

メモリーネーム表示部



[M-CH]ツマミで設定さ
れた補正值が表示される

フィルターのセンター周波数を補正することができます。

SSB/CWモードで動作します。

① [SSB/CW]スイッチを押して、USB/LSBまたはCWモードを設定します。

[SSB/CW]スイッチを押すごとに、USB→LSB→CW→CW NARとモードが切り替わります。

② [SSB/CW]スイッチを長く(約1秒)押すと、BFO周波数の補正モードになります。

ディスプレイのバンクネーム表示部に“BFO”、メモリーネーム表示部に“0.00kHz”が表示されます。

③ [M-CH]ツマミを回して、BFO周波数を補正します。

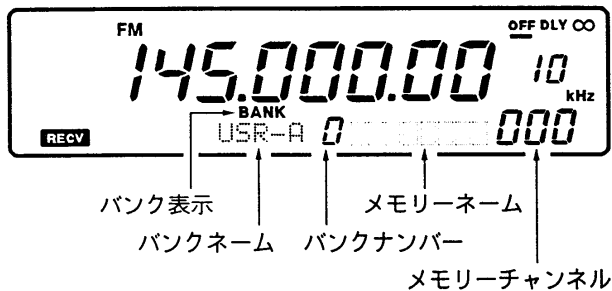
10Hzステップで±1.20kHzまで可変することができます。

BFO周波数は、USB/LSB/CWモードのそれぞれ個別に設定することができます。

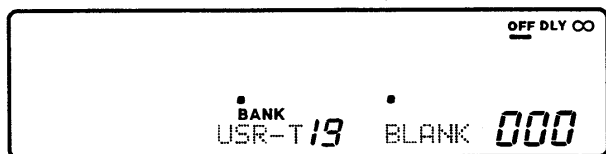
④ [SSB/CW]スイッチを押すと、元の表示に戻ります。

6-1 メモリーの運用

■メモリーチャンネル初期設定表示



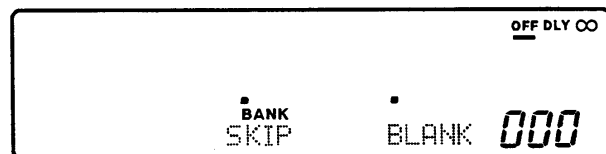
■メモリーチャンネル初期設定表示(ブランク状態)



■オートメモリーライト初期設定表示(ブランク状態)



■スキップメモリー初期設定表示(ブランク状態)



本機には1000 (40チャンネル×20バンク、オートライトエリアに100チャンネル、スキップエリアに100チャンネル) のメモリーチャンネルとプログラムスキャン用のメモリーチャンネルが20チャンネルあります。

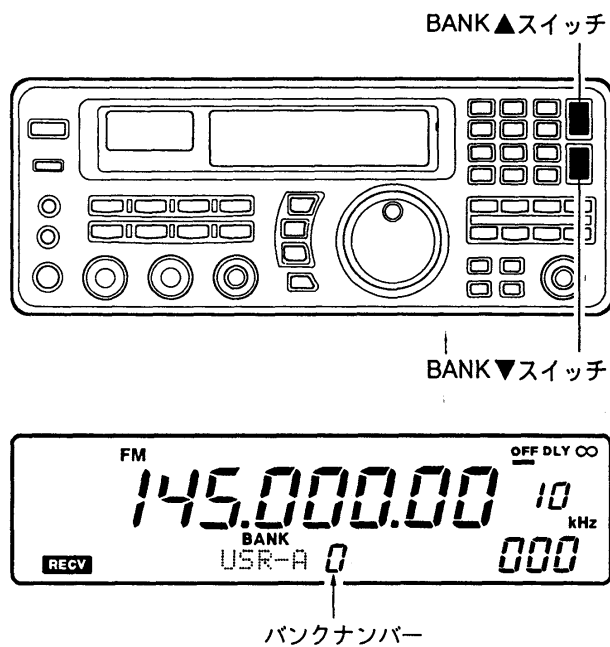
メモリーチャンネルには周波数、モード、チューニングステップ、バンクネーム、メモリーネーム、アッテネーターなどの情報を記憶させることができます。

また、メモリーバンクには5文字のバンクネーム、メモリーチャンネルには8文字のメモリーネームのタイトルを書き込むことができます。

	メモリーチャンネル	用途
バンク 0 バンク 19	0~39 (40CH) 合計800CH	<ul style="list-style-type: none"> •通常のメモリーチャンネル •バンク 0の0~9CHには、初期設定で145.000.00 MHzが書き込まれている。他のメモリーチャンネルはすべてブランク状態。
オートメモリーライト	0~99 (100CH)	<ul style="list-style-type: none"> •オートメモリーライトスキャン時の自動書き込みエリア。 •通常のメモリーチャンネルとして使用可。
スキップメモリー	0~99 (100CH)	<ul style="list-style-type: none"> •プログラムスキャン時のスキップ指定書き込みエリア。 •通常のメモリーチャンネルとして使用可。
プログラムスキャンメモリー	0P1~9P1 (10CH)	<ul style="list-style-type: none"> •プログラムスキャン用の下限または上限周波数書き込みエリア。 •初期設定で144.000.00 MHzが書き込まれている。
プログラムスキャンメモリー	0P2~9P2 (10CH)	<ul style="list-style-type: none"> •プログラムスキャン用の上限または下限周波数書き込みエリア。 •初期設定で146.000.00 MHzが書き込まれている。

6 メモリーの操作

■メモリーチャンネルのバンク切り替えについて

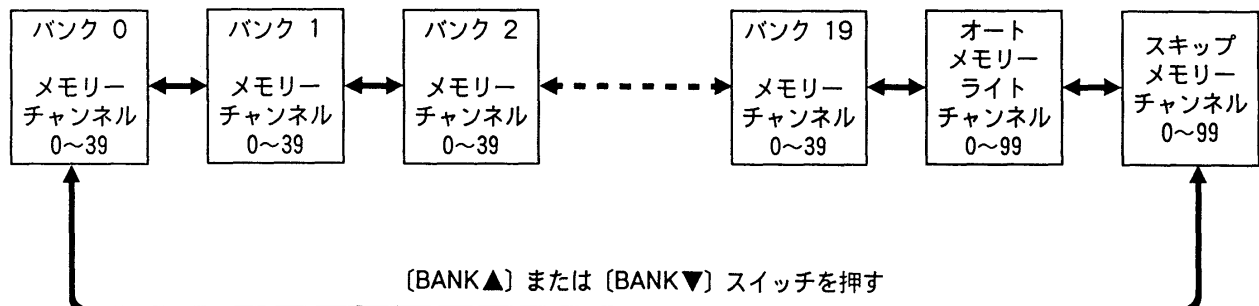


メモリーチャンネルを扱いやすくするために、40チャンネルを20のバンクに分けています。
バンクの切り替えは[BANK▲]または[BANK▼]スイッチで行います。
バンクの指定(バンク表示点灯)に関係なく切り替えることができます。

- ① [BANK▲] スイッチを押すと、アップ方向にバンクが切り替わります。
なお、押し続けると連続動作になります。
- ② [BANK▼] スイッチを押すと、ダウン方向にバンクが切り替わります。
なお、押し続けると連続動作になります。

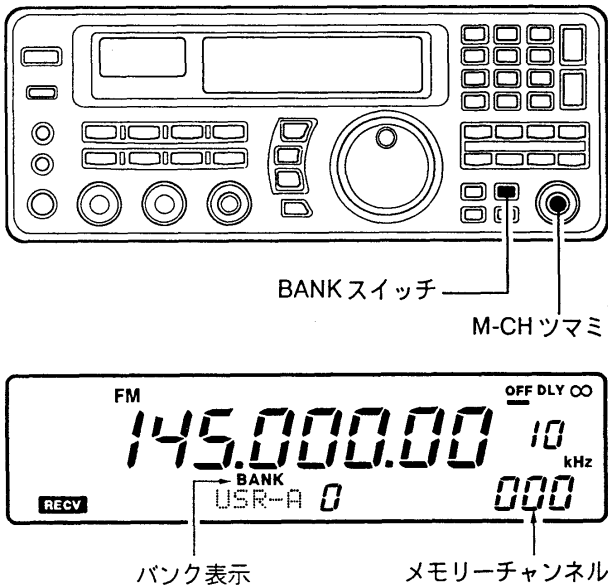
■操作例

- 初期設定時のバンク切り替え

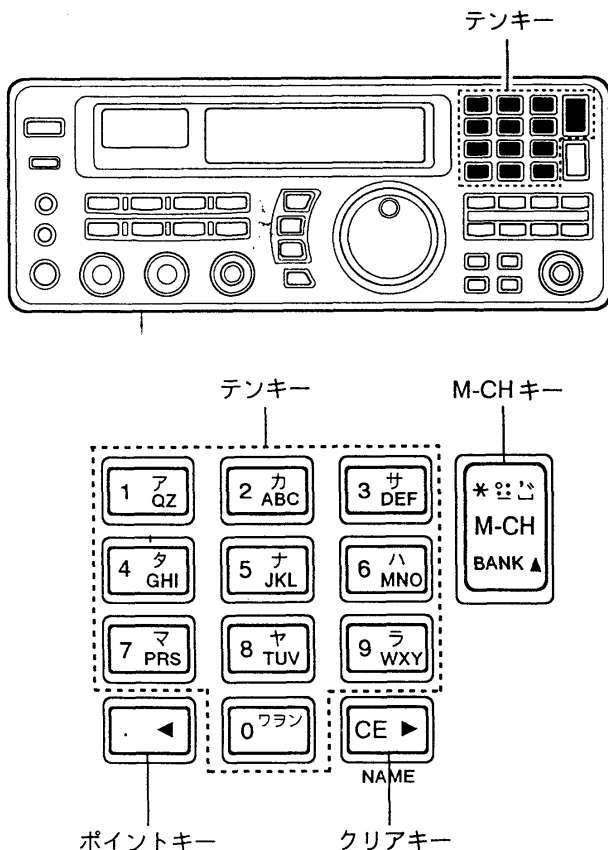


6-2 メモリーの呼び出しかた

1. [M-CH] ツマミによる呼び出し



2. テンキーによる呼び出し



メモリーチャンネルの呼び出しは、[M-CH] ツマミで呼び出す方法とテンキーでダイレクトに呼び出す方法があります。

[M-CH] ツマミを時計方向に回すと、メモリーチャンネルがアップし、逆に回すとダウンします。

※バンクが指定 (“BANK” 表示が点灯) されているときは、メモリーチャンネルの切り替えはバンク内となります。

すべてのメモリーチャンネルを切り替えるときは、[BANK] スイッチを押して、“BANK” 表示を消灯させてください。

すでに呼び出しているメモリーチャンネルから離れているチャンネルを呼び出すときに便利です。

- ① テンキーで希望のメモリーチャンネル番号を入力すると、周波数表示部に入力した数値が表示されます。
- ② 入力した数値のあとに [M-CH] キーを押すことにより、入力したメモリーチャンネルを呼び出すことができます。
- ③ キー入力の数値を間違えたときは、[CE] キーを押して再入力してください。

※メモリーチャンネル以上の数値を入力した場合は無効となります。

■操作例

《例1》メモリーチャンネル “0” の呼び出し
[0] [M-CH] と押します。

《例2》メモリーチャンネル “12” の呼び出し
[1] [2] [M-CH] と押します。

《例3》メモリーチャンネル “39” の呼び出し
[3] [9] [M-CH] と押します。

6 メモリーの操作

6-3 メモリーチャンネルの変更 (チャンネル数の増減)

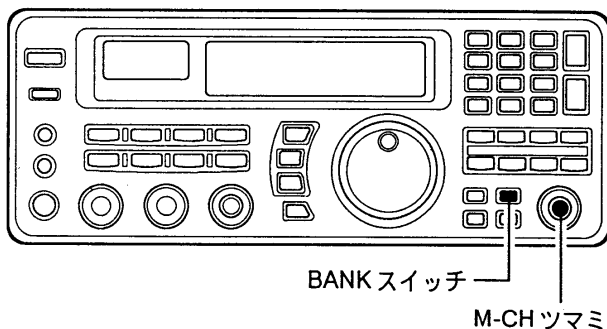
各バンクのメモリーチャンネル数を増減させることができます。

メモリーチャンネルの増減は、いったん“FREE BANK”(フリーバンク)に移動し、他のバンクに挿入または追加します。

各バンクのメモリーチャンネル数は、“1CH”以上です。

移動または挿入、追加したメモリーチャンネルは、メモリーの内容を抹消してブランク状態となります。

1. メモリーチャンネルの移動



■チャンネル移動の表示例



メモリーネーム表示部

■フリーバンクの表示例



①フリーバンクに移動したいバンクとメモリーチャンネルを設定します。

②[BANK]スイッチを長く(約1秒)押すと、メモリーネーム表示部に“INS. 1CH”が点滅表示します。

(次回からは前回選択した項目が表示される)

③[M-CH]ツマミを回して、“DEL. 1CH”を選択します。

[M-CH]ツマミを時計方向に回すと、“INS. 1CH” ↔ “DEL. 1CH” ↔ “ADD. 10CH” ↔ “ADD. 1CH”とエンドレスで項目が切り替わります。

• INS. 1CH : フリーバンクから指定のバンクに1CHを挿入する。

• DEL. 1CH : 1CHをフリーバンクに移動する。

• ADD. 10CH : フリーバンクから指定のバンクに10CHを追加する。

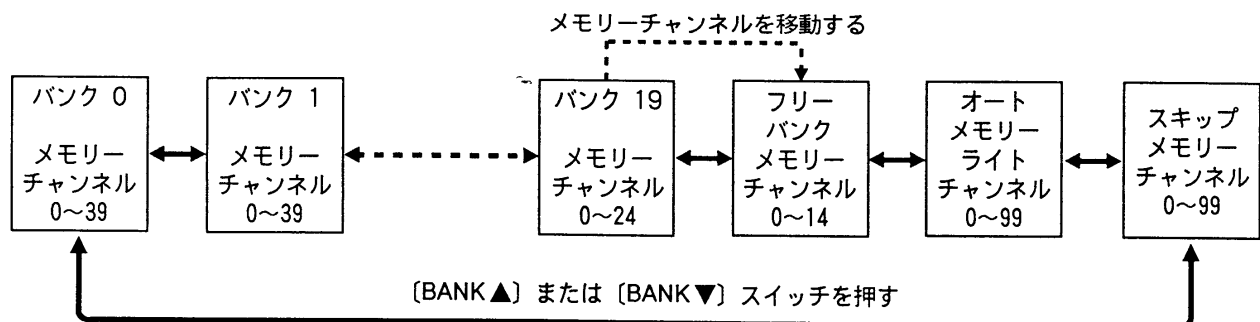
• ADD. 1CH : フリーバンクから指定のバンクに1CHを追加する。

④[BANK]スイッチを長く(約1秒)押すことで、指定のメモリーチャンネルが“FREE BANK”に移動します。

※2チャンネル以上を移動するときは、同じ操作を繰り返して行います。

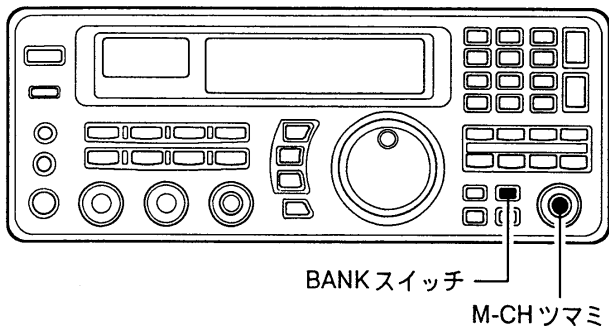
■操作例

- チャンネルの移動操作でメモリーチャンネルを移動することにより、“バンク 19”のメモリーチャンネルはいったん“フリーバンク”に呼び込まれる(15CH)



※メモリーチャンネルを移動することにより、フリーバンクが表示されます。

2.メモリーチャンネルの挿入と追加



■チャンネル挿入の表示例



メモリーネーム表示部

■10チャンネル追加の表示例



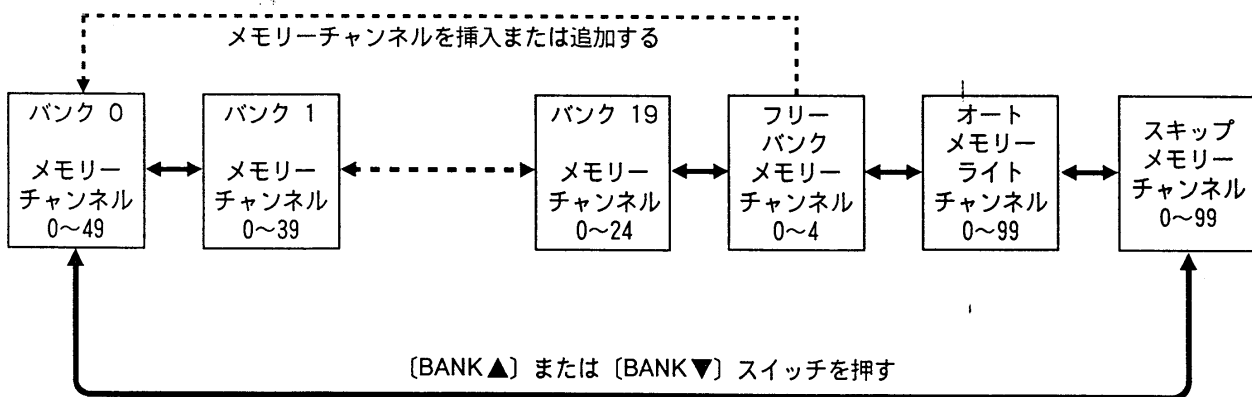
メモリーネーム表示部

“FREE BANK”（フリーバンク）にメモリーチャンネルが移動されていることを確認してください。フリーバンクにメモリーチャンネルが無い場合は、この操作は無効となります。

- ①挿入または追加先のバンクとメモリーチャンネルを設定します。
※メモリーチャンネルの間に挿入する場合は、どのメモリーチャンネルの前に挿入したいかを選択します。
- ②[BANK]スイッチを長く（約1秒）押すと、メモリーネーム表示部に“INS. 1CH”が点滅表示します。（次回からは前回選択した項目が表示される）
- ③[M-CH]ツマミを回して、“INS. 1CH”を選択します。
[M-CH]ツマミを時計方向に回すと、“INS. 1CH” ↔ “DEL. 1CH” ↔ “ADD. 10CH” ↔ “ADD. 1CH”とエンドレスで項目が切り替わります。
※メモリーチャンネルの最後に追加する場合は、“ADD. 10CH”または“ADD. 1CH”を選択します。
- ④[BANK]スイッチを長く（約1秒）押すことで、指定のメモリーチャンネルに挿入または追加されます。
※1または10チャンネル以外の複数チャンネル（例、2または3チャンネルなど）を挿入または追加するときは、同じ操作を繰り返して行います。

■操作例

- チャンネルの挿入または追加操作で“フリーバンク”のメモリーチャンネルが“バンク0”に移動する（10CH）

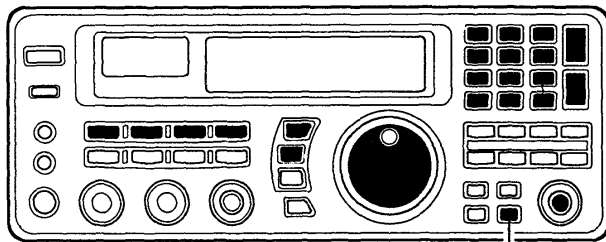


- ※チャンネルの挿入は、指定したメモリーチャンネルの前に挿入されます。
 - INS. 1CH：指定のバンクに1チャンネルを挿入します。
- ※チャンネルの追加は“ADD. 1CH”または“ADD.10CH”を選択できます。
 - ADD. 1CH：指定のバンクに1チャンネルを追加します。
 - ADD.10CH：指定のバンクに10チャンネルを追加します。

6 メモリーの操作

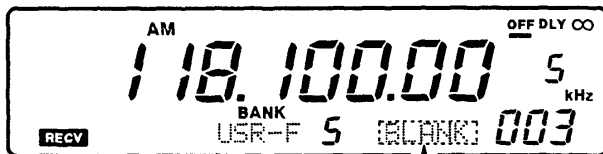
6-4 メモリーへの書き込みかた

1. セットした内容で書き込む



MW スイッチ

①~④まで操作した状態



すでにメモリーしているチャンネルの場合
“BLANK”表示は消灯する

メモリーチャンネルには、周波数、モード、チューニングステップ、メモリーネーム、アッテネーターなどの情報を記憶させることができます。

- ① [BANK ▲] または [BANK ▼] キーでバンクの指定、[M-CH] ツマミおよびテンキーでメモリーチャンネルをセットします。
- ② テンキーまたはメインダイヤルで周波数をセットします。
- ③ [TS ▲] または [TS ▼] スイッチを押して、チューニングステップをセットします。
- ④ MODE スイッチを押して、電波型式をセットします。
- ⑤ 表示内容を確認したのち、ピープ音が“ピッピピ”と鳴るまで [MW] スイッチを押すと、セットした内容が書き込まれます。

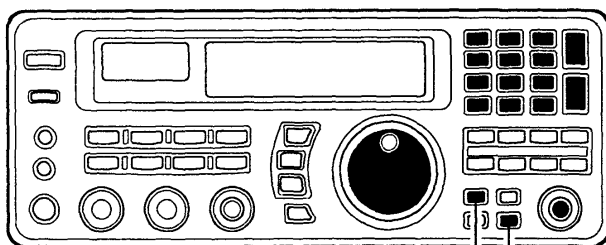
※すでにメモリーしているチャンネル (BLANK 表示が消灯) に書き込むと、以前の内容を消去し、新しい内容に書き替えますのでご注意ください。

■書き込んだあとの表示



消灯する

2. 呼び出した内容を変更して、別のメモリーチャンネルに書き込む



M-SET スイッチ
MW スイッチ

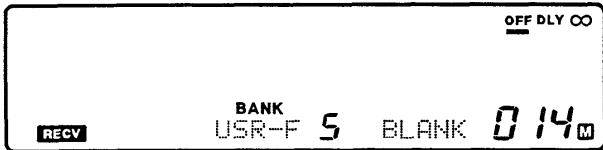
①~②を操作した状態



呼び出した内容を変更 (メインダイヤルでチューニング操作を行い別の信号を受信したときなど) して、別のメモリーチャンネルにその内容を書き込むことができます。

- ① 周波数などを変更して、別の信号を受信します。
- ② [M-SET] スイッチを押すと、メモリーチャンネル表示部の横に“M”が点灯し、表示している内容を記憶します。

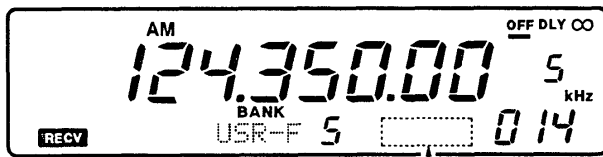
③を操作した状態



④を操作した状態



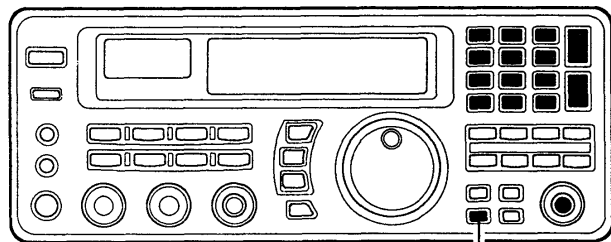
■書き込んだあとの表示



消灯する

- ③ [M-CH] ツマミおよびテンキーで、ブランクのメモリーチャンネルをセットします。
- ④ [M-SET] スイッチを押すと、記憶した内容を複写します。("M"表示消灯)
- ⑤ ビープ音が“ピッピピ”と鳴るまで [MW] スイッチを押すと、複写した内容が書き込まれます。

6-5 メモリーの消去



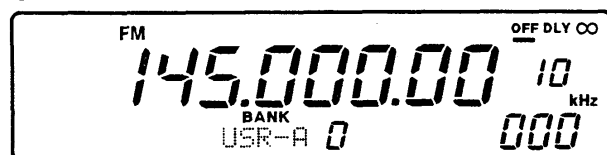
M-CLスイッチ

不要になったメモリーチャンネルの内容を消去できます。

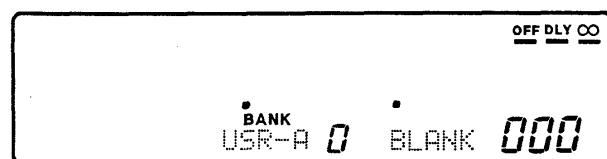
- ① [BANK ▲] または [BANK ▼] キーでバンクの指定、[M-CH] ツマミおよびテンキーで不要になったメモリーチャンネルをセットします。
- ② ビープ音が“ピッピピ”と鳴るまで [M-CL] スイッチを押すと、メモリーの内容を消去し、“BLANK”表示が点灯します。

※メモリーネームは消去されますが、バンクネームは消去されません。

①を操作した状態



■消去後の表示

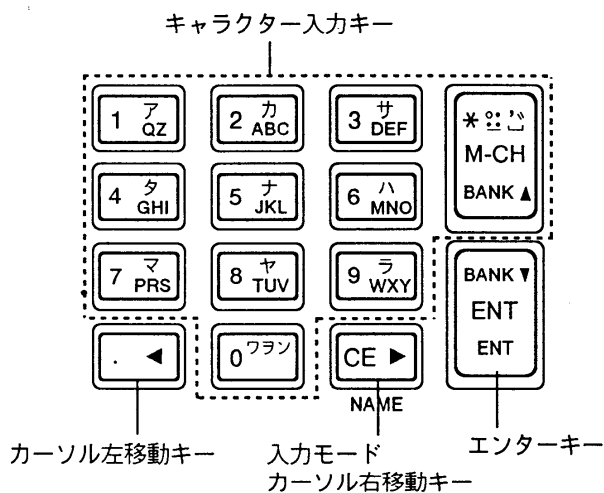


6-6 バンクネーム/メモリーネームの入れかた

《例》バンクネームに「アマチュア」
メモリーネームに「144MHZ」
を入れる場合

バンクネーム (5文字) とメモリーネーム (8文字) に、キャラクターリスト (P8を参照) を利用してネーム (タイトル) を入れることができます。
周波数などがメモリーされているチャンネルを選択してください。
メモリーされていないチャンネルに、ネームを入れることはできません。

1. バンクネームの入れかた



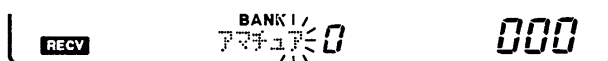
①を操作した状態



②を操作した状態



③~⑦を操作した状態



■登録したあとの表示



- ①テンキーの[CE▶] (NAME) キーを押すと、メモリーネーム表示部にカーソルが表示されます。
- ②[.◀] キーを5回押して、カーソルをバンクネーム表示部の1桁目に移動します。
- ③[1] キーを1回押して、1桁目の文字「ア」を選びます。
- ④[7] キーを1回押して、2桁目の文字「マ」を選びます。
- ⑤[4] キーを2回押して、3桁目の文字「チ」を選びます。
- ⑥[8] キーを5回押して、4桁目の文字「ユ」を選びます。
- ⑦[1] キーを1回押して、5桁目の文字「ア」を選びます。
- ⑧文字を確認し、[ENT] キーを押すと、「アマチュア」のバンクネームが登録されます。

※同じ文字または同じキーを続けて入力するときは、[.◀] または [CE▶] キーを押し、カーソルを移動させてから入力してください。

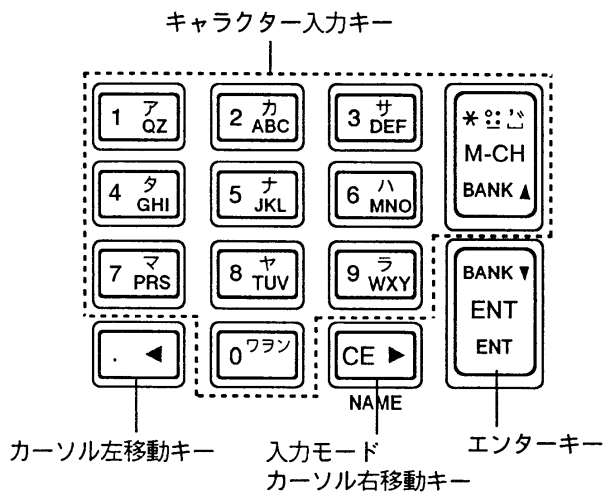
※ネーム入力が完了したら、必ず[ENT] キーを押してください。

[ENT] キーを押さないで、次の動作(メモリーチャンネルの切り替え、周波数の変更、メモリーネームの入力など)を行うと、入力した文字が無効となり、元の表示に戻ります。

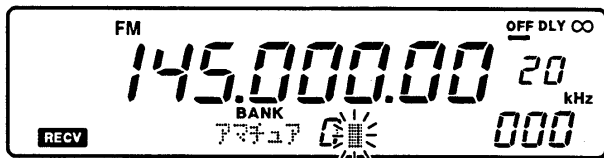
※[ENT] キーを押さないで、カーソルをメモリーネーム表示部に移動させると、入力した文字が無効となり、元の表示に戻ります。

※バンクネームはメモリーの消去を行っても、消去されません。

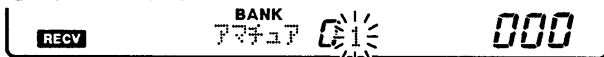
■メモリーネームの入れかた



①を操作した状態



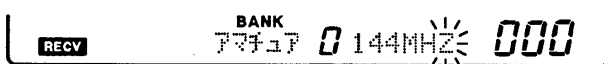
②を操作した状態



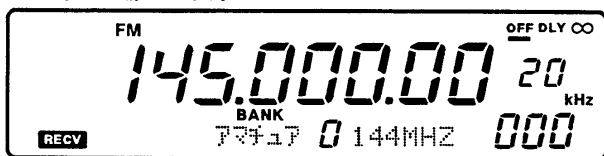
③～④を操作した状態



⑤～⑧を操作した状態



■登録したあとの表示



- ①テンキーの[CE▶] (NAME) キーを押すと、メモリーネーム表示部にカーソルが表示されます。
- ②[1] キーを13回押して、1桁目の文字「1」を選びます。
- ③[4] キーを10回押して、2桁目の文字「4」を選びます。
- ④[CE▶] キーを押して、カーソルを3桁目に移動させます。
※同じキーを続けて押すときは、[. ◀]または[CE▶] キーを押してカーソルを移動させてください。
- ⑤[4] キーを10回押して、3桁目の文字「4」を選びます。
- ⑥[6] キーを6回押して、4桁目の文字「M」を選びます。
- ⑦[4] キーを8回押して、5桁目の文字「H」を選びます。
- ⑧[1] キーを12回押して、6桁目の文字「Z」を選びます。
- ⑨文字を確認し、[ENT] キーを押すと、「144 MHz」のメモリーネームが登録されます。

※同じ文字または同じキーを続けて入力するときは、[. ◀]または[CE▶] キーを押して、カーソルを移動させてから入力してください。

※ネーム入力が完了したら、必ず[ENT] キーを押してください。

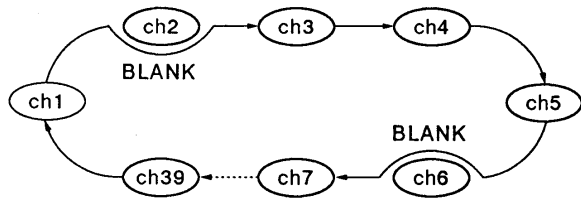
[ENT] キーを押さないで、次の動作(メモリーチャンネルの切り替え、周波数の変更など)を行うと、入力した文字が無効となり、元の表示に戻ります。

※メモリーの消去を行うと、メモリーネームも消去され、「BLANK」表示となります。

7-1 スキヤンの運用

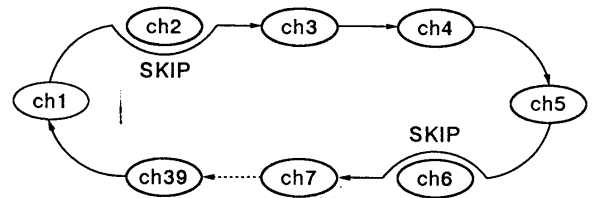
本機の基本的なスキヤンは、メモリスキヤン、メモリーセレクトスキヤン、モードセレクトスキヤン、プログラムスキヤン、オートメモリーライトスキヤン、プライオリティスキヤンがあります。

■メモリスキヤン (P44)



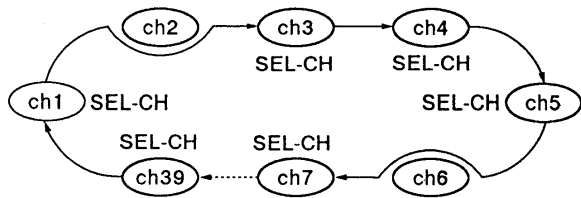
書き込まれているメモリーチャンネルを繰り返しサーチし、ブランクチャンネルはスキップする

●メモリースキップスキヤン (P44)



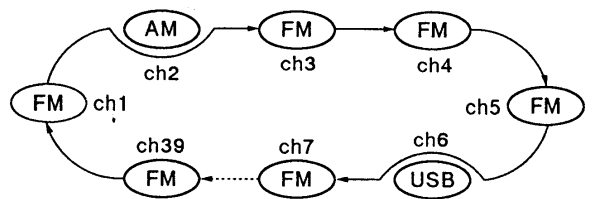
書き込まれているメモリーチャンネルを繰り返しサーチし、スキップチャンネルはスキップする

■セレクトメモリスキヤン (P45)



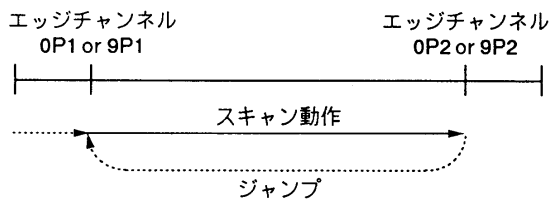
セレクトが指定されているチャンネルのみを繰り返しサーチする

■セレクトモードスキヤン (P46)



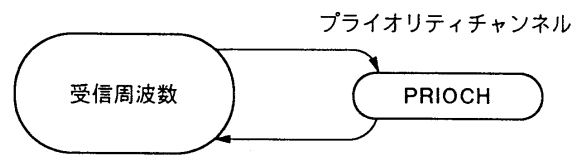
指定したモードと同じチャンネルのみ繰り返しサーチする

■プログラムスキヤン (P47)



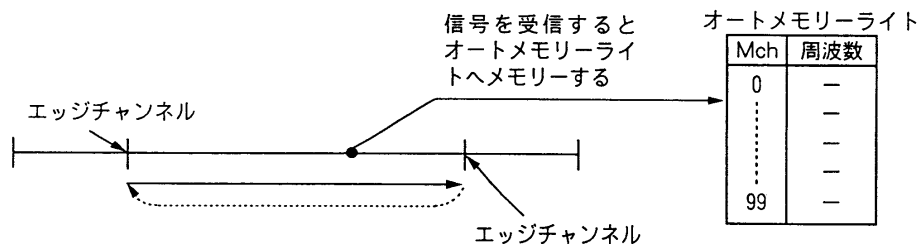
プログラムグループのエッジチャンネルに設定した周波数範囲を繰り返しサーチする

■プライオリティスキヤン (P50)



表示周波数のメモリーチャンネルをワッチしながら、一定周期でプライオリティチャンネルをワッチする

■オートメモリーライトスキヤン (P51)

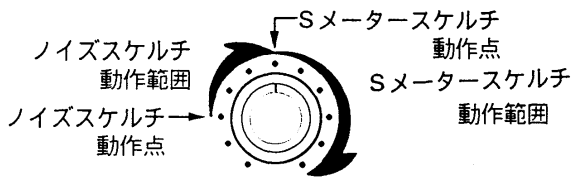


プログラムスキヤンで設定した周波数範囲を繰り返しサーチし、信号を受信するたびにその周波数を自動的にオートメモリーライトチャンネル(0-99)へ順次メモリーする

7-2 スキヤンを運用する前に

スキヤン機能进行操作する前に、下記の付加機能を設定しておくとう便利です。

1. スケルチの設定



スキヤン機能を用いる前に、SQUELCHツマミを時計方向に回して“ザー”という雑音が消え、“**RECV**”表示が消える位置にセットしてください。
これにより、信号を受信したときだけスキヤン動作はオートストップします。

※ノイズスケルチは、FM/FM NAR/AM/AM WIDEモードで動作します。
※Sメータースケルチは、すべての電波型式で動作します。

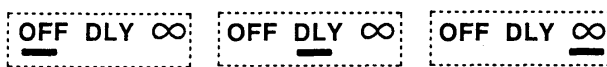
2. VSC (ボイススキヤンコントロール) 機能の設定



- VSC表示点灯: VSC機能 ON
- VSC表示消灯: VSC機能 OFF

ボイススキヤンコントロール機能は、スキヤン動作中に信号を受信して、その信号に音声信号が含まれているかどうかを識別します。
信号に音声信号が含まれていればスキヤンは停止し、含まれていなければ継続してスキヤンします。
VSC機能を動作させるには、[VSC]スイッチを押してディスプレイに“VSC”を点灯させます。
再度押すと、消灯します。

3. スキヤン再開条件の設定



(DLY **D/S**) スイッチを押すごとに切り替わる

スキヤン動作がオートストップしたあと、スキヤンを再開するか解除するかを[DLY **D/S**]スイッチで設定します。
[DLY **D/S**]スイッチを押すごとに、“OFF” “DLY” “∞”の下に“-”マークが点灯して表示します。

OFF	信号を受信している間スキヤンは再開されない。信号が消えてから約3秒後にスキヤンが再開される。
DLY	スキヤンが停止すると[DELAY/SPEED]ツマミで設定している遅延時間*だけスキヤンは停止、その後再開する。途中で信号が消えてから約3秒後にスキヤンが再開される。
∞	スキヤンが停止してから、スキヤンを解除する。

※遅延時間の設定は (P41) をご覧ください。

4. スキャンディレイタイム (遅延時間) とスキャンスピードの設定

遅延時間の可変または固定、スキャンスピードの可変または固定を選択します。

なお、同時に同じ動作にすることはできません。この機能はスキャン動作中でも使用することができます。

- ① [DLY **D/S**] スイッチを長く (約1秒) 押すと、バンクネーム、メモリーネーム表示部に遅延時間とスキャンスピードの設定内容が表示されます。
- ② メインダイヤルを回して、“VR : DLY” “SPD = MAX” または “VR : SPD” “DLY = 5s” を右記の条件を確認して選択します。

- “VR : DLY” “SPD = MAX”

スキャン中に遅延時間 (約3秒～約18秒) を [DELAY/SPEED] ツマミで可変することができます。

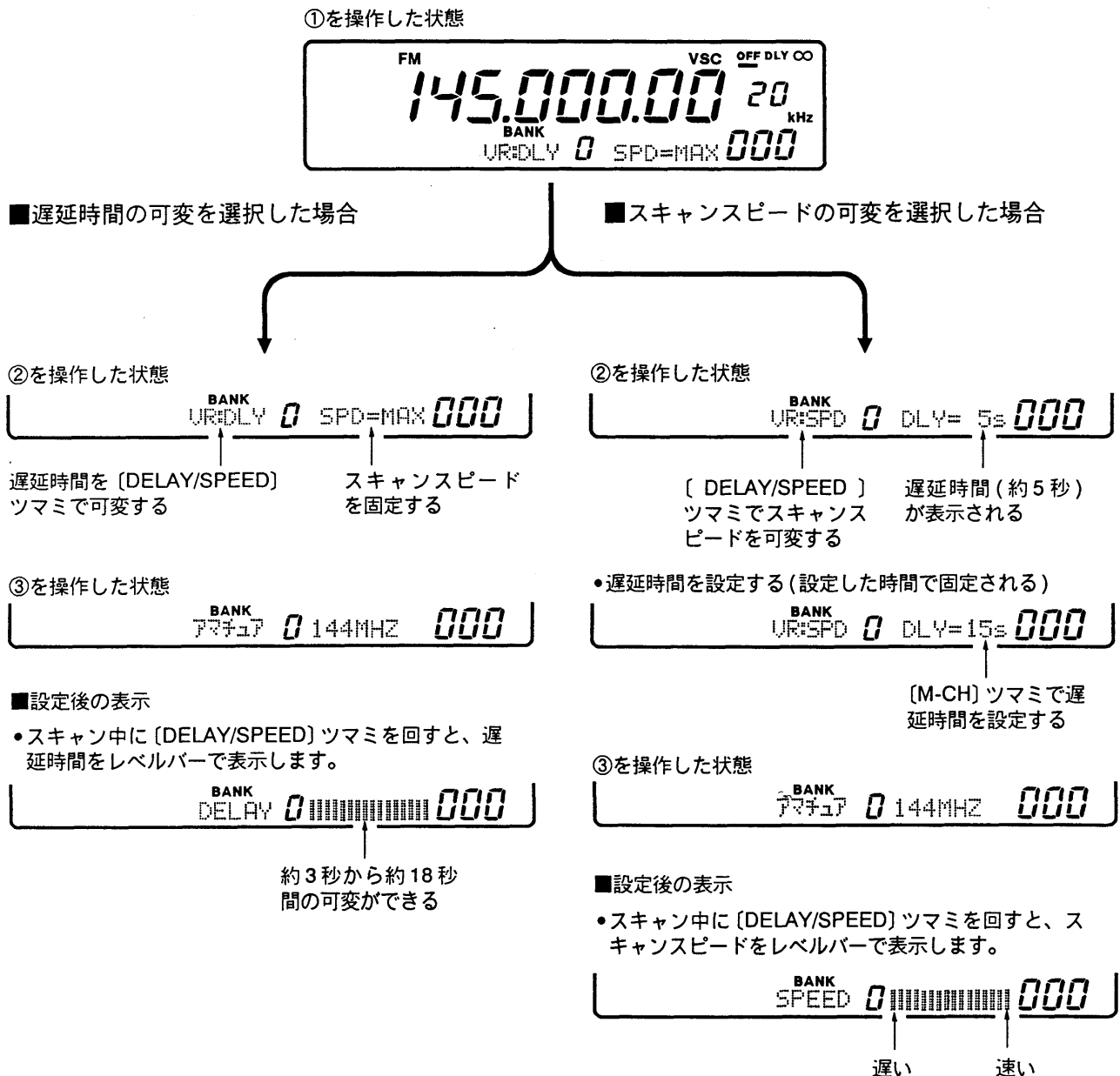
スキャンスピードは MAX (HI スピード) で固定されます。

- “VR : SPD” “DLY = 5s”

スキャン中にスキャンスピードを [DELAY/SPEED] ツマミで可変することができます。

遅延時間 (約3秒～約18秒) を [M-CH] ツマミで設定します。(設定した時間で固定されます。)

- ③ [DLY **D/S**] スイッチを押すと、元の表示に戻ります。



5. スキップチャンネルの設定



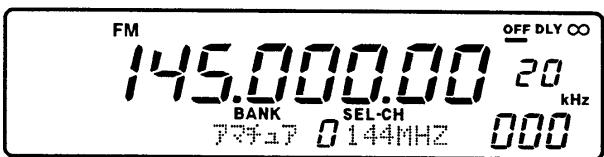
- SKIP-CH 表示点灯: スキップチャンネルが設定される
- SKIP-CH 表示消灯: スキップチャンネルが解除される

スキップチャンネルを設定することにより、スキヤン時に“SKIP-CH”が指定されているメモリーチャンネル(周波数)をスキップします。

スキップチャンネルを設定するには、ピープ音が“ピッピ”と鳴るまで[SKIP]スイッチを押すと、ディスプレイに“SKIP-CH”が点灯し、スキップチャンネル(周波数)が設定されます。

再度、ピープ音が“ピッピ”と鳴るまで押すと、解除されます。

6. セレクトチャンネルの設定



- SEL-CH 表示点灯: セレクトチャンネルが設定される
- SEL-CH 表示消灯: セレクトチャンネルが解除される

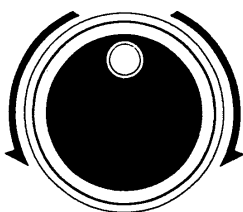
セレクトチャンネルを設定することにより、スキヤン時に“SEL-CH”が指定されているメモリーチャンネルだけをスキヤンします。

セレクトチャンネルを設定するには、ピープ音が“ピッピ”と鳴るまで[SEL]スイッチを押すと、ディスプレイに“SEL-CH”が点灯し、セレクトチャンネルが設定されます。

再度、ピープ音が“ピッピ”と鳴るまで押すと、解除されます。

7. スキヤン方向の変更について

ダウン動作
となる



アップ動作
となる

通常スキヤンはアップ方向に動作しています。

スキヤン動作中にスキヤン方向を変更するときは、メインダイヤルで行います。

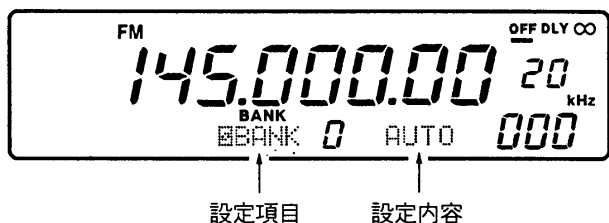
- 時計方向に回す : スキヤン方向がアップ動作となる。
- 反時計方向に回す: スキヤン方向がダウン動作となる。

7-3 スキャンセットモードの設定

スキャンセットモードでは、スキャン時のバンク指定、スキップ機能の設定、オートメモリーライトなどの条件を設定することができます。

■スキャンセットモードの操作

■表示例 (メモリスキャン)



- ①それぞれ該当するスイッチ〔MEMO〕〔PROG〕〔AUTO〕〔PRIO〕を長く(約1秒)押すと、バンクネームとメモリーネーム表示部に設定項目と設定内容が表示されます。
- ②〔M-CH〕ツマミで設定項目の選択をします。
- ③メインダイヤルを回し、設定内容を選びます。
なお、〔M-CL〕スイッチを押すと、初期設定値に戻すことができます。
- ④再度、該当するスイッチを押すと、元の表示に戻ります。

スイッチ	設定項目 (初期設定)	設定内容と動作
MEMO	S BANK AUTO	S BANK AUTO ・バンクを指定してスキャンするバンク範囲スキャンとなる [スキャンスタート時“BANK”表示点灯] ※スキャンスタート時にバンクが指定されていないときは“BANK”表示は点滅する
		S BANK MANUAL ・〔BANK〕スイッチ ON : “BANK”表示点灯 バンクが指定されバンク範囲スキャンとなる ・〔BANK〕スイッチ OFF : “BANK”表示消灯 書き込まれているすべてのメモリーをスキャンするフルスキャンとなる
		S SKIP AUTO ・スキップ機能が動作し、スキップスキャンとなる [スキャンスタート時“SKIP”表示点灯] ※スキャンスタート時にSKIP機能が指定されていないときは“SKIP”表示は点滅する
		S SKIP MANUAL ・〔SKIP〕スイッチ ON : “SKIP”表示点灯 スキップ機能が動作し、スキップスキャンとなる ・〔SKIP〕スイッチ OFF : “SKIP”表示消灯 スキップ機能を解除し、通常のスキャンとなる
PROG	* SET * PROG EDG → PROG * NONAME *	プログラムスキャンのエッジ(下限、上限)周波数を設定する
AUTO	S AUTO CL&START	S AUTO CL&START オートメモリーライトチャンネル“0~99”に書き込まれている内容をクリアし、“0”チャンネルから順次書き込んでいく
		S AUTO START オートメモリーライトチャンネル“0~99”の中からブランクチャンネルを探し、順次書き込んでいく
PRIO	* SET * PRIO FRQ → PRIO * PRIOCH *	プライオリティ周波数を設定する

7-4 メモリースキヤンについて

メモリースキヤンには、バンクを指定してスキヤンするバンク範囲スキヤン、書き込まれているすべてのメモリーチャンネルをスキヤンするフルスキヤン、スキップ機能によるメモリースキップスキヤンがあります。

1. スキヤン操作をする前に

バンク指定のAUTO (オート) またはMANUAL (マニュアル)、スキップ機能のAUTO (オート) またはMANUAL (マニュアル) をスキヤンセットモード (☞P43) で指定します。

2. メモリースキヤンの運用

①前項『7-2 スキヤンを運用する前に』(☞P40～P42)にしたがって、スケルチ、VSC、スキヤンの再開条件などを設定します。

②[BANK▲]または[BANK▼]スイッチで、スキヤンするバンクを選択します。

③[MEMO]スイッチを押すと、バンクネーム表示部に“MEMO”が点灯し、メモリースキヤン、またはメモリースキップスキヤンがスタートします。

■ダイレクトスタートの操作

テンキーでバンクNo. (0～19) を入力し、[MEMO]スイッチを押すと、指定したバンクによるメモリースキヤン、またはメモリースキップスキヤンがスタートします。

スキヤン動作中は、MHz桁、kHz桁のデシマルポイントが点滅して表示します。

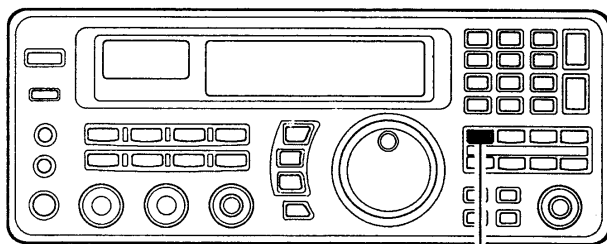
•スキヤン動作は、スキヤンセットモード (☞P43) で指定した設定内容で動作します。

④スキヤンを解除するときは、再度[MEMO]スイッチを押してください。

※バンク範囲スキヤン動作中にバンクを切り替えるときは、テンキーでバンクNo. (0～19) を入力し、[ENT]キーを押してください。

※『4. スキヤンディレイタイム (遅延時間) とスキヤンスピードの設定』(☞P41) の選択により、スキヤン動作中に[DELAY/SPEED]ツマミでスキヤンディレイタイム (遅延時間) またはスキヤンスピードの調整ができます。

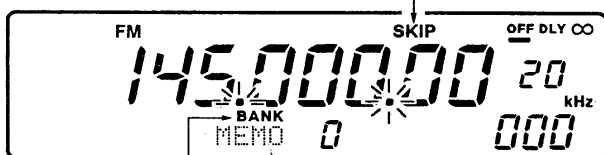
※スキヤン動作中にモード (電波型式)、チューニングステップを変更することができます。



MEMO スイッチ

■メモリースキヤンの動作時の表示

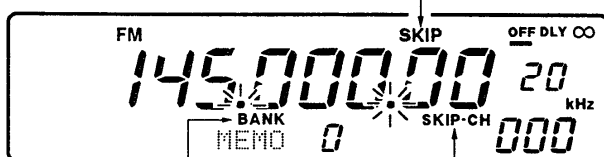
SKIP表示が点灯または点滅しているときは、スキップ機能が動作している



BANK表示が点灯または点滅しているときは、バンク範囲指定が動作している

■メモリースキップスキヤンの動作時の表示

スキップ機能表示



バンク指定表示

スキップチャンネル表示

※“BANK”表示が点滅しているときに、スキヤンを解除すると、バンク指定は解除されます。

※“SKIP”表示が点滅しているときに、スキヤンを解除すると、スキップ機能は解除されます。

7-5 セレクトメモリスキャンについて

セレクト“SEL-CH”が指定されたメモリーチャンネルだけを繰り返しサーチします。また、メモリスキャン同様にバンクの指定、スキップ機能の指定をしてスキャンさせることができます。

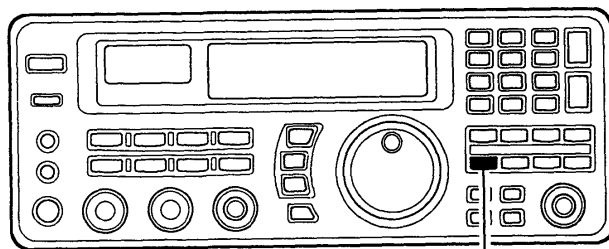
1.セレクトチャンネルの指定について

前項『セレクトチャンネルの設定』(P42)にしたがって、セレクトチャンネルを指定します。

2.スキャン操作をする前に

バンク指定のAUTO(オート)またはMANUAL(マニュアル)、スキップ機能のAUTO(オート)またはMANUAL(マニュアル)をスキャンセットモード(P43)で指定します。

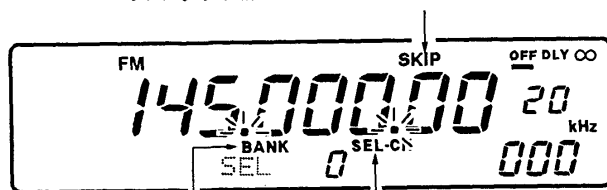
3.セレクトメモリスキャンの運用



SELスイッチ

■セレクトメモリスキャン動作時の表示

SKIP表示が点灯または点滅しているときは、スキップ機能が動作している



BANK表示が点灯または点滅しているときは、バンク範囲指定が動作している

セレクトチャンネル表示

- ※“BANK”表示が点滅しているときに、スキャンを解除すると、バンク指定は解除されます。
- ※“SKIP”表示が点滅しているときに、スキャンを解除すると、スキップ機能は解除されます。

①前項『7-2 スキャンを運用する前に』(P40~P42)にしたがって、スケルチ、VSC、スキャンの再開条件などを設定します。

②[BANK▲]または[BANK▼]スイッチで、スキャンするバンクを選択します。

③[SEL]スイッチを押すと、バンクネーム表示部に“SEL”が点灯し、セレクトメモリスキャン、またはセレクトメモリスキャンがスタートします。

■ダイレクトスタートの操作

テンキーでバンクNo.(0~19)を入力し、[SEL]スイッチを押すと、指定したバンクによるセレクトメモリスキャン、またはセレクトメモリスキャンがスタートします。スキャン動作中は、MHz桁、kHz桁のデシマルポイントが点滅して表示します。

●セレクトチャンネルが2チャンネル以上ないとき、またはセレクトチャンネルが指定されていないバンクを選択したときは、スキャンしません。

④スキャンを解除するときは、再度[SEL]スイッチを押してください。

※バンク範囲スキャン動作中に、バンクを切り替えるときは、テンキーでバンクNo.(0~19)を入力し、[ENT]キーを押してください。

切り替えたバンクにセレクトチャンネルがない場合は、スキャンは解除されます。

※『4.スキャンディレイタイム(遅延時間)とスキャンスピードの設定』(P41)の選択により、スキャン動作中に[DELAY/SPEED]ツマミでスキャンディレイタイム(遅延時間)またはスキャンスピードの調整ができます。

※スキャン動作中にモード(電波型式)、チューニングステップを変更することができます。

7-6 セレクトモードスキヤンについて

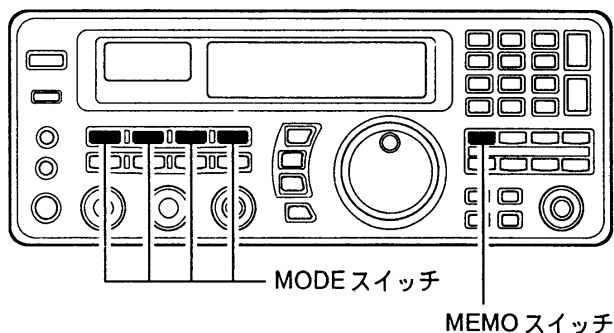
指定したモード(電波型式)と同じモードのメモリーチャンネルだけを繰り返しサーチします。

また、メモリースキヤン同様にバンクの指定、スキップ機能の指定をしてスキヤンさせることができます。

1.スキヤン操作をする前に

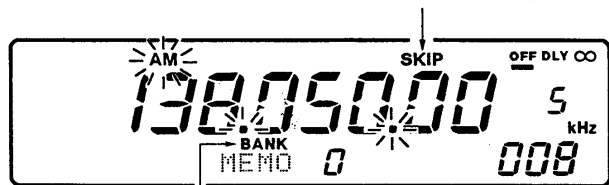
バンク指定のAUTO(オート)またはMANUAL(マニュアル)、スキップ機能のAUTO(オート)またはMANUAL(マニュアル)をスキヤンセットモード(☞P43)で指定します。

2.セレクトモードスキヤンの運用



■セレクトモードスキヤン動作時の表示

SKIP表示が点灯または点滅しているときは、スキップ機能が動作している



BANK表示が点灯または点滅しているときは、バンク範囲指定が動作している

※“BANK”表示が点滅しているときに、スキヤンを解除すると、バンク指定は解除されます。

※“SKIP”表示が点滅しているときに、スキヤンを解除すると、スキップ機能は解除されます。

①前項『7-2 スキヤンを運用する前に』(☞P40~P42)にしたがって、スケルチ、VSC、スキヤンの再開条件などを設定します。

②[BANK▲]または[BANK▼]スイッチで、セレクトチャンネルが指定されているバンクを選択します。

③前項『7-4 メモリースキヤンについて』(☞P44)を参照して、メモリースキヤンをスタートさせます。

④MODEスイッチでスキヤンするモードを選択すると、選択されたモードが点滅し、セレクトメモリースキヤンになります。

スキップ機能が動作しているときは、“SKIP-CH”が指定されているチャンネルはスキップします。また、選択したモードが2チャンネル以上ないときは、スキヤンしません。

⑤スキヤンを解除するときは、[MEMO]スイッチを押してください。

※バンク範囲スキヤン動作中に、バンクを切り替えるときは、テンキーでバンクNo.(0~19)を入力し、[ENT]キーを押してください。

バンクを切り替えると、メモリースキヤンに戻りますので、再度スキヤンさせるモードを選択してください。

※『4.スキヤンディレイタイム(遅延時間)とスキヤンスピードの設定』(☞P41)の選択により、スキヤン動作中に[DELAY/SPEED]ツマミでスキヤンディレイタイム(遅延時間)またはスキヤンスピードの調整ができます。

※スキヤン動作中にチューニングステップを変更することができます。

7-7 プログラムスキャンについて

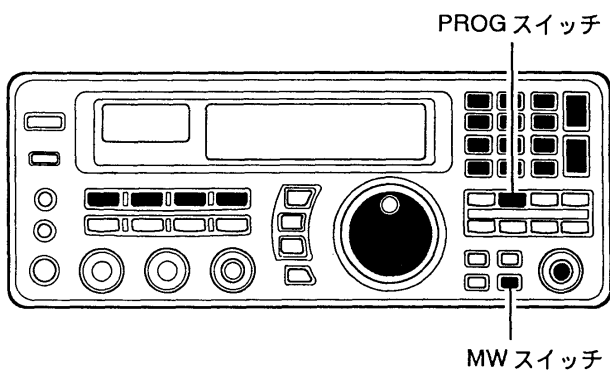
プログラムスキャン用エッジチャンネル(0P1~9P2)に設定した周波数範囲を繰り返しサーチします。

エッジチャンネルは20チャンネルあり、10グループの周波数範囲を設定できます。

1. プログラムスキャン用メモリーの書き込み

■プログラムスキャンエッジの初期設定値

チャンネル	モード	周波数	チューニングステップ
0P1~9P1	FM	144.000.00 MHz	10kHz
0P2~9P2	FM	146.000.00 MHz	10kHz



②を操作した状態



⑤を操作した状態



⑥を操作した状態



⑨を操作した状態



① [PROG] スイッチを長く(約1秒)押すと、バンクネームとメモリーネーム表示部に“* SET * PROG EDG”が約2秒間表示され、プログラムスキャン用エッジチャンネル表示に切り替わります。なお、初期設定で左記の周波数とチューニングステップが設定されています。

② [M-CH] ツマミを回して、プログラムスキャンエッジチャンネル“0P1”をセットします。

- テンキーでセットするときは、下記のように押します。

0P1	[0]	[M-CH]	と押す	5P1	[1]	[0]	[M-CH]	と押す
0P2	[1]	[M-CH]	と押す	5P2	[1]	[1]	[M-CH]	と押す
1P1	[2]	[M-CH]	と押す	6P1	[1]	[2]	[M-CH]	と押す
1P2	[3]	[M-CH]	と押す	6P2	[1]	[3]	[M-CH]	と押す
2P1	[4]	[M-CH]	と押す	7P1	[1]	[4]	[M-CH]	と押す
2P2	[5]	[M-CH]	と押す	7P2	[1]	[5]	[M-CH]	と押す
3P1	[6]	[M-CH]	と押す	8P1	[1]	[6]	[M-CH]	と押す
3P2	[7]	[M-CH]	と押す	8P2	[1]	[7]	[M-CH]	と押す
4P1	[8]	[M-CH]	と押す	9P1	[1]	[8]	[M-CH]	と押す
4P2	[9]	[M-CH]	と押す	9P2	[1]	[9]	[M-CH]	と押す

③ MODE スイッチでモードをセットします。

④ メインダイヤルまたはテンキーで周波数をセットします。

⑤ ビープ音が“ピッピピ”と鳴るまで [MW] スイッチを押すと、セットした内容が“0P1”に書き込まれます。

⑥ [M-CH] ツマミまたはテンキーでプログラムスキャンエッジチャンネル“0P2”をセットします。

⑦ MODE スイッチでモードをセットします。

⑧ メインダイヤルまたはテンキーで周波数をセットします。

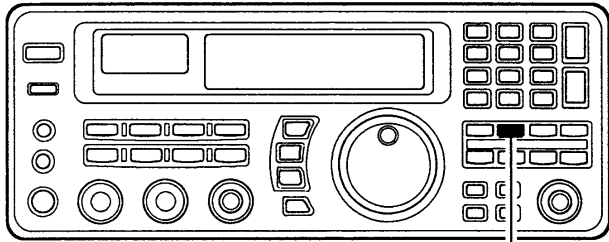
⑨ ビープ音が“ピッピピ”と鳴るまで [MW] スイッチを押すと、セットした内容が“0P2”に書き込まれます。

以上の操作で“0P1”グループに周波数範囲の設定ができました。

残りの“1P~9P”グループに周波数範囲を同様の方法で設定してください。

2. スキヤン操作をする前に

3. プログラムスキヤンの運用



PROGスイッチ

■プログラムスキヤン動作時の表示

SKIP表示が点灯または点滅しているときは、スキップ機能が動作している



グループNo.を表示する

※“BANK”表示が点滅しているときに、スキヤンを解除すると、バンク指定は解除されます。

※“SKIP”表示が点滅しているときに、スキヤンを解除すると、スキップ機能は解除されます。

スキップ機能をスキヤンセットモード(☞P43)で指定します。

①前項『7-2 スキヤンを運用する前に』(☞P40~P42)にしたがって、スケルチ、VSC、スキヤンの再開条件などを設定します。

②[PROG]スイッチを長く(約1秒)押して、プログラムスキヤンのグループ設定状態にします。

③[M-CH]ツマミを回して、プログラムスキヤングループを指定します。

※テンキーで指定することもできます。(☞P47)

④[PROG]スイッチを押して、プログラムスキヤンのグループ設定状態を解除します。

⑤[PROG]スイッチを押すと、バンクネーム表示部に“PROGとグループNo.”が点灯し、プログラムスキヤンがスタートします。

■ダイレクトスタートの操作

テンキーでプログラムスキヤンのグループ(0~9)を押し、[PROG]スイッチを押すと、指定したグループでプログラムスキヤンがスタートします。スキヤン動作中は、MHz桁、kHz桁のデシマルポイントが点滅して表示します。

⑥スキヤン動作中に“SKIP”表示が点灯または点滅しているときはスキップ機能が動作しています。スキップメモリーチャンネル(0~99)に登録されている周波数はスキップしてスキヤンします。また、通常のメモリーチャンネルにスキップが指定されていれば、その周波数もスキップしてスキヤンします。

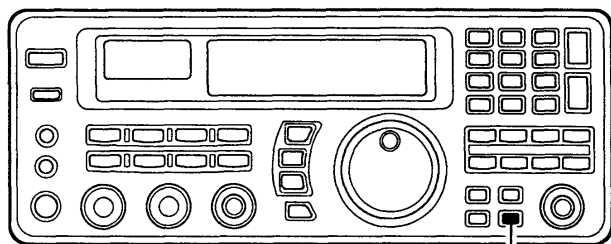
⑦スキヤンを解除するときは、再度[PROG]スイッチを押してください。

※スキヤン動作中にテンキーでプログラムスキヤンのグループ(0~9)を押しることにより、グループを変更することができます。

※『4.スキヤンディレイタイム(遅延時間)とスキヤンスピードの設定』(☞P41)の選択により、スキヤン動作中に[DELAY/SPEED]ツマミでスキヤンディレイタイム(遅延時間)またはスキヤンスピードの調整ができます。

※スキヤン動作中にモード(電波型式)、チューニングステップを変更することができます。

4. スキップ周波数の登録のしかた



MW スイッチ

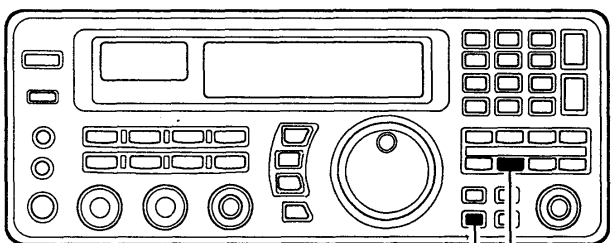
SKIP 表示が点灯または点滅しているときは、スキップ機能が動作している



スキャンストップ中にピープ音が“ピッピ”と鳴るまで [MW] スイッチを押すと、スキップ指定のメモリーチャンネルに順次書き込まれる

- ① スキップ機能をスキャンセットモード (P43) で指定します。
- ② プログラムスキャンの運用にしたがって、プログラムスキャンをスタートします。
- ③ 雑音または無変調により、スキャンが一時停止したときに、ピープ音が“ピッピ”と鳴るまで [MW] スイッチを押すと、その周波数がスキップ指定のメモリーチャンネル (0~99) に順次書き込まれます。
- ④ 書き込みが終ると、自動的にスキャンがスタートします。
- ⑤ 他の周波数を登録するときも、③の操作を行います。
以上の操作により、スキップ周波数が登録されます。
- ⑥ プログラムスキャン動作中にスキップ機能が動作 (“SKIP” 表示が点灯または点滅) していれば、登録している周波数をスキップしてスキャンします。

5. スキップ登録の取り消しかた



M-CL スイッチ
SKIP スイッチ

②を操作した状態



③を操作した状態

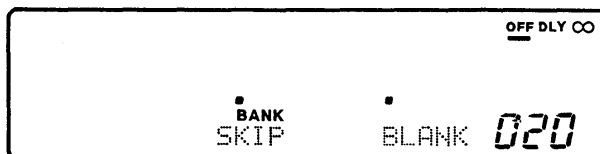


消灯する

- ① [BANK ▲] または [BANK ▼] スイッチを押して、スキップメモリーを選択します。
- ② [M-CH] ツマミまたはテンキーで、スキップ指定を取り消すメモリーチャンネルを選択します。
- ③ ピープ音が“ピッピ”と鳴るまで [SKIP] スイッチを押して、“SKIP-CH” 表示を消灯させてください。以上の操作で、その周波数が再度スキャンに参加します。

※その内容が不要であればピープ音が“ピッピ”と鳴るまで [M-CL] スイッチを押して、メモリークリアを行ってください。

■ クリアしたあとの表示



7-8 プライオリティスキヤンについて

現在表示しているメモリーチャンネルの周波数と、監視したい他の周波数(プライオリティチャンネル)を交互にワッチし、信号の有無を常に監視できます。

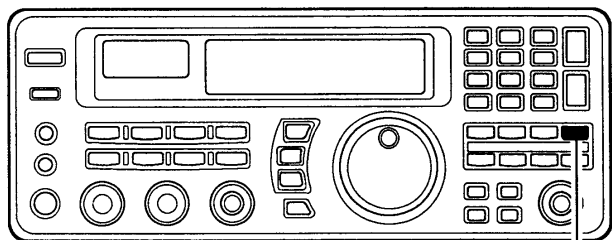
1. プライオリティチャンネルの設定

■ プライオリティチャンネル表示



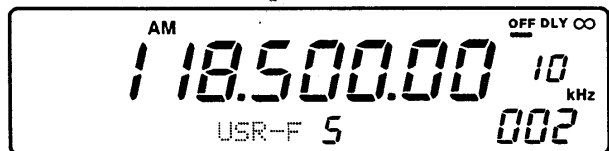
- ① [PRIO] スイッチを長く(約1秒)押すと、バンクネームとメモリーネーム表示部に“* SET * PRIO FRQ”が約2秒間表示され、プライオリティチャンネル表示に切り替わります。
- ② MODEスイッチでモードをセットします。
- ③ メインダイヤルまたはテンキーでプライオリティチャンネルに周波数を設定します。
- ④ ビープ音が“ピッピ”と鳴るまで[MW]スイッチを押して、プライオリティ周波数を書き込みます。
- ⑤ [PRIO] スイッチを押して、元の表示に戻します。

2. プライオリティスキヤンの運用

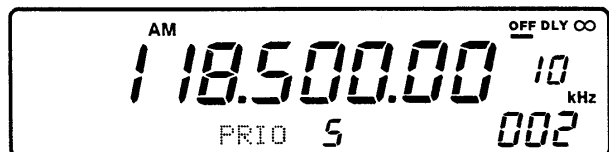


PRIO スイッチ

②を操作した状態



③を操作した状態



- ①前項『7-2 スキヤンを運用する前に』(P40~P42)にしたがって、スケルチ、VSC、スキヤンの再開条件などを設定します。
- ② [BANK ▲] または [BANK ▼] スイッチでバンクを選択し、メインダイヤルまたはテンキーで監視するメモリーチャンネルを選択します。
- ③ [PRIO] スイッチを押すと、バンクネーム表示部に“PRIO”が点灯し、プライオリティスキヤンがスタートします。
スキヤン動作中は、MHz桁、kHz桁のデシマルポイントが点滅して表示します。

■ プライオリティチャンネルの監視時間について
スキヤンスピードの設定により、下記のようにプライオリティチャンネルを監視する時間が切り替わります。

(スキヤンスピードの設定はP41参照)

- スキヤンスピードが最大(MAX)時、約1秒間隔でプライオリティチャンネルを監視します。
スキヤンスピードの可変により、約1秒間隔から約16秒間隔でプライオリティチャンネルの監視時間が変化します。

- ④ スキヤンを解除するときは、再度 [PRIO] スイッチを押してください。

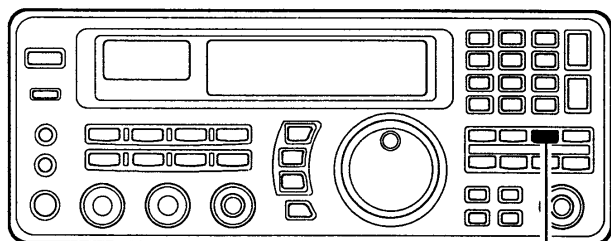
7-9 オートメモリーライトスキャンについて

プログラムスキャン用メモリーチャンネルの(0P~9P)グループに書き込まれている周波数範囲をスキャンし、信号を受信するたびに、その周波数をオートライトメモリーチャンネル(0~99)へ自動的に順次書き込みます。

1. スキャンを操作する前に

バンク指定のAUTO(オート)またはMANUAL(マニュアル)、スキップ機能のAUTO(オート)またはMANUAL(マニュアル)、オートメモリーチャンネルへの書き込みのCL&START(クリア・スタート)またはSTART(スタート)をスキャンセットモード(☞P43)で指定します。

2. オートメモリーライトスキャンの運用



AUTOスイッチ

■ オートメモリーライトスキャン動作時の表示

SKIP表示が点灯または点滅しているときは、スキップ機能が動作している



グループNo.を表示する

※“BANK”表示が点滅しているときに、スキャンを解除すると、バンク指定は解除されます。

※“SKIP”表示が点滅しているときに、スキャンを解除すると、スキップ機能は解除されます。

※オートメモリーライトされた周波数は、バンクの切り替えでオートメモリーライトチャンネルの呼び出しや、スキャンすることができます。

● ご注意

メモリーチャンネル(0~99)が満杯になると、オートメモリーライトスキャンは解除されます。

①前項『7-2 スキャンを運用する前に』(☞P40~P42)にしたがって、スケルチ、VSC、スキャンの再開条件などを設定します。

②[PROG]スイッチを長く(約1秒)押して、プログラムスキャンのグループ設定状態にします。

③[M-CH]ツマミを回して、プログラムスキャングループを指定します。

※テンキーで指定することもできます。(☞P47)

④[PROG]スイッチを押して、プログラムスキャンのグループ設定状態を解除します。

⑤[AUTO]スイッチを押すと、バンクネーム表示部に“AUTOとグループNo.”が点灯し、オートメモリーライトスキャンがスタートします。

■ ダイレクトスタートの操作

テンキーでプログラムスキャンのグループ(0~9)を押し、[AUTO]スイッチを押すと、指定したグループでオートメモリーライトスキャンがスタートします。

スキャン動作中は、MHz桁、kHz桁のデシマルポイントが点滅して表示します。

⑥スキャンを解除するときは、再度[AUTO]スイッチを押してください。

※プログラムスキャン同様に、スキップ機能によるスキップスキャンを指定することができます。

※スキャン動作中にテンキーでオートメモリーライトスキャンのグループ(0~9)を押すことにより、グループを変更することができます。

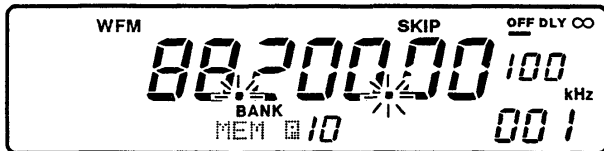
※『4.スキャンディレイタイム(遅延時間)とスキャンスピードの設定』(☞P41)の選択により、スキャン動作中に[DELAY/SPEED]ツマミでスキャンディレイタイム(遅延時間)またはスキャンスピードの調整ができます。

※スキャン動作中にモード(電波型式)、チューニングステップを変更することができます。

7-10 複合スキヤンについて

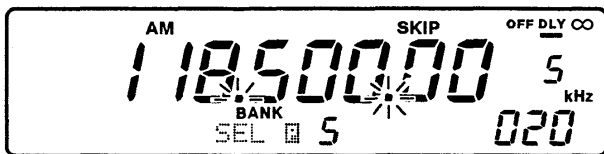
プライオリティスキヤンにメモリースキヤン、セレクトメモリースキヤン、プログラムスキヤン、オートメモリーライトスキヤンを組み合わせて運用することができます。

1. プライオリティスキヤンとメモリースキヤンの運用



- ① [PRIO] スイッチでプライオリティスキヤン (☞ P50参照)、[MEMO] スイッチでメモリースキヤン (☞ P44参照) をスタートさせます。
- ② プライオリティスキヤンとメモリースキヤンの複合スキヤンがスタートします。
- ③ スキヤンの解除は、それぞれのスイッチを押してください。

2. プライオリティスキヤンとセレクトメモリースキヤンの運用



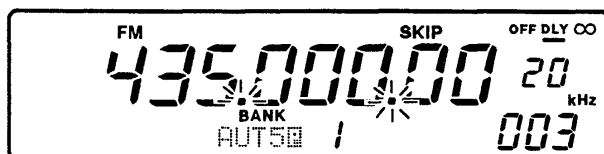
- ① [PRIO] スイッチでプライオリティスキヤン (☞ P50参照)、[SEL] スイッチでセレクトメモリースキヤン (☞ P45参照) をスタートさせます。
- ② プライオリティスキヤンとセレクトメモリースキヤンの複合スキヤンがスタートします。
- ③ スキヤンの解除は、それぞれのスイッチを押してください。

3. プライオリティスキヤンとプログラムスキヤンの運用



- ① [PRIO] スイッチでプライオリティスキヤン (☞ P50参照)、[PROG] スイッチでプログラムスキヤン (☞ P48参照) をスタートさせます。
- ② プライオリティスキヤンとプログラムスキヤンの複合スキヤンがスタートします。
- ③ スキヤンの解除は、それぞれのスイッチを押してください。

4. プライオリティスキヤンとオートメモリーライトスキヤンの運用

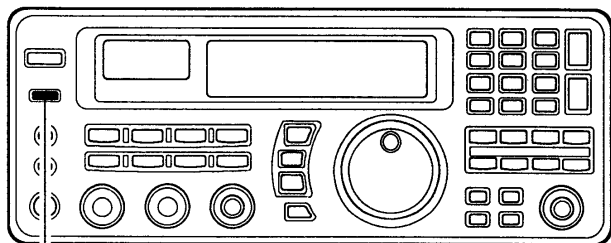


- ① [PRIO] スイッチでプライオリティスキヤン (☞ P50参照)、[AUTO] スイッチでオートメモリーライトスキヤン (☞ P45参照) をスタートさせます。
- ② プライオリティスキヤンとセレクトメモリースキヤンの複合スキヤンがスタートします。
- ③ スキヤンの解除は、それぞれのスイッチを押してください。

1.スリープタイマー機能について

ラジオ放送などを聞きながらおやすみになる
ときなどに便利な機能です。

2.スリープタイマーの操作



SLEEP/SET スイッチ

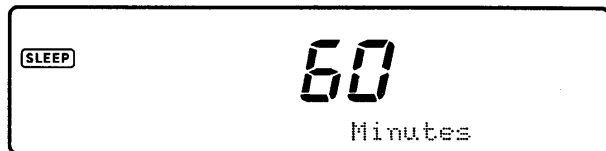
〔SLEEP/SET〕スイッチを押すごとに、ディスプレ
イに“120→90→60→30→OFF”とスリープタイマー
時間が表示されます。

スイッチを押すと、スリープタイマー時間が約3秒間
表示され、表示中に〔SLEEP/SET〕スイッチを押
すことにより、設定時間を切り替えることができま
す。

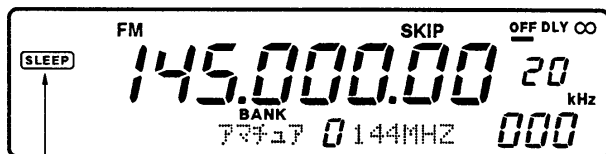
3.スリープタイマーの運用

《例.60分を設定する》

■スリープタイマー表示(60分を設定)

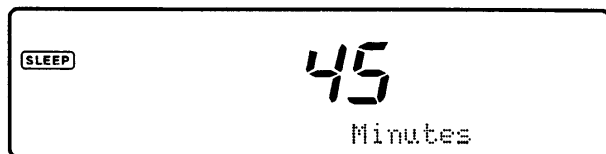


■周波数表示

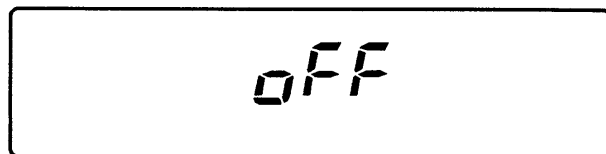


スリープタイマー機能表示

■残り時間表示



■スリープタイマーを解除したときの表示



①〔SLEEP/SET〕スイッチを押して、ディスプレ
イに60 Minutes (分) を表示させます。

②約3秒間設定時間を表示し、元の周波数表示に戻り
ます。

スリープタイマー動作中は、〔SLEEP〕が点灯して表
示します。

以上の操作で60分のスリープタイマー時間が設定
されます。

※スリープタイマー動作中に〔SLEEP/SET〕スイ
ッチを押すと、残り時間を確認することができま
す。

※残り時間表示中に〔SLEEP/SET〕スイッチを押
すと、スリープタイマーの設定動作となり、先に設
定した60分が再設定されますのでご注意ください。

※スリープタイマーを解除するときは、〔SLEEP/
SET〕スイッチを押し、スリープタイマー時間を
表示させます。表示中にスイッチを数回押して、
OFFを設定してください。

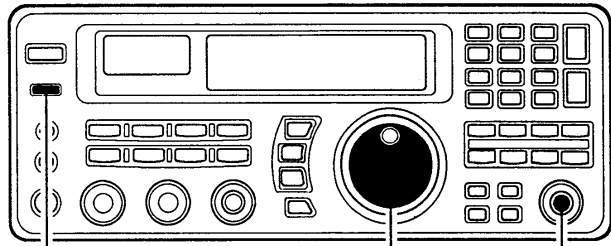
※スリープタイマーが動作し、電源がOFFになっ
たときは、電源スイッチをOFFにし、再度ONにする
と復帰します。

9-1 セットモードについて

初期設定されている運用条件を、運用する状況や目的に応じて、変更するためのモードです。

- セットモードには、通常のセットモードとイニシャルセットモードがあります。

9-2 セットモードの設定方法



SLEEP/SETスイッチ メインダイヤル M-CHツマミ



セットモード表示部

通常のセットモードでは、運用中に変更する項目を集めています。

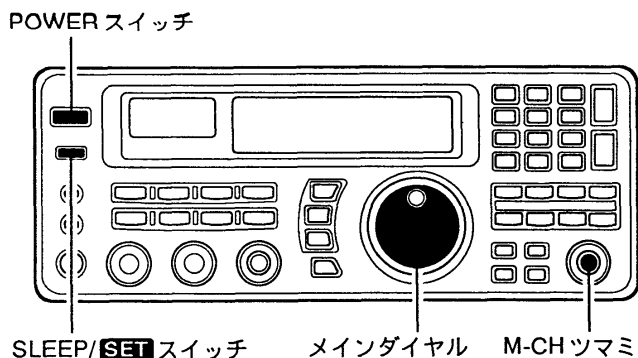
- ① [SLEEP / SET] スイッチを長く (約1秒) 押すと、バンクネーム表示部に設定内容、メモリーネーム表示部に設定項目が表示されます。
※スイッチを短く押すと、スリープタイマーの設定状態になりますのでご注意ください。
- ② [M-CH] ツマミを回し、設定項目を選びます。
- ③ メインダイヤルを回し、設定内容を選びます。
なお、[M-CL] スイッチを押すと、初期設定値に戻すことができます。
- ④ セットモードを解除するときは、再度 [SLEEP / SET] スイッチを押してください。

■ セット項目と設定内容の詳細について

設定項目と表示 (初期設定値)	設定内容
1. ディスプレイの照明度設定 HIGH DIMMER 1	ディスプレイの照明度を切り替えます。 • HIGH : 明るくする • LOW : 暗くする
2. ビープ音の設定 ON BEEP 2	キー操作時のビープ音を "ON/OFF" します。 • ON : ビープ音が鳴る • OFF : ビープ音は鳴らない
3. ロック機能の設定 DIAL LOCK 3	ロック機能を切り替えます。 • DIAL : メインダイヤルの操作が無効になる • PANEL : 前面パネルのスイッチ操作が無効になる
4. オートチューニングステップ機能の設定 ON AUTO TS 4	オートチューニングステップ機能を "ON/OFF" します。 • ON : オートチューニングステップ機能が動作する • OFF : オートチューニングステップ機能が動作しない
5. HF帯アンテナのインピーダンスの設定 50Ω HF ANT 5	HF (0.1~30 MHz) 帯のアンテナインピーダンスを切り替えます。 • 50Ω : 50Ωのアンテナ端子が選択される • 500Ω: 500Ωのアンテナ端子が選択される

9 セットモードについて

9-3 イニシャルセットモードの設定方法



イニシャルセットモードでは、いったん初期設定すれば、あまり変更しない項目を集めています。

- ① [POWER] スイッチを押して、いったん電源を切ります。
- ② [SLEEP/SET] スイッチを押しながら [POWER] スイッチを押し、電源を入れます。
- ③ [M-CH] ツマミを回し、設定項目を選びます。
- ④ メインダイヤルを回し、設定内容を選びます。
なお、[M-CL] スイッチを押すと、初期設定値に戻すことができます。
- ⑤ 通常運用モードに戻すときは、いったん電源を切りもう一度電源を入れてください。

■ イニシャルセット項目と設定内容の詳細について

設定項目と表示 (初期設定値)	設定内容
1.レコーダーリモート機能の設定 ON REC REMO 1	レコーダーリモート機能を“ON/OFF”します。 • ON : レコーダーリモート機能が動作する • OFF : レコーダーリモート機能が動作しない
2.音声合成の発声条件設定 ON REC SPCH 2	スキャンストップ時、音声合成の発声を“ON/OFF”します。 • ON : 発声する • OFF : 発声しない
3.音声合成の発声語設定 ENG SPCH LAN 3	音声合成の発声語を切り替えます。 • ENG : 英語で発声する • JPN : 日本語で発声する
4.音声合成の発声スピード設定 FAST SPCH SPD 4	音声合成の発声スピードを切り替える。 • FAST : 発声スピードが速くなる • SLOW : 発声スピードが遅くなる
5.CI-Vのアドレス設定 4AH CI-V ADDR 5	CI-Vシステムを利用して、本機を外部コントロールするときのアドレスを設定します。 • 01H ~ 《4AH》 ~ 7FH : 初期設定値の“4AH”は本機のアドレスです。
6.CI-Vのボーレート設定 AUTO CI-V BAUD 6	CI-Vシステムを利用して、本機を外部コントロールするときのボーレートを設定します。 • 《AUTO》 / 19200 / 9600 / 4800 / 1200 / 300 bps : “AUTO” にしておくと、接続した機器からのデータのボーレートに自動設定します。
7.CI-Vのトランシーブ設定 ON CI-V TRAN 7	CI-Vシステムにより、トランシーブの“ON/OFF”を設定します。 • ON : トランシーブ動作にする • OFF : トランシーブ動作をしない
8.CI-Vの周波数データ設定 OFF CI-V 731 8	CI-Vシステムの周波数データ長を切り替えます。 周波数データは、IC-731が4 byte、他のCI-V搭載機(本機を含む)は5 byteに設定されています。 • OFF : 5 byte • ON : 4 byte

10-1 清掃について

本機にほこりや汚れが付着した場合は、乾いたやわらかい布でふいてください。

特にシンナーやベンジンなどの有機溶剤をういませと、塗装がはげたりしますので、絶対に使用しないでください。

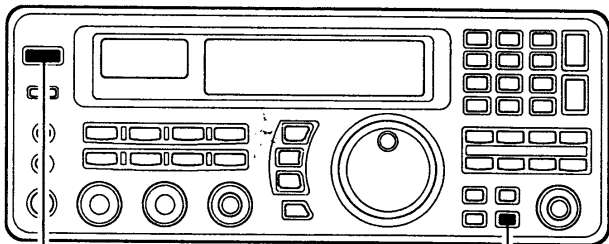
10-2 リセットについて

本機に電源を投入したとき、または運用中にCPUの誤動作や静電気などの外部要因で、ディスプレイの表示内容が異常になった場合は、いったん電源を切り、数秒後にもう一度電源を入れてください。

それでも異常があれば、次のようにリセット操作を行ってください。

- ① [POWER] スイッチを押して、いったん電源を切ります。
- ② [MW] スイッチを押しながら [POWER] スイッチを押し、電源を入れます。

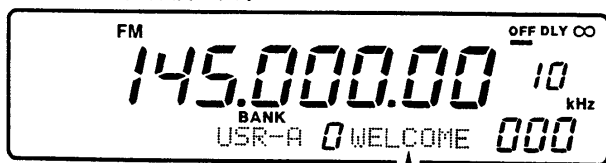
※リセット操作を行った場合は、メモリーチャンネルの内容がすべて消去されます。再度運用に必要な周波数やモードなどの情報を書き込んでください。



POWER スイッチ

MW スイッチ

■リセット操作後の表示



約2秒間点灯する

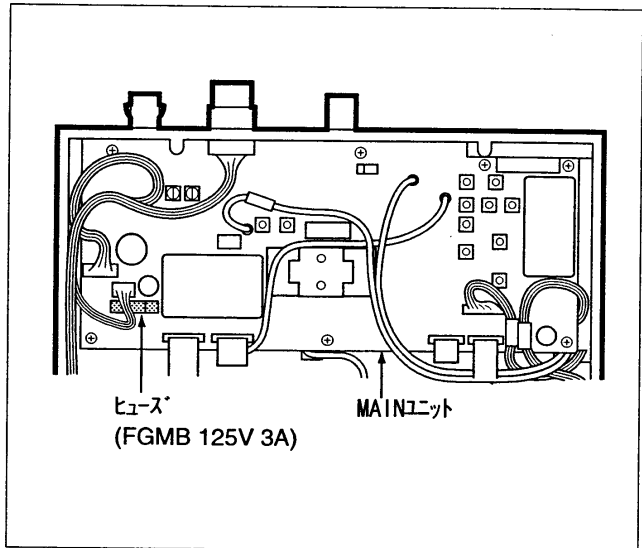
10-3 ヒューズの交換

ヒューズが切れ、本機が動作しなくなった場合は、原因を取り除いた上で、定格のヒューズと交換してください。

なお、ヒューズはMAINユニットの内部と、付属のDC電源コードについています。

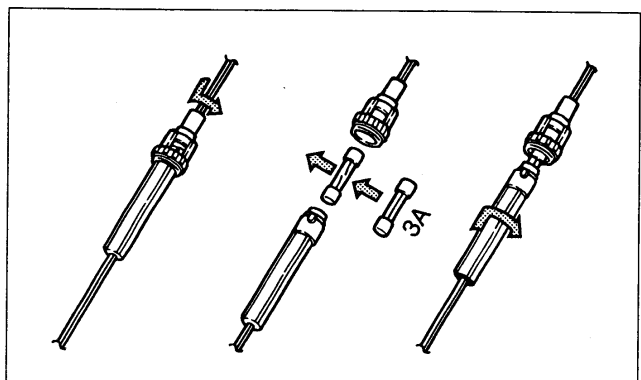
1.MAINユニットのヒューズ

- ①分解手順(☞P59)にしたがって、上カバーを外します。
- ②切れたヒューズを取り出し、新しいヒューズ(3A)に取り替えます。
- ③上カバーを元どおりに取り付けます。



2.DC電源コードのヒューズ

- ①下図を参照して、DC電源コードのヒューズホルダーを開きます。
- ②切れたヒューズを取り出し、新しいヒューズ(3A)に取り替えます。
- ③元どおりにヒューズホルダーを閉じます。



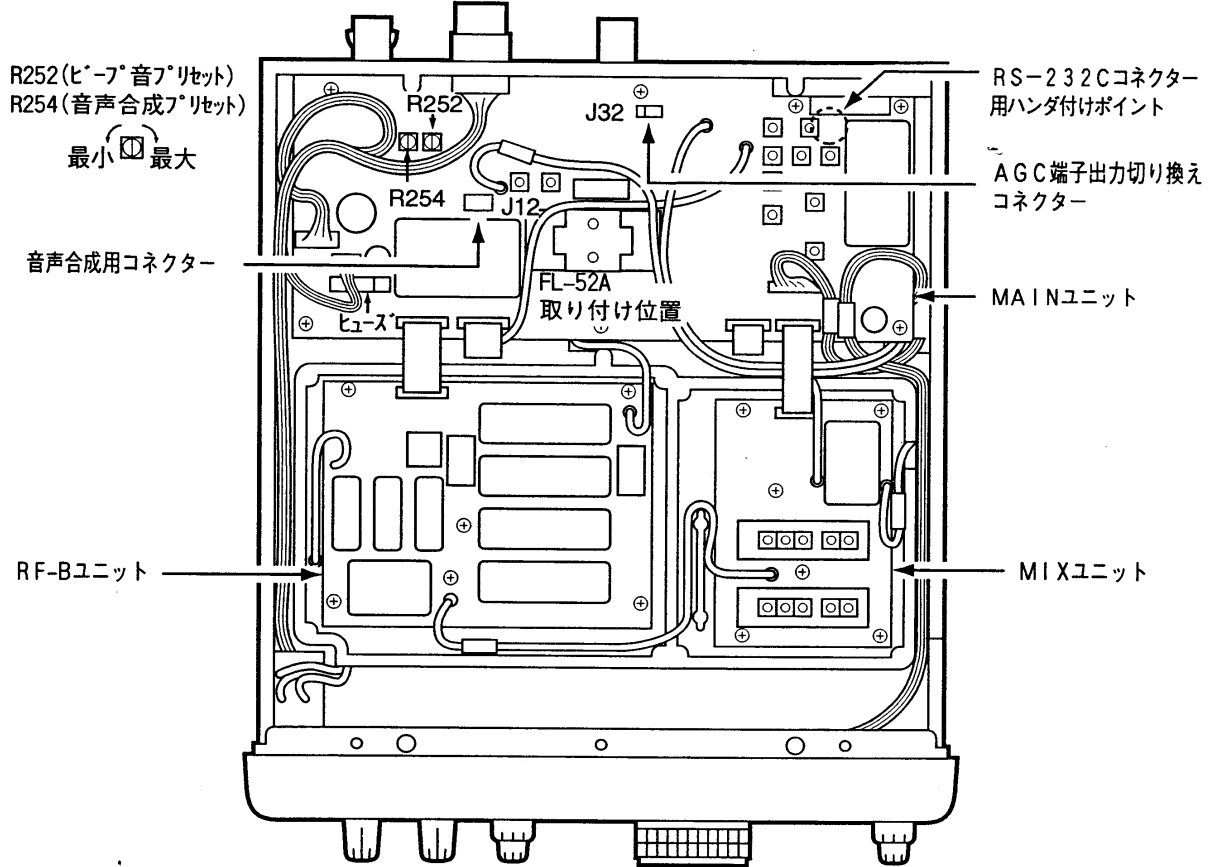
10 保守について

10-4 トラブルシューティング

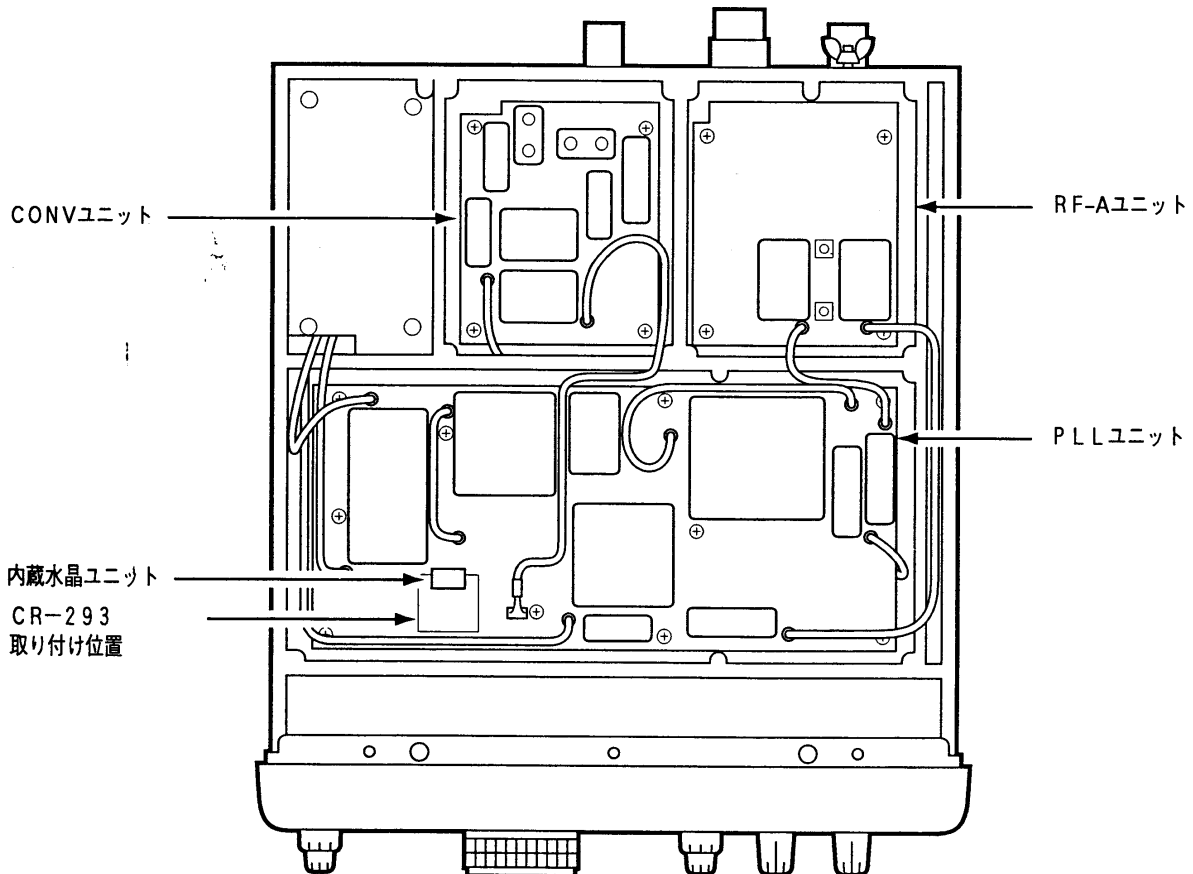
故障と思われるときでも、もう一度下表にしたがって点検、確認してください。

状態	原因	処置	参考
●電源が入らない	◎電源コードの接続不良 ◎電源コネクターの接触不良 ◎ヒューズの断線 ◎スリープタイマー機能が動作している	○接続をやりなおす ○接続ピンを点検する ○原因を取り除き、ヒューズを交換する ○いったん電源を切り、再度電源を入れる	P12、14 P11 P56 P3、53
●スピーカーから音がでない	◎AF GAIN ツマミが反時計方向に回し切っている ◎SQUELCH ツマミが時計方向に回し切っている ◎PHONES ジャックにヘッドホンが接続されている ◎外部スピーカーの接続ケーブルが切れている	○AF GAIN ツマミを時計方向に回し、聞きやすい音量にする ○SQUELCH ツマミを反時計方向に回す ○ヘッドホンをはずす ○接続ケーブルを点検し正常にする	P4、20 P4、20 P3 P11、12
●感度が悪く、強力な局しか聞こえない	◎ATT スイッチがONになっている ◎SQUELCH ツマミが時計方向に回し切っている ◎アンテナの不良または同軸ケーブルのショート・断線 ◎受信している周波数とアンテナの受信できる周波数範囲が適合していない	○ATT スイッチをOFFにする ○SQUELCH ツマミを反時計方向に回す ○アンテナと同軸ケーブルを点検し正常にする ○受信している周波数に適合したアンテナを接続する	P5、27 P4、20 P11、13、14 P11、13
●SSBの受信音が、正常な音にならない	◎サイドバンド (USB/LSB) の指定が違っている ◎IF SHIFT ツマミがどちらかに回し切っている	○SSB/CW スイッチを押して、USBまたはLSBを切り替えてみる ○IF SHIFT ツマミを12時方向に回す	P4、20、24 P4、28
●FM放送、テレビ放送の受信音が正常な音にならない	◎電波型式の指定が違っている	○WFM スイッチを押して、WFMにする	P4、20、23
●メインダイヤルを回しても周波数が設定できない	◎SPCH/LOCK スイッチがONになっている ◎メモリーチャンネルがブランク状態になっている	○SPCH/LOCK スイッチをOFFにする ○一旦、テンキーで周波数をセットする	P5、54 P21
●テンキーによるダイレクトエンターができない	◎ダイレクトエンターのしかたがまちがっている	○正しいダイレクトエンターを行う	P21
●スキャン操作してもスキャンしない	◎SQUELCH ツマミをセットしていない	○SQUELCH ツマミをセットする	P4、20
●プログラムスキャンが動作しない	◎プログラムスキャン用エッジチャンネルに同じ周波数が書き込まれている	○プログラムスキャン用エッジチャンネルに違う周波数を書き込む	P47
●メモリスキャンが動作しない	◎メモリーチャンネルに周波数が書き込まれていない ◎メモリーチャンネルがブランク状態になっている	○メモリーチャンネルに周波数を書き込む ○リセットしたあとは、運用に必要な周波数や電波型式などをメモリーチャンネルに書き込んでおく	P35 P35
●モードスキャンが動作しない	◎目的の電波型式が他のメモリーチャンネルにない	○スキャンする電波型式を変更する	P4、46
●セレクトメモリスキャンが動作しない	◎“SEL-CH” が指定されていない	○“SEL-CH” の指定を2チャンネル以上する	P42、45
●メモリーの内容が変わっていない	◎呼び出しているメモリーの内容を変えて運用し、その内容を書き込んでいない	○メモリーに残しておきたい内容があるときは、必ずMW スイッチを押して書き込んでおく	P35
●タイマー予約が実行されない	◎SLEEP/SET スイッチがONになっていない	○SLEEP/SET スイッチを押して、スリープタイマー時間を選択する	P3、53
●SPCH/LOCK スイッチを押しても音声が出ない	◎音声合成ユニット (UT-102) を内蔵していない	○オプションの音声合成ユニット (UT-102) を装着する	P5、59

■上カバー側



■下カバー側



12 オプションユニットの取り付け

12-1 分解手順

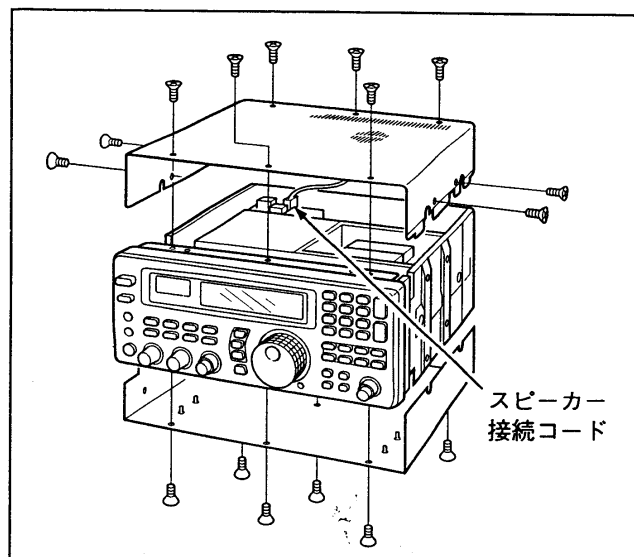
[POWER] スイッチは、必ずOFFにしてください。

電源ケーブルや他の接続コードを外して作業を行ってください。

1. 上下カバーの外しかた

上下カバーを取り付けている16本のネジを外します。(右図参照)

※上カバーを外すとき、スピーカーの接続コードを切らないように注意してください。



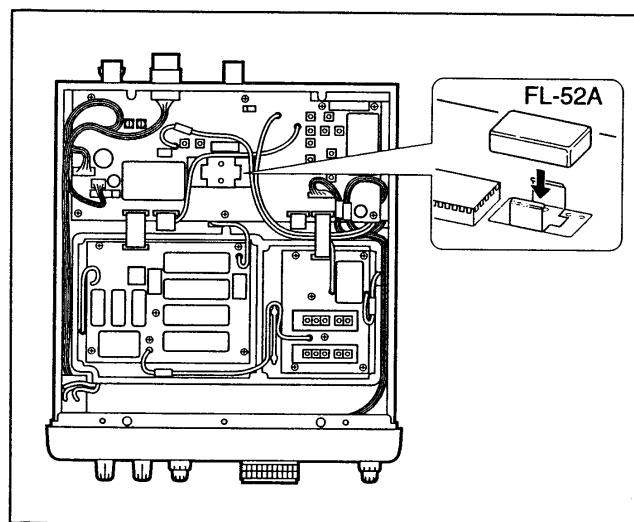
12-2 CW ナローフィルターの取り付けかた

①『上下カバーの外しかた』にしたがって、上カバーを外します。

②MAINユニットの取り付け位置にFL-52Aを差し込みます。

③上カバーを元どおり取り付けます。

- FL-52A (455 kHz 500 Hz / -6 dB)

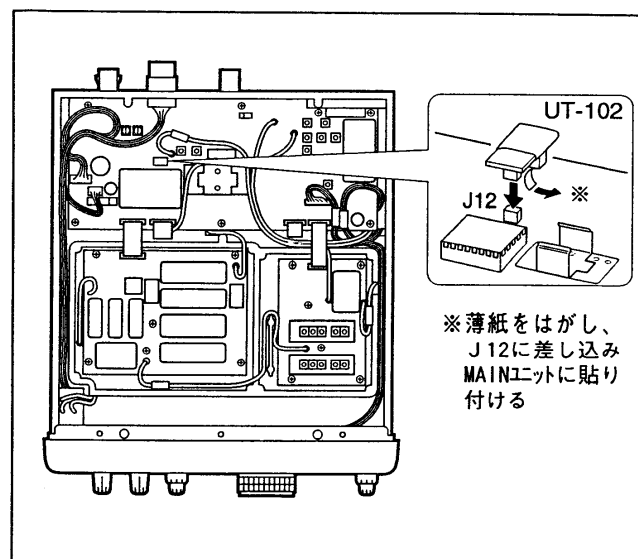


12-3 音声合成ユニットの取り付けかた

①『上下カバーの外しかた』にしたがって、上カバーを外します。

②MAINユニットのJ12にUT-102を差し込みます。

③上カバーを元どおり取り付けます。



12-4 高安定基準発振水晶ユニットの取り付けかた

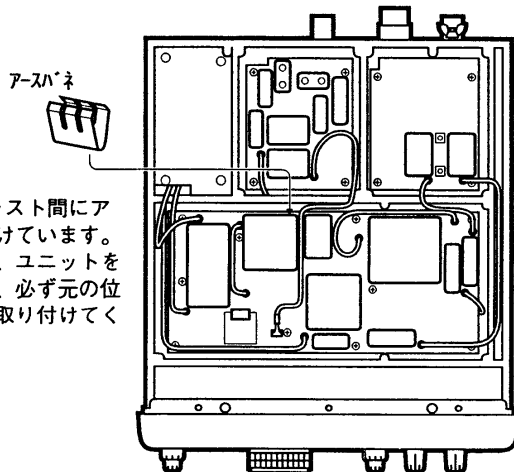
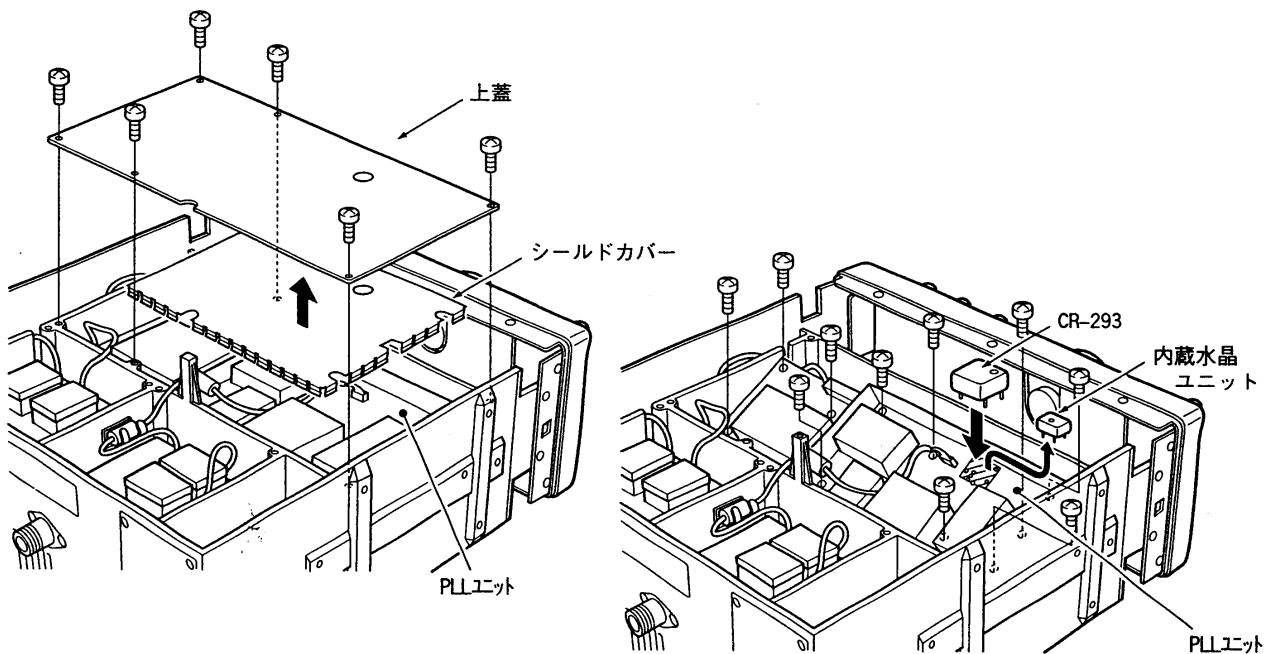
本機の周波数安定度をさらに優れたものにする、高安定基準発振水晶ユニットです。

- ①『上下カバーの外しかた』にしたがって、下カバーを外します。
 - ②PLLユニットの上蓋を取り付けしている6本のネジを外します。
 - ③PLLユニットのシールドカバーを外します。
 - ④PLLユニットを取り付けている10本のネジを外し、ユニットを開けます。
- ※PLLユニットとダイキャスト間にアースバネが取り付けられていますので、アースバネを取り外し、ユニットを開いてください。(下図参照)
- ⑤内蔵ユニット(X1)のハンダをとかして外します。

- ⑥CR-293取り付け位置に(下図参照)CR-293を挿入してハンダ付けします。
- ⑦取り付け完了後、PLLユニットを元どおりに取り付けます。

CR-293取り付け後、周波数の再調整が必要になりますので、弊社営業所サービス係にご相談ください。
 なお、CR-293は恒温槽タイプのため、周波数が安定するまでに数分(電源投入後、約30秒~2分)の通電時間が必要です。

■ CR-293 (PLLユニット) の取り付け



※ PLLユニットとダイキャスト間にアースバネを取り付けています。CR-293を組み込み、ユニットを組み立てるときは、必ず元の位置にアースバネを取り付けてください。

11 オプションユニットの取り付け

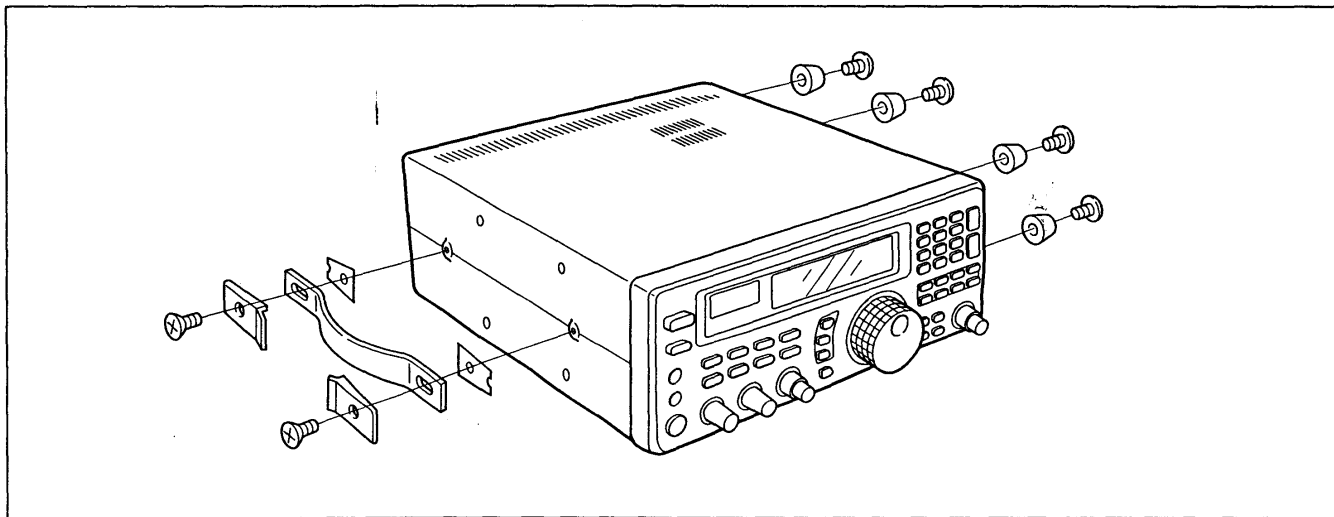
12-5 キャリング・ハンドルの取り付けかた

MB-23は、本機の持ち運びを便利にするキャリング・ハンドルと側面用ゴム足キットです。

MB-23は、本機に付属されているネジを使用して、キャリング・ハンドルと側面用ゴム足を取り付けてください。

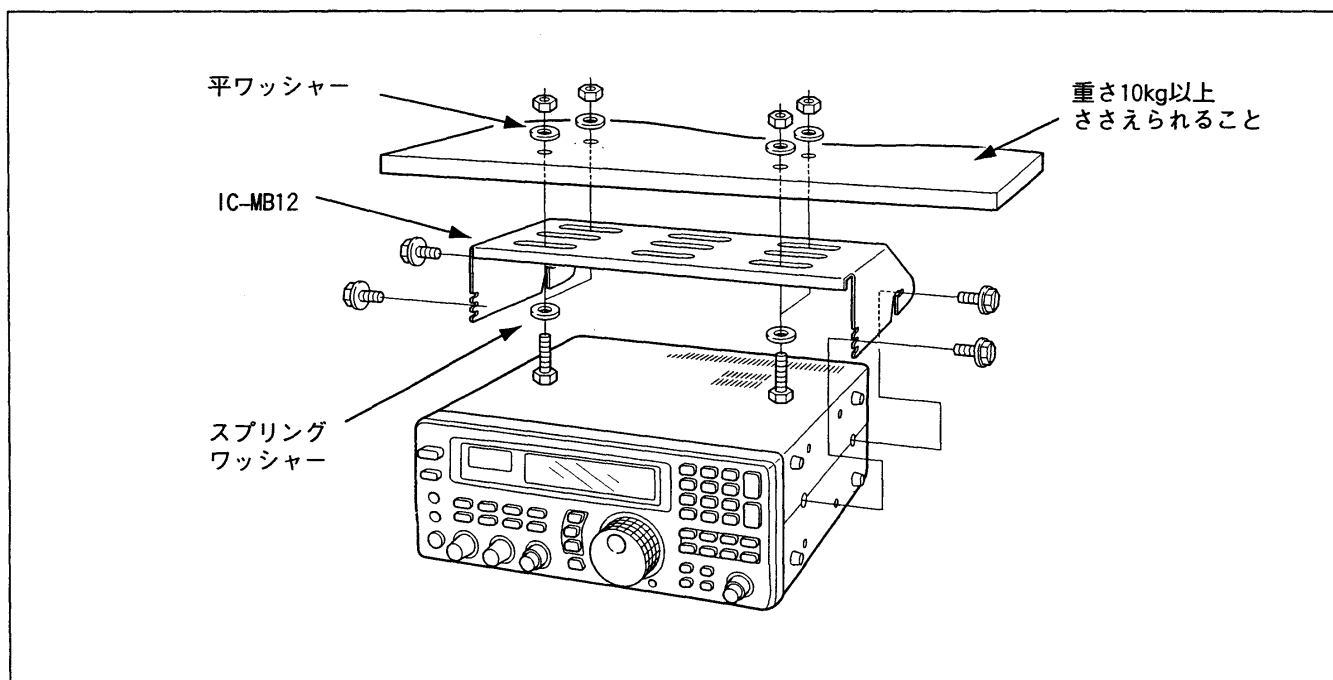
■ご注意

MB-23に付属されているネジを使用して、キャリングハンドルを取り付けた場合、完全に固定できず持ち運び時に落下する危険があります。

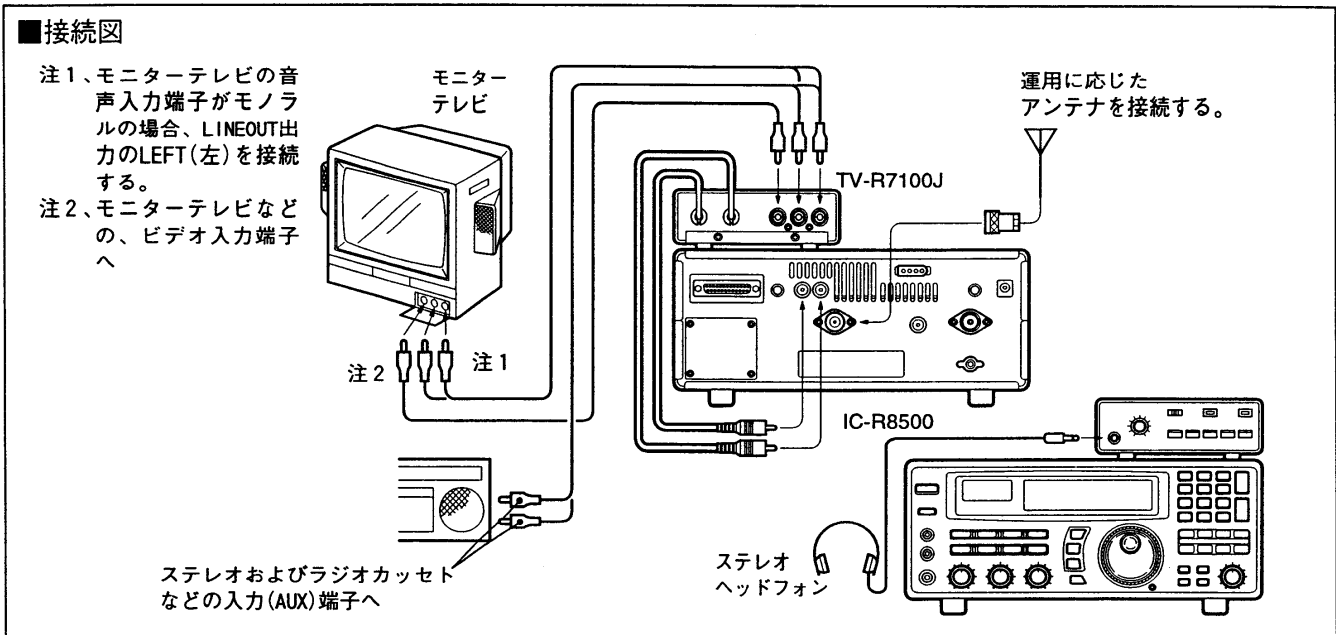


12-6 モービルブラケットへの取り付けかた

IC-MB12を図のように取り付け、本機に付属されている六角ボルトで固定してください。



12-7 TV-R7100Jの接続のしかた



1. TV (テレビ) の受信

- ① IC-R8500およびTV-R7100Jの電源をONにします。
また、接続している機器の電源もONにします。
- ② IC-R8500のMODEスイッチの〔WFM〕を押し、WFMモードを指定します。
- ③ TV-R7100JのFM/TVスイッチを〔TV〕にセットします。
- ④ IC-R8500のテンキーまたはメインダイヤルで、目的のテレビ局の音声周波数をセットしますと、モニターテレビに画像が現われます。
- ⑤ テレビの音声は、IC-R8500およびTV-R7100Jに接続されたステレオヘッドホンで聞くことができます。
また、TV-R7100Jの後面からのLINE OUT出力に接続されたステレオやラジオカセットなどで聞くことができます。

ご注意

鮮明な画像を得るためには、テレビ受信専用のアンテナを使用し、アンテナの方向や偏波面をテレビ送信局に合わせてください。

- ③ TV-R7100JのFM/TVスイッチを〔FM〕にセットします。
- ④ IC-R8500のテンキーまたはメインダイヤルで、目的のラジオ局に周波数をセットします。
- ⑤ ラジオの音声は、IC-R8500およびTV-R7100Jに接続されたステレオヘッドホンで聞くことができます。
また、TV-R7100Jの後面からのLINE OUT出力に接続されたステレオやラジオカセットなどで聞くことができます。

3. アマチュアテレビ (ATV) の受信

- ① IC-R8500およびTV-R7100Jの電源をONにします。
また、接続している機器の電源もONにします。
- ② IC-R8500のMODEスイッチの〔WFM〕を押し、WFMモードを指定します。
- ③ TV-R7100JのFM/TVスイッチを〔TV〕にセットします。
- ④ IC-R8500のテンキーまたはメインダイヤルで、周波数をセットします。
- ⑤ 音声は、IC-R8500およびTV-R7100Jに接続されたステレオヘッドホンで聞くことができます。

ご注意

IC-R8500は音声周波数に周波数をセットします。アマチュアテレビの場合、映像周波数+4.5MHzがIC-R8500のセット周波数となります。

2. FM ラジオの受信

- ① IC-R8500およびTV-R7100Jの電源をONにします。
また、接続している機器の電源もONにします。
- ② IC-R8500のMODEスイッチの〔WFM〕を押し、WFMモードを指定します。

13 定 格

- 受信周波数範囲： 0.10000~252.90000 MHz 255.10000~261.90000 MHz 266.10000~270.90000 MHz
 275.10000~379.90000 MHz 382.10000~411.90000 MHz 415.10000~809.90000 MHz
 834.10000~859.90000 MHz 889.10000~914.90000 MHz 960.10000~1999.99999 MHz
- 電波型式： WFM/FM/AM/SSB/CW
- 電源電圧： DC 13.8V ±15% AC 100V ±10% (50/60 Hz) [AD-55J使用時]
- 接地方式： マイナス接地
- 消費電流： 待ち受け時：1.8A AF最大出力時：2.0A
- アンテナインピーダンス： VHF/UHF 50Ω HF 50Ω/500Ω
- 使用温度範囲： -10°C~+50°C
- 周波数安定度： <30MHz ±100Hz (-10°C~+50°C) ≥30MHz ±3ppm (-10°C~+50°C)
- 外形寸法： 287(W) × 112(H) × 309(D) mm (突起物含まず)
- 重量： 約7kg
- 受信方式： スーパーヘテロダイン方式
- 中間周波数：

	<30MHz	30~<500MHz	500~<1025MHz
1st	48.8MHz	778.7MHz	266.7MHz
2nd	10.7MHz	10.7MHz	10.7MHz
3rd	455kHz*	455kHz*	455kHz*

※ WFM モードを除く

1025MHz 以上はコンバーター方式

コンバーター用 Lo = 500MHz (1025~1199.99999 MHz Rx)

1000MHz (1200~1989.99999 MHz Rx)

1010MHz (1990~1999.99999 MHz Rx)

- 受信感度：

周波数範囲 (MHz)	モード					
	SSB/CW (10dB S/N)	AM (10dB S/N)	AM NAR (10dB S/N)	AM WIDE (10dB S/N)	FM (12dB SINAD)	WFM (12dB SINAD)
0.1~0.49999	0dBμ (1μV) 以下	16dBμ (6.3μV) 以下				
0.5~1.79999	6dBμ (2μV) 以下	22dBμ (13μV) 以下				
1.8~1.99999	-12dBμ (0.25μV) 以下	10dBμ (3.2μV) 以下	8dBμ (2.5μV) 以下			
2.0~29.99999	-14dBμ (0.2μV) 以下	8dBμ (2.5μV) 以下	6dBμ (2μV) 以下			
28~29.99999					-6dBμ (0.5μV) 以下	
30~999.99999	-10dBμ (0.32μV) 以下	8dBμ (2.5μV) 以下	6dBμ (2μV) 以下	10dBμ (3.2μV) 以下	-6dBμ (0.5μV) 以下	3dBμ (1.4μV) 以下
1240~1300	-10dBμ (0.32μV) 以下	8dBμ (2.5μV) 以下	6dBμ (2μV) 以下	10dBμ (3.2μV) 以下	-6dBμ (0.5μV) 以下	6dBμ (2μV) 以下

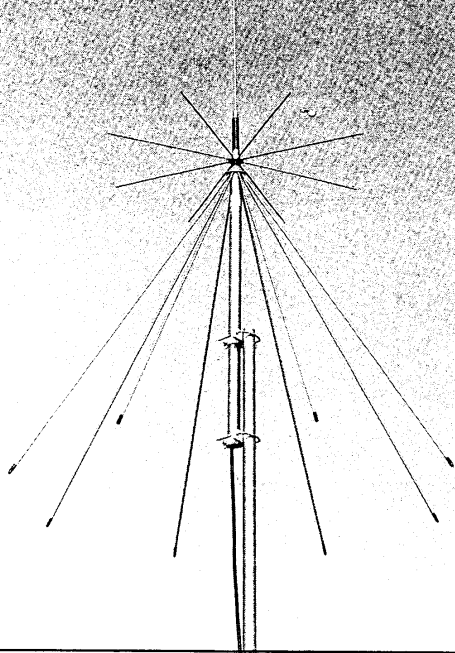
(ただし、BW = WFM 150kHz, FM/AM WIDE 12kHz, AM 5.5kHz, SSB/CW/AM NAR 2.2kHz)

- スケルチ感度： [Threshold]

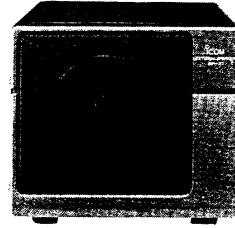
1.8~29.99999 MHz	SSB/CW/AM NAR	20dBμ (10μV) 以下
	AM/AM WIDE	-6dBμ (0.5μV) 以下
28~29.99999 MHz	FM	-6dBμ (0.5μV) 以下
30~1000, 1240~1300 MHz	FM/AM/AM WIDE	-8dBμ (0.4μV) 以下
	WFM/SSB/CW/AM NAR	13dBμ (4.5μV) 以下
- [Tight]

1.8~29.99999 MHz	FM/AM/SSB/CW	110dBμ (320mV) 以下
30~1000, 1240~1300 MHz	ALL-MODE	110dBμ (320mV) 以下
- 選択度： WFM 150kHz / -6dBμ
 FM/AM WIDE 12kHz / -6dBμ
 FM NAR/AM 5.5kHz / -6dBμ
 AM NAR/SSB/CW 2.2kHz / -6dBμ
 CW NAR (Option) 500Hz / -6dBμ
- スプリアス妨害比： 1.8~29.99999 MHz 60dB 以上
 30~1000, 1240~1300 MHz 50dB TYP.
- 低周波出力： 2W 以上 (8Ω 10%歪率時)
- 低周波負荷インピーダンス： 4~8Ω
- I F S H I F T 可変範囲： ±1.2kHz 以上

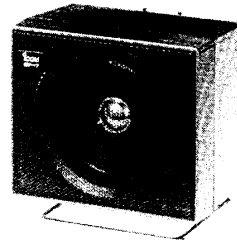
■ AH-7000 (超広帯域ディスコーンアンテナ)
[25~1300MHz]



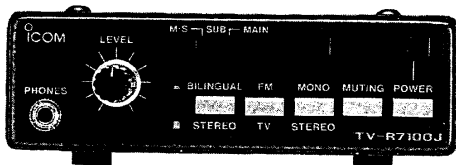
■ SP-21 (外部スピーカー)



■ SP-7 (外部スピーカー)



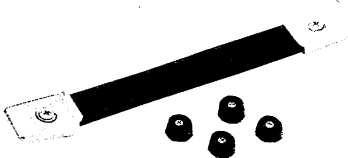
■ TV-R7100J (TV/FMアダプター)



■ CT-17 (CI-Vレベルコンバーター)



■ MB-23 (キャリングハンドル)



■ IC-MB12 (モバイルブラケット)



■ CR-293	高安定基準発振水晶ユニット
■ FL-52 A	CW ナローフィルター (455 kHz 500 Hz / -6 dB)
■ UT-102	音声合成ユニット (和英切り替え可能)

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本社	547 大阪市平野区加美東6丁目9-16	TEL (011)251-3888
北海道営業所	060 札幌市中央区大通東9丁目14	TEL (022)285-7785
仙台営業所	984 仙台市若林区若林1丁目13-48	TEL (03)5600-0331
東京営業所	130 東京都豊田區緑1丁目22-14	TEL (052)842-2288
名古屋営業所	466 名古屋市昭和区長戸町2丁目16-3	TEL (0762) 91-8881
金沢出張所	921 金沢市高島1丁目335	TEL (06)793-0331
大阪営業所	547 大阪市平野区加美南1丁目8-35	TEL (082)295-0331
広島営業所	733 広島市西区観音本町2丁目10-25	TEL (0878) 35-3723
四国営業所	760 高松市塩上町2丁目1-5	TEL (092)541-0211
九州営業所	815 福岡市南区塩原4丁目5-48	

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。